

# 第59回 全国スポーツ推進委員研究協議会 鹿児島大会

「スポーツの力で輝く未来！」  
～明治維新150周年! スポーツに新たな風を鹿児島から～



西郷隆盛銅像

指宿砂むし温泉



鹿児島黒牛



むつまじ料理

縄文杉

弥五郎どん祭り

薩摩切子

大会期間

平成30年11月15日(木)・16日(金)

1日目

全体会 鹿児島県鹿児島市(鹿児島アリーナ)

2日目

第1分科会 鹿児島アリーナ メインアリーナ

第2分科会 鹿児島市民文化ホール 第1ホール

第3分科会 鹿児島市民文化ホール 市民ホール

第4分科会 鹿児島市民文化ホール 第2ホール



ぐりぶー

さくら

# 目次

CONTENTS

目 程	2
主催者挨拶	5
スポーツ庁長官	5
公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合 会長	6
鹿児島県教育委員会 教育長	7
第59回全国スポーツ推進委員研究協議会 鹿児島県実行委員会 委員長	8
歓迎の言葉	
鹿児島県知事	9
鹿児島市長	10
開催要項	11
全体会地域別席割り	17
各会場案内図及びアクセス	18
アトラクション	20
被表彰者名簿	
文部科学大臣表彰	21
全国スポーツ推進委員連合優良団体表彰	23
スポーツ推進委員功労者表彰	25
30年勤続スポーツ推進委員表彰	28
退任役員・一般賛助会員	32
特別賛助会員	34
講 演	
「水泳と私」 柴田 亜衣 氏	35
シンポジウム	
「スポーツで輝く未来に向けて」～スポーツで創る強い絆と活力ある地域社会づくりを目指して～	37
分科会	43
第1分科会「スポーツで輝く未来を楽しく!」～地域の課題を解決するスポーツクラブの実現を目指して～	43
第2分科会「スポーツで輝く未来を元気に!」～健康で生き生きと暮らせる長寿社会の実現を目指して～	61
第3分科会「スポーツで輝く未来を笑顔に!」～障害者と健常者が共に実践できる生涯スポーツを目指して～	77
第4分科会「スポーツで輝く未来を明るく!」～スポーツと観光が結びついた地域の活性化を目指して～	89
大会参加者名簿	105
実行委員会名簿	120

# 第1日

11月15日(木) 鹿児島アリーナ

受付開始  
(11:00~)

歓迎アトラクション  
(12:00~12:20)

開会式  
(12:30~13:00)

表彰式  
(13:00~13:40)

- (1) 鹿児島実業高校新体操部による演技
- (2) 鹿児島県1級指導士有志によるラジオ体操第1
- (1) 開会の言葉 鹿児島県実行委員会委員長 **大田黒 博**
- (2) 挨拶 スポーツ庁審議官 **藤江 陽子**  
公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合会長 **齊藤 斗志二**
- (3) 歓迎の言葉 鹿児島県知事 **三反園 訓**  
鹿児島市長 **森 博幸**
- (4) 登壇者紹介
- (5) 次期開催地挨拶 三重県スポーツ推進委員協議会 会長 **馬場 宏**
- (1) 文部科学大臣表彰 代表：鹿児島県 **荒武 邦男**
- (2) 全国スポーツ推進委員連合表彰  
ア 優良団体表彰 代表：三重県 **松本 忠靖**  
イ スポーツ推進委員功労者表彰 代表：栃木県 **野口 俊明**
- (3) 謝辞 代表：鹿児島県 **荒武 邦男**
- (4) 全国スポーツ推進委員連合感謝状贈呈  
ア 30年勤続スポーツ推進委員感謝状 代表：鹿児島県 **東村 学**  
イ 退任役員等感謝状 代表：宮崎県 故 **小岩屋 健兒**  
ウ 賛助会員感謝状  
一般賛助会員 代表：鹿児島県 **前田 健二郎**  
特別賛助会員 代表：公益財団法人ライフスポーツ財団  
理事長 **清水 進**

講演  
(13:40~15:00)

シンポジウム  
(15:20~16:40)

演題 **「水泳と私」**

講師 **柴田 亜衣**  
(アテネ五輪 女子800M自由形 金メダリスト)

テーマ **「スポーツで輝く未来に向けて」**

～スポーツで創る強い絆と活力ある  
地域社会づくりを目指して～

コーディネーター 筑波大学 体育系 教授 **柳沢 和雄**

シンポジスト 早稲田大学 スポーツ科学学術院 教授 **作野 誠一**

NPO法人 日本健康加齢推進機構 理事 **小澤 多賀子**

立命館大学 産業社会部 教授 **金山 千広**

拓殖大学 商学部 准教授 **松橋 崇史**

## 第2日

分科会  
(9:30~11:30)

11月16日(金) 鹿児島アリーナ  
鹿児島市民文化ホール 市民ホール／第1・第2ホール

〈第1分科会〉 鹿児島アリーナ

テーマ **「スポーツで輝く未来を楽しく！」**  
～地域の課題を解決するスポーツクラブの  
実現を目指して～

コーディネーター 早稲田大学 スポーツ科学学術院 教授 **作野 誠一**

〈第2分科会〉 鹿児島市民文化ホール第1ホール

テーマ **「スポーツで輝く未来を元気に！」**  
～健康で生き生きと暮らせる長寿社会の  
実現を目指して～

コーディネーター NPO法人 日本健康加齢推進機構 理事 **小澤 多賀子**

〈第3分科会〉 鹿児島市民文化ホール市民ホール

テーマ **「スポーツで輝く未来を笑顔に！」**  
～障害者と健常者が共に実践できる  
生涯スポーツを目指して～

コーディネーター 立命館大学 産業社会部 教授 **金山 千広**

〈第4分科会〉 鹿児島市民文化ホール第2ホール

テーマ **「スポーツで輝く未来を明るく！」**  
～スポーツと観光が結びついた地域の  
活性化を目指して～

コーディネーター 拓殖大学 商学部 准教授 **松橋 崇史**



スポーツ庁長官

## 鈴木 大地

第59回全国スポーツ推進委員研究協議会が、ここ鹿児島県において盛大に開催されますことを、心よりお喜び申し上げます。

全国のスポーツ推進委員の皆様におかれましては、日頃から地域スポーツの推進役として、熱心に各種スポーツ活動に取り組んでいただいておりますことに深く敬意を表します。

スポーツ庁では、第2期スポーツ基本計画で掲げられた「成人の週1回以上のスポーツ実施率65%程度」の目標達成に向けて、本年9月に「スポーツ実施率向上のための行動計画」を策定しました。本行動計画は、一人でも多くの方がスポーツに親しむ社会の実現を目的とし、生活の中に自然とスポーツが取り込まれている「スポーツ・イン・ライフ」(生活の中にスポーツを)という姿を目指しています。

その中で、国、地方自治体、全国スポーツ推進委員連合が連携し、総合型地域スポーツクラブやスポーツ団体等との連携・協働を促進することができるよう、スポーツ推進委員の活用を促進するとともに、その資質向上を図ることも取組の一つとして位置づけており、皆様の活躍に一層の期待を寄せているところです。

皆様におかれましては、引き続き、地域スポーツのリーダーであり、コーディネーターとして、多くの役割を果たしていただくため、「スポーツの力で輝く未来!」～明治維新150周年!スポーツに新たな風を鹿児島から～をテーマに開催されます本研究協議会において、将来の地域スポーツの可能性について大いに意見を交わし、得られた成果を現場に持ち帰っていただき、今後とも地域スポーツの振興やスポーツを通じた地域づくりなどに貢献いただきますようお願いいたします。

結びに、本研究協議会の開催に御尽力いただきました、本研究協議会鹿児島県実行委員会、公益社団法人全国スポーツ推進委員連合、鹿児島県教育委員会、鹿児島市教育委員会をはじめ、関係の皆様にご心よりお礼を申し上げますとともに、本研究協議会が皆様にとって実り多いものとなりますよう祈念いたしまして、御挨拶といたします。



公益社団法人  
全国スポーツ推進委員連合

会長 齊藤 斗志二

全国各地から多数のスポーツ推進委員並びに生涯スポーツ関係者の皆様方をお迎えして、「第59回全国スポーツ推進委員研究協議会」が鹿児島市で盛大に開催されますことは、主催者の一人としてこの上ない喜びであり、ご参加の皆様方に心より厚く御礼申し上げます。

今年のNHK大河ドラマ「せごどん」もいよいよ佳境に入り、地元鹿児島の言葉も耳になじんで来ました。地元と言え、今年ロシアで開催されたFIFAワールドカップ2018で活躍した大迫勇也選手も鹿児島出身で、それこそ「半端ない」活躍で日本中を熱狂させてくれました。

サッカーに限らず、何事も、先を見据えて行動することは大切です。すでに「人生100年時代」がそこまで来ている我が国では、スポーツ推進委員にも、過去の常識にとらわれない豊かな発想力が求められているように感じています。

全国研究協議会は、スポーツ推進委員として必要な発想力を身に付け、如何に行動に結びつけるかを学ぶのに大変有意義な機会だと思います。

過去の常識にとらわれない二刀流の大谷翔平選手や、政府が提唱する働き方改革で、世の中、二刀流がもてはやされていますが、もともとスポーツ推進委員の皆様多くは二刀流なのではないでしょうか。忙しい中、時間を割いてスポーツ推進委員として活動を継続することは容易ではありません。

一方、私が常に思うことは、皆様の活動が、スポーツ基本法に謳う「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営む」という人々の権利を保障していること、そのことに自信と誇りを持っていただきたいということです。

皆様には、この研究協議会を通じ、改めてスポーツ推進委員の役割を認識され、今後のスポーツ文化の発展に、今以上に寄与されるよう願っております。

最後に、今回の研究協議会の開催に当り、ご指導をいただきましたスポーツ庁をはじめ、多大なるご尽力をいただきました鹿児島県、鹿児島市、第59回全国スポーツ推進委員研究協議会鹿児島県実行委員会の皆様に対し、心から感謝申し上げます挨拶といたします。



鹿児島県教育委員会

教育長 東條 広光

全国各地から、多数のスポーツ推進委員及び関係の皆様を鹿児島県にお迎えし、第59回全国スポーツ推進委員研究協議会鹿児島大会が盛大に開催されますことは誠に喜ばしく、心から歓迎申し上げます。

また、皆様には、日頃から地域に密着したスポーツ活動を通じて、生涯スポーツの普及・促進に御尽力いただいておりますことに対し、心から感謝申し上げます。

現在、我が国は、少子高齢化や情報化の進展、地域社会の空洞化や人間関係の希薄化が進行する中、人々が健康に長寿を享受できる社会を実現することが必要であり、スポーツには大きな貢献が期待されております。一方、平成29年度の成人のスポーツ実施率は51.5%で、成人の半数近くはほとんどスポーツをしていないという状況があることから、特にスポーツ実施率の低い層への対策が一層重要になってきております。

スポーツ庁では、第2期スポーツ基本計画で掲げた「成人の週1回以上のスポーツ実施率65%程度」の目標達成に向けて、平成30年9月に「スポーツ実施率向上のための行動計画」を策定し、生活の中に自然とスポーツが取り込まれている「スポーツ・イン・ライフ」という姿を目指しております。

スポーツ実施率の向上により、スポーツに親しみ、スポーツに参画する習慣を広げていくことは、体力の向上や健康の保持増進、ひいては、健康寿命の延伸に寄与することから、当県では、スポーツを通して支え合うことのできる活力ある社会づくりを目指す「マイライフ・マイスポーツ運動」に取り組んでいるところです。

また、2020年の第75回国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」及び第20回全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動かごしま大会」の開催に向け、県民一丸となって、スポーツの普及・振興を推進しているところです。

このような中、当県において、全国のスポーツ推進委員及び関係の皆様が一堂に会され、「『スポーツの力で輝く未来!』～明治維新150周年!スポーツに新たな風を鹿児島から～」のテーマのもと、本大会が開催されますことは、誠に意義深く、参加される皆様の御意見や御示唆に基づく取組が、今後のスポーツ推進委員の資質向上はもとより、活動の充実、発展につながるものと期待しております。

終わりに、本大会の開催に御尽力されました関係の皆様には深く敬意を表しますとともに、本大会の御成功と皆様の益々の御健勝と御活躍を心から祈念いたしまして、挨拶といたします。



鹿児島県実行委員会

委員長 **大田 黒 博**

(鹿児島県スポーツ推進委員協議会会長)

第59回全国スポーツ推進委員研究協議会鹿児島大会が、全国各地から多くのスポーツ推進委員並びにスポーツ関係の皆様をここ鹿児島県にお迎えし、盛大に開催されますことは、この上ない喜びであり、鹿児島県内約1,100名のスポーツ推進委員の仲間とともに、心から歓迎申し上げます。

また、地域スポーツの振興に永年にわたり尽力された功績が認められ、この度、文部科学大臣表彰をはじめ、全国スポーツ推進委員連合の各種表彰を受賞される皆様方に、心からお祝いを申し上げます。

急速な少子高齢化や人口減少、地域コミュニティーの希薄化が進む我が国において、健康増進及び地域活性化を図る上で、生涯スポーツが果たす役割は極めて重要なものです。

あと2年後に迫った2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会は、国民がスポーツに親しむ機運をより一層高める絶好の機会であり、一人でも多くの方がスポーツに親しむ社会の実現を目的とし、生活の中に自然とスポーツが取り込まれている「スポーツ・イン・ライフ」という姿をスポーツ庁は目指しています。

このような中、鹿児島大会では、「スポーツの力で輝く未来!」～明治維新150周年!スポーツに新たな風を鹿児島から～を大会テーマとし、子供から高齢者、そして障害のあるなしにかかわらず、すべての人々がスポーツを通じて、地域社会との絆を深めるために、地域スポーツのコーディネーター役であるスポーツ推進委員の果たすべき役割や今後の方向性等について研究協議をしていきたいと考えております。

なお、1日目の記念講演では、鹿屋体育大学4年時に、アテネ五輪女子800m自由形で金メダルを獲得した自らの水泳の経験や現在、幅広いスポーツの振興・普及活動をされている柴田亜衣さんに、「水泳と私」と題して講演していただきます。その後のシンポジウムでは、各分野のスペシャリストであるシンポジストが、それぞれの立場から意見交換を行います。

また、2日目の分科会では、シンポジストが各分科会のコーディネーターとなり、事例発表を通じて、今後の活動に対する課題解決の糸口となるよう、研究協議を深めていただきたいと考えております。

終わりに、本大会の開催にあたり、御支援、御協力を賜りましたすべての関係者の皆様に深く感謝を申し上げますとともに、御参加の皆様方の益々の御健勝と御活躍を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。



鹿児島県知事

## 三反園 訓

第59回全国スポーツ推進委員研究協議会鹿児島大会が、全国各地からスポーツ推進委員をはじめ関係の皆様多数御参加のもと、盛大に開催されますことをお喜び申し上げますとともに、鹿児島へお越しの皆様を心から歓迎いたします。また、日頃から地域スポーツのコーディネーター役として、御活躍いただいておりますスポーツ推進委員の皆様に深く敬意を表します。

さて、生涯スポーツは、健康の保持・増進や生きがいづくり、さらには、地域活性化を図る上で重要な役割を果たしております。子供から高齢者、障害者まで全ての方々が、それぞれのライフステージに応じて、豊かなスポーツライフを営むことができるよう、いつでも、どこでも、いつまでも、スポーツに親しめる環境づくりは重要な課題となっております。

こうした中、全国各地からスポーツ推進委員が一堂に会し、「スポーツの力で輝く未来！」～明治維新150周年！スポーツに新たな風を鹿児島から～をテーマに本大会が開催されますことは、生涯スポーツ振興の今後の在り方や課題の解決、スポーツ推進委員の役割について議論が深まるとともに、地域を越えた交流の輪が広がることが期待されます。

また、当県では、2020年に第75回国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」及び第20回全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動かごしま大会」が開催されます。このような中、本大会が、当県で開催されますことは、生涯スポーツの振興と国体に向けた機運醸成という観点からも誠に意義深いものがあります。

さて、当県は、雄大な「自然」や豊富な「食」、歴史や文化に彩られた魅力ある「観光資源」など、全国へ、世界へ誇れる一流の素材に恵まれております。明治維新150周年の記念すべき節目に当たる今年は、記念式典をはじめ、関連する様々なイベントを、県内各地で展開しており、県の新キャッチコピー「どんどん鹿児島」を合言葉に、この魅力ある鹿児島を国内外に向け、どんどんPRしているところです。皆様も是非、この機会に、鹿児島でしか味わえない魅力を存分に御堪能いただければ幸いです。

終わりに、本大会の開催に尽力されました関係の皆様には深く敬意を表しますとともに、大会の御成功をお祈り申し上げまして、歓迎のことばといたします。



鹿児島市長

森 博幸

第59回全国スポーツ推進委員研究協議会鹿児島大会が、本市において盛大に開催されますことをお慶び申し上げますとともに、全国各地からお越しいただきました皆様方を、市民を代表して心から歓迎申し上げます。

スポーツ推進委員の皆様におかれましては、日頃から、地域スポーツのリーダー・コーディネーターとして、活力ある地域社会づくりを推進しておられますことに、深く敬意を表します。

本市におきましては、「スポーツが 人を育み結ぶ かがしま市」を掲げ、だれもが、いつでも、どこでも、親しめるスポーツ・レクリエーションの推進と活力あるまちづくりに取り組んでおり、この度、委員の皆様を全国からお迎えし、本大会が開催されますことは、本市が取り組んでいるライフステージに応じたスポーツ活動の推進にとりましても、誠に意義深いものでございます。

すべての人々が主体的にスポーツに取り組み、その楽しみを味わうために、スポーツ推進委員の役割はますます重要になってきております。委員の皆様には、講演や分科会を通して研鑽を深めていただきますとともに、互いの親睦を図り、有意義な大会となりますことを心より願っております。

ところで、今年は明治維新150年の節目の年にあたり、大河ドラマ「西郷(せご)どん」の放送などもあり、鹿児島は広く県内外から注目を集めております。また、2年後の2020年には、国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会が開催されます。皆様方にはぜひこの機会に、錦江湾と活火山桜島が織りなす雄大な自然景観や市内各所に湧き出る温泉、黒豚や黒牛をはじめとする豊かな食文化など、鹿児島の多彩な魅力を味わっていただき、大会の大きな成果とともに、楽しい思い出もお持ち帰りいただければ幸いです。

結びに、本大会の開催にあたりご尽力いただきました関係の皆様方に深く敬意を表しますとともに、大会のご成功とご参加の皆様の益々のご健勝を祈念いたしまして歓迎のあいさついたします。

第59回全国スポーツ推進委員研究協議会 鹿児島大会

# 開催要項

本大会は、全国スポーツ推進委員研究協議会（以下「協議会」という。）の定例行事として開催される。協議会では、全国各都府県協議会、市町村協議会、青少年スポーツ推進委員会、国民体育協会の協賛により、毎年1回、全国を巡回して開催されている。本大会は、協議会が主催し、協議会が主催する大会である。

本大会の目的は、全国各都府県協議会、市町村協議会、青少年スポーツ推進委員会、国民体育協会の協賛により、全国を巡回して開催されている。本大会は、協議会が主催し、協議会が主催する大会である。

本大会の開催場所は、鹿児島県鹿児島市。本大会の開催期間は、平成30年11月15日（木）～16日（金）。

本大会の開催場所は、鹿児島県鹿児島市。本大会の開催期間は、平成30年11月15日（木）～16日（金）。

本大会の開催場所は、鹿児島県鹿児島市。本大会の開催期間は、平成30年11月15日（木）～16日（金）。

本大会の開催場所は、鹿児島県鹿児島市。本大会の開催期間は、平成30年11月15日（木）～16日（金）。

# 第59回全国スポーツ推進委員研究協議会 鹿児島大会 開催要項

## 大会テーマ

# 「スポーツの力で輝く未来！」

## ～ 明治維新150周年！スポーツに新たな風を鹿児島から～

多様な人々が、スポーツにおいてそれぞれの関心や適性に応じて主体的・継続的にスポーツ活動に親しみ、スポーツをとおして、強い絆で支え合うことのできる活力ある社会づくりを目指す上で、地域スポーツのリーダーであり、コーディネーターであるスポーツ推進委員はその役割を果たすことが求められています。

そこで、生涯スポーツの担い手でもあるスポーツ推進委員が果たすべき新たな役割や活動の方向性について、全体会のシンポジウムをはじめ、4つの分科会において研究協議を行います。

- 趣 旨** 全国のスポーツ推進委員が一堂に会し、スポーツ推進委員の目指す方向や地域スポーツの今日的な課題について研究協議し、スポーツ推進委員の資質向上を図るとともに、生涯スポーツの振興に資する。
- 主 催** スポーツ庁 公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合  
鹿児島県スポーツ推進委員協議会 鹿児島県教育委員会 鹿児島市教育委員会
- 主 管** 第59回全国スポーツ推進委員研究協議会鹿児島県実行委員会
- 後 援** 鹿児島県 鹿児島市
- 期 日** 平成30年11月15日(木)・16日(金)

## 6 会 場 ■第1日目 鹿児島アリーナ

鹿児島市永吉1丁目30番地1 TEL 099-285-2244

メインアリーナ -全体会-

## ■第2日目 鹿児島アリーナ

鹿児島市永吉1丁目30番地1 TEL 099-285-2244

メインアリーナ -第1分科会-

鹿児島市民文化ホール

鹿児島市与次郎2丁目3-1 TEL 099-257-8111

第1ホール -第2分科会-

市民ホール -第3分科会-

第2ホール -第4分科会-

7 対 象 スポーツ推進委員, 都道府県・市区町村生涯スポーツ担当者, その他スポーツ関係者

## 8 日 程

【第1日 11/15(木) 全体会】

11:00	12:00	12:30	13:40	15:00	15:20	16:40
受付	歓迎 アトラクション	開会式・表彰式	講演	休憩		シンポジウム

【第2日 11/16(金) 分科会】

9:00	9:30	11:30
受付	分科会	閉会

## 9 内 容

- (1) 講 演 演題 **「水泳と私」**  
 講師 柴田 亜衣 (アテネ五輪 女子800M自由形 金メダリスト)

## (2) シンポジウム

テーマ **「スポーツで輝く未来に向けて」**

～スポーツで創る強い絆と活力ある地域社会づくりを目指して～

多様な人々が主体的・継続的に様々なスポーツ活動に取り組むことは、地域の一体感や活力を醸成する力を持っています。今後、強い絆で結ばれ活力ある地域社会づくりを目指すために、スポーツ推進委員の果たすべき役割について、各シンポジストがそれぞれの立場から意見交換を行い、各分科会において研究協議を深めていくこととします。

- コーディネーター 柳沢 和雄 (筑波大学 体育系 教授)
- シンポジスト 作野 誠一 (早稲田大学 スポーツ科学学術院 教授)
- 小澤 多賀子 (NPO法人 日本健康加齢推進機構 理事)
- 金山 千広 (立命館大学 産業社会部 教授)
- 松橋 崇史 (拓殖大学 商学部 准教授)

## (3) 分科会

〈第1分科会〉 鹿児島アリーナ

テーマ **「スポーツで輝く未来を楽しく！」**

～地域の課題を解決するスポーツクラブの実現を目指して～

地域住民が主役の総合型地域スポーツクラブは、多様なスポーツに親しむことのできるように各地域でそれぞれ育み、発展させていくことを目指しています。

総合型クラブが、地域コミュニティの核となるために、多様なニーズや地域課題に応える新たな取組や形態等により充実・発展し、持続可能な「社会的な仕組み」として地域社会に定着し、地域住民と一体的によりよい地域づくりに貢献していくことが求められています。

そこで、本分科会では、地域住民と連携し、スポーツを通じた地域の課題解決に向けて、スポーツ推進委員の果たすべき役割について探ります。

- ◎コーディネーター 作野 誠一 (早稲田大学 スポーツ科学学術院 教授)
- [発表者①] 太田 敬介 (鹿児島県:NPO法人 SCC 理事長)
- [発表者②] 上杉 健太 (長野県:一般社団法人 たかぎスポーツクラブ  
理事・クラブマネジャー)
- [発表者③] 篠島 幹昌 (埼玉県:一般社団法人 ふじみ野ふあいぐるクラブ 理事長)

〈第2分科会〉 鹿児島市民文化ホール第1ホール

## テーマ 「スポーツで輝く未来を元気に！」

～健康で生き生きと暮らせる長寿社会の実現を目指して～

健康で活力に満ちた長寿社会を実現するためには、生活習慣病の予防・改善や介護予防を通じた、健康寿命の延伸や社会全体での医療費の抑制を目指しています。

地域住民のスポーツへの関心を喚起し、スポーツが生活の一部となるよう習慣化するために、誰でも身近に気軽に参加できるスポーツへのアプローチの仕方が求められています。

そこで、本分科会では、地域住民の多様な健康状態やニーズに応じて、健康づくりに継続的に取り組むことができる健康長寿社会の実現に向けて、スポーツ推進委員の果たすべき役割について探ります。

- ◎コーディネーター 小澤 多賀子 (NPO法人 日本健康加齢推進機構 理事)
- [発表者①] 中垣内 真樹 (鹿児島県:鹿屋体育大学 スポーツ生命科学系 教授)
- [発表者②] 宮崎 武洋 (長崎県:長崎市スポーツ推進委員協議会 会長)
- [発表者③] 吉村 孝子 (茨城県:みなとwaiwaiクラブ クラブマネジャー)

〈第3分科会〉 鹿児島市民文化ホール市民ホール

## テーマ 「スポーツで輝く未来を笑顔に！」

～障害者と健常者が共に実践できる生涯スポーツを目指して～

障害者をはじめ配慮が必要な多様な人々が、スポーツを通じて社会参画することができるよう、社会全体で積極的に環境を整備することは、人々の意識の変化、そして、共生社会への実現につながっていきます。

障害者スポーツの持続的発展のためには、障害の種類や障害の有無にかかわらず、誰でも親しむことができるスポーツを障害者と健常者が一緒に創り、多様な活動ができることを求められています。

そこで、本分科会では、障害者と健常者が一緒にスポーツに親しむことができる環境の整備に向けて、スポーツ推進委員の果たすべき役割について探ります。

- ◎コーディネーター 金山 千広 (立命館大学 産業社会部 教授)
- [発表者①] 前田 究 (鹿児島県:社会福祉法人 鹿児島県身体障害者福祉協会 スポーツ情報課長)
- [発表者②] 岡本 真奈美 (宮崎県:延岡市スポーツ推進委員協議会 会長)
- [発表者③] 櫻木 英一 (福岡県:NPO法人 ウェブスポーツクラブ21西国分クラブマネジャー)

〈第4分科会〉 鹿児島市民文化ホール第2ホール

## テーマ 「スポーツで輝く未来を明るく！」

～スポーツと観光が結びついた地域の活性化を目指して～

スポーツを通じた地域活性化を推進するためには、スポーツ産業の活性化、スポーツ環境の充実、そして、スポーツ人口参画の拡大をつなげていくことを目指しています。

スポーツツーリズムや多数の参加者・観衆が見込めるスポーツイベントの開催、大規模な大会や合宿の誘致等のスポーツを核とした地域活性化に向けた取組を推進することが求められています。

そこで、本分科会では、地域の特性を活かしたスポーツ観光による地域活性化の可能性に向けて、スポーツ推進委員の果たすべき役割について探ります。

- ◎コーディネーター 松橋 崇史 (拓殖大学 商学部 准教授)
- [発表者①] 坂本 大蔵 (愛媛県:企画振興部政策企画局  
サイクリング普及調整監)
- [発表者②] 森 朋子 (山口県:宇部市スポーツコミッション事務局)
- [発表者③] 別府 竜人 (鹿児島県:いぶすき菜の花マラソン大会実行委員会  
副実行委員長)

## 10 その他

分科会は参加申込状況により、分科会の会場を変更する場合があります。

※ この事業は、公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ普及奨励助成事業の助成金及び公益財団法人ライフスポーツ財団の協賛金を受けて実施しています。

## 11 お問い合わせ・お申込み

### ■大会要項に関してのお問い合わせ

**第59回全国スポーツ推進委員研究協議会鹿児島県実行委員会事務局**

担当:鹿児島県教育庁保健体育課スポーツ振興係

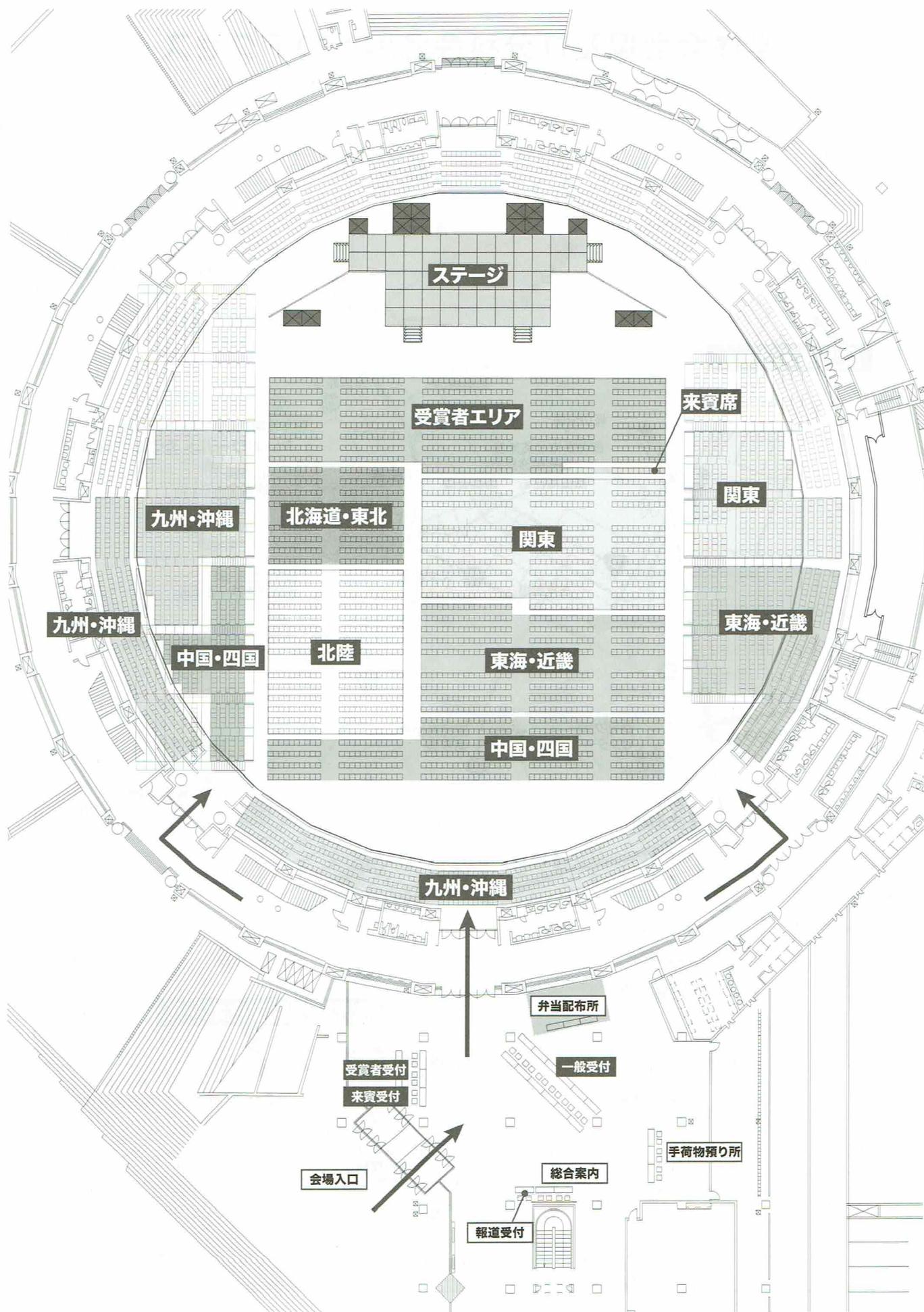
TEL:099-286-5320

### ■参加申込・宿泊・支払いに関してのお問い合わせ

**東武トップツアーズ株式会社 鹿児島支店**

〒890-0053 鹿児島県鹿児島市中央町26-1 (南国アネックスビル4階)

TEL:099-257-0109 FAX:099-257-0115



# 全体会会場及び分科会会場へのアクセス

ご来場はシャトルバス又は公共交通機関をご利用下さい。



## ●無料シャトルバスのご案内

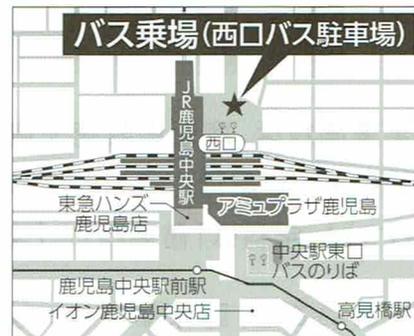
11月15日 (木)	往路	鹿児島中央駅西口 → 鹿児島アリーナ (10:30から30分間隔予定)
	復路	鹿児島アリーナ → 鹿児島中央駅西口 (16:45以降を予定) 鹿児島アリーナ → 天文館 (16:45以降を予定)
11月16日 (金)	往路	鹿児島中央駅西口 → 鹿児島アリーナ 鹿児島中央駅西口 → 鹿児島市民文化ホール (両便共、8:30から30分間隔予定)
		天文館 → 鹿児島アリーナ 天文館 → 鹿児島市民文化ホール (両便共、8:30から30分間隔予定)
	復路	鹿児島アリーナ → 鹿児島中央駅西口 鹿児島市民文化ホール → 鹿児島中央駅西口 (11:40以降を予定)

## 1日目

11月15日(木) 全体会場(鹿児島アリーナ)までのアクセス

## ◆無料シャトルバス

鹿児島中央駅西口乗り場  
「鹿児島アリーナ前」停留所下車  
所要時間約15分



## 2日目

11月16日(金) 各分科会会場までのアクセス

## 第1分科会 鹿児島アリーナ メインアリーナ

## ◆無料シャトルバス

鹿児島中央駅西口より所要時間約15分  
天文館(甲東中学校横)より約15分

## 第2分科会 鹿児島市民文化ホール 第1ホール

## ◆無料シャトルバス

鹿児島中央駅西口より所要時間約20分  
天文館(甲東中学校横)より約15分

## 第3分科会 鹿児島市民文化ホール 市民ホール

## ◆無料シャトルバス

鹿児島中央駅西口より所要時間約20分  
天文館(甲東中学校横)より約15分

## 第4分科会 鹿児島市民文化ホール 第2ホール

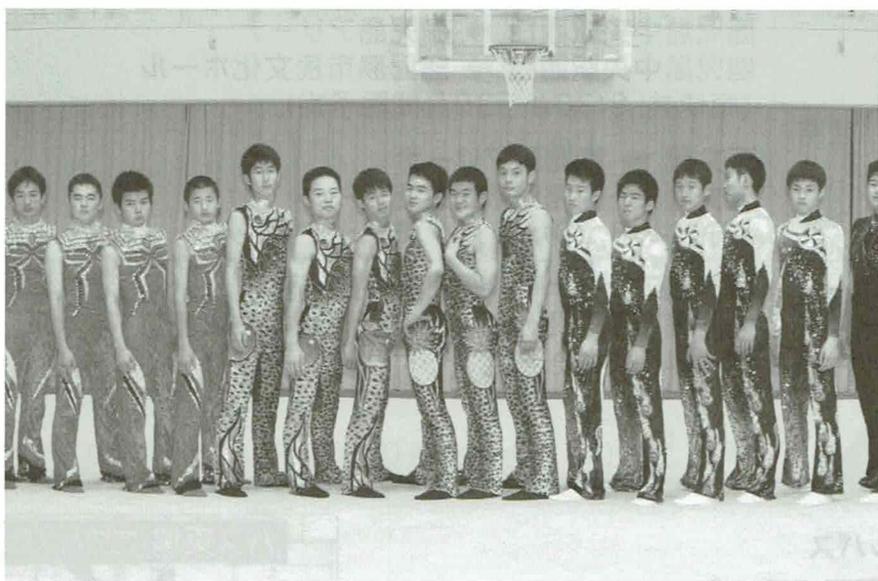
## ◆無料シャトルバス

鹿児島中央駅西口より所要時間約20分  
天文館(甲東中学校横)より約15分



## 歓迎アトラクション

## 鹿児島実業高等学校新体操部(男・女)



鹿児島実業高校は、鹿児島県鹿児島市にある私立高等学校です。創立は1916年、学校法人川島学園によって運営されており、1995年から現在の男女共学校になりました。通称は、「鹿実(かじつ)」。学科は「普通科」と「文理科」「総合学科」が設置されています。

部活動においては、野球部やサッカー部、陸上部が有名です。野球部は甲子園大会、サッカー部は全国高校サッカー大会、陸上部は全国高校駅伝での優勝経験があります。

新体操部は昭和59年に創部され、これまで県大会32年連続団体優勝を果たしており、主な成績は全国高校総体団体4位(1回)、国民体育大会4位(1回)、県知事褒賞3回受賞、南日本スポーツ賞3回受賞などの輝かしい成績を誇ります。女子も平成8年度から活動を開始し、団体は12年連続全国高校総体への出場を果たすなど、現在は全国大会上位入賞を目指し、男女ともに頑張っています。

特に、本日演技を披露してくれる男子新体操部は、その実力もさることながら、流行の曲にのせて演技するコミカルな動きも見所であり、見せる鹿実新体操部としても有名です。今年は明治維新150周年で沸く鹿児島県ですが、その知名度を生かし、鹿児島市の依頼で「西郷どん」×「男子新体操」という異色のコラボレーションによるWEB限定PR動画「維新 dancin' 鹿児島市」にも西郷どんに扮して華麗な舞を披露し、鹿児島県関連の動画再生回数も圧倒的回数を誇っています。

本日は、まずインターハイでの演技を動画で御覧いただき、続いて「維新 dancin' 鹿児島市」を御覧いただきます。そして最後に、実際にインターハイで行った演技を行います。実際より狭いステージではありますが、精一杯きばりますので、どうぞ御覧になってくいやんせ!

# 平成30年度 文部科学大臣表彰

## スポーツ推進委員功労者表彰 (84名)

(敬称略)

都道府県名	被表彰者氏名					
北海道	つじ くにひろ	白川 光男	たかはし と き こ	むらばやし ゆきとし		
	辻 邦弘		高橋登貴子	村林 幸利		
青森県	みうら ゆうえつ					
	三浦 勇悦					
岩手県	しもだ ゆきえ					
	下田 幸枝					
宮城県	かんの よしこ	しまかげ ひさお				
	菅野よし子	島陰 久雄				
秋田県	いのおか けんじ					
	猪岡 堅二					
山形県	たかはし あきこ					
	高橋 昭子					
福島県	まつだ よしのり	えんどう ひとし				
	松田 義	遠藤 仁				
茨城県	とみざわ とみお	おぎい きみお				
	富澤 富生	荻井 公夫				
栃木県	あらい しんいち					
	荒井 伸一					
群馬県	ほしの あきら					
	星野 昭					
埼玉県	やなぎ みつる	えんどう き み お	やまだ たかし	みやでら としお		
	柳 満	遠藤喜三男	山田 上	宮寺 敏雄		
千葉県	うる ままたえもん	たかはし よしひろ	やまかわ たけし	やまぐち み さ こ		
	宇留間又衛門	高橋 嘉弘	山川 武	山口美佐子		
東京都	どぼし けんいち	しまだ やすこ				
	土橋 賢一	島田 泰子				
神奈川県	しおさか たけし	すずき しょうぞう	あらかし かなめ	たけだ ゆうぞう		
	塩坂 武	鈴木 昭三	荒木 要	武田 勇藏		
	かまた たかお	たかやなぎ かずひろ	いしかわ てるお	さとう けいこ		
	鎌田 隆夫	高柳 和弘	石川 輝雄	佐藤 恵子		
新潟県	いいの まさひろ	ひらざわ かつし				
	飯野 雅寛	平澤 勝司				
富山県	みなみ かずえ					
	南 和江					
石川県	はぎ ましんいち					
	羽左間伸一					
福井県	の だえい ちろう					
	野田栄一郎					
山梨県	ふるや はやと					
	古屋 速人					
長野県	いの上 たかし	もちづき たけやす				
	井上 孝	望月 健保				
岐阜県	こもり ひろあき	かかみ きよし				
	小森 博昭	各務 清				
静岡県	なかやま たけひろ	みずの まさよし				
	中山 武弘	水野 正義				
愛知県	はら まさお	はしもと せつこ	やざわ ふみあき	すずき み わ こ		
	原 正男	橋本 節子	矢澤 文明	鈴木三和子		
三重県	うえむら かくない					
	上村 角内					

(敬称略)

都道府県名	被表彰者氏名		
滋賀県	やまもと ひろかず 山本 博一		
京都府	きのした しずこ 木下 静子	おかたに ようこ 岡谷 陽子	
大阪府	はたなか とくえ 畑中 徳江	ふるくぼ みちえ 古久保美智恵	ふじはら よしひさ 藤原 義久
兵庫県	つかはら ひさこ 塚原 久子	さかもと としみ 坂本 敏美	
奈良県	ふくだ シゲこ 福田シゲ子		
和歌山県	ふじた まさつぐ 藤田 眞嗣		
鳥取県	ふじはら かずこ 藤原 和子		
島根県	もりもと としお 森本 敏雄		
岡山県	なかやま としひさ 中山 俊久	あらかき けんさく 荒木 健策	
広島県	たなだ いくお 棚田 昱夫	にしもと しげき 西本 茂樹	
山口県	たなか ツヤこ 田中ツヤ子		
徳島県	もり えいち 森 榮一		
香川県	こにし まさゆき 小西 正幸		
愛媛県	あおの ひかる 青野 光		
高知県	いけがみ ようすけ 池上 洋輔		
福岡県	ふじしませつこ 藤嶋勢津子	いわき けんじ 岩木 憲治	しまお じゅんこ 島雄 潤子
佐賀県	やまだ くにお 山田 邦雄		
長崎県	まとり いちろう 真鳥 市郎		
熊本県	たけもと こうじ 竹本 耕治	たてもと かつひさ 立本 勝久	
大分県	つねまつ なおゆき 恒松 直之		
宮崎県	ひらやま かずこ 平山 和子		
鹿児島県	あらたけ くにお 荒武 邦男	いむら ひろふみ 伊村 廣文	
沖縄県	くりすかよこ 栗栖香代子		

# 平成30年度 全国スポーツ推進委員連合表彰

## 優良団体表彰 (39 団体)

都道府県名	被表彰団体名
北海道	該当なし
青森県	<small>ひがしどおりむら</small> 東通村スポーツ推進委員協議会
岩手県	該当なし
宮城県	<small>みなみさんりくちよう</small> 南三陸町スポーツ推進委員会
秋田県	<small>かたがみし</small> 潟上市スポーツ推進委員会
山形県	<small>かみのやまし</small> 上山市スポーツ推進委員会
福島県	<small>たむらし</small> 田村市スポーツ推進委員会
茨城県	<small>いたごし</small> 潮来市スポーツ推進委員連絡協議会
栃木県	該当なし
群馬県	<small>なかのじようまち</small> 中之条町スポーツ推進委員会
埼玉県	<small>しろおかし</small> 白岡市スポーツ推進委員連絡協議会
千葉県	<small>そうさし</small> 匝瑳市スポーツ推進委員連絡協議会
東京都	<small>しながわく</small> 品川区スポーツ推進委員会
神奈川県	<small>ゆがわらまち</small> 湯河原町スポーツ推進委員会
山梨県	<small>みのぶちよう</small> 身延町スポーツ推進委員会
長野県	<small>おぶせまち</small> 小布施町スポーツ推進委員会
新潟県	該当なし
富山県	<small>なめりかわし</small> 滑川市スポーツ推進委員協議会
石川県	<small>わじまし</small> 輪島市スポーツ推進委員協議会
福井県	<small>えちぜんちよう</small> 越前町スポーツ推進委員会
岐阜県	<small>おおのちよう</small> 大野町スポーツ推進委員会
静岡県	<small>こてんげし</small> 御殿場市スポーツ推進委員会
愛知県	<small>とうかいし</small> 東海市スポーツ推進委員会

都道府県名	被表彰団体名
三重県	津市スポーツ推進委員会
滋賀県	甲良町スポーツ推進委員会
京都府	京丹波町スポーツ推進委員会
大阪府	吹田市スポーツ推進委員会
兵庫県	豊岡市スポーツ推進委員会
奈良県	田原本町スポーツ推進委員会
和歌山県	広川町スポーツ推進委員協議会
鳥取県	北栄町スポーツ推進委員協議会
島根県	隠岐の島町スポーツ推進委員の会
岡山県	倉敷市スポーツ推進委員協議会
広島県	該当なし
山口県	平生町スポーツ推進委員協議会
徳島県	吉野川市スポーツ推進委員会
香川県	丸亀市スポーツ推進委員連絡協議会
愛媛県	西予市スポーツ推進委員協議会
高知県	いの町スポーツ推進委員会
福岡県	那珂川町スポーツ推進委員会
佐賀県	該当なし
長崎県	壱岐市スポーツ推進委員協議会
熊本県	該当なし
大分県	佐伯地区スポーツ推進委員協議会
宮崎県	該当なし
鹿児島県	大崎町スポーツ推進委員会
沖縄県	八重瀬町スポーツ推進委員協議会

スポーツ推進委員功労者表彰 (182名)

(敬称略)

都道府県名	被表彰者氏名					
北海道	みかみ ゆきお 三上 幸男 ながの みえこ 長野三恵子	あいうち てつお 相内 哲雄 ひぎの としひろ 久野 利廣	おかやま のりひろ 岡山 典弘 ながおか ゆきえ 長岡由記柄	いしい ひでゆき 石井 秀幸 かも まさし 加茂 政志		
青森県	さかた みねゆき 坂田 峰之	やこし ふみお 矢越 文男				
岩手県	さいた しげよ 税田 茂代	さかした さちこ 坂下 幸子	ささ ききよみ 佐々木清美			
宮城県	いまい とくじ 今井 徳治	いとう ふみのぶ 伊藤 文信	くが しゅんいち 久我 俊一	すがわら ゆうじ 菅原 雄二		
秋田県	かわしり みきこ 川尻美紀子	かねこ かずのり 金子 一典	ちば まさし 千葉 正志			
山形県	たかはし きいち 高橋 喜一	はばの こういち 幅野 宏一	さとう かずひろ 佐藤 和弘			
福島県	いしい ただし 石井 忠 すずき たけし 鈴木 武司	すぎうち さだお 杉内 貞夫	いがらし けいすけ 五十嵐啓介	にへい よしお 二瓶 芳雄		
茨城県	すなかわ かつとし 砂川 勝利 たなべ かつゆき 田辺 勝行	こいけ ひでお 小池 英夫	とみた しょういち 富田 正一	たかす ひろじゅ 高栖 浩壽		
栃木県	くりた たつや 栗田 達也	やまぎき みさお 山崎 操	のぐち としあき 野口 俊明			
群馬県	いわがみ きよみ 岩上 清美	むとう しげる 武藤 茂	むらかみ きみえ 村上 君江			
埼玉県	むらた まさじ 村田 正二 かばた まさとし 樺田 正俊	ひらばやし ひとし 平林 仁 しまだ ゆうこ 島田 勇子	しばききくみ こ 柴崎久美子 たまき たみお 玉木 民雄	たけだ かずこ 武田 和子		
千葉県	ながしま かつへい 長島 勝平 にしじま たかし 西嶋 隆	たむら いさお 田村 勲 たかはし ただお 高橋 忠雄	ふるばやし ひさあき 古林 久明 おかだ ひろし 岡田 弘	おざわ なおゆき 小沢 正順 もり まさのり 森 正徳		
東京都	いいがや みえ 飯ヶ谷美恵 おぐり きなえ 小栗 早苗	たき よしはる 瀧 吉晴	みかみ としお 三神 敏夫	わたなべ みちこ 渡部実知子		
神奈川県	さいとう よねお 齊藤 米夫 つねやま まさき 常山 正樹 きたの たかお 北野 隆生 いとう たかひさ 伊藤 孝久	おぎ ひろこ 小木 弘子 きじま ひろし 木島 弘 おおやま たかし 大山 孝 くりた まさる 栗田 優	やまぐち まさる 山口 勝 とりみつ ひろたか 鳥光 弘孝 さいとう みねよ 齋藤 峯代	たなか すみえ 田中壽美栄 たなか みつこ 田中 光子 せいの まさこ 清野 正子		
長野県	のちもと ゆりこ 野本百合子	しみず まさひろ 清水 正博	うすい よしとみ 臼井 良臣	たなか としはる 田中 利治		

(敬称略)

都道府県名	被表彰者氏名						
新潟県	なごやとしお 名古屋利夫	がくはり よしお 覚張 芳夫	よしだ まさあき 吉田 正明	さの さだゆき 佐野 貞幸			
富山県	きたむらせ つこ 北村勢津子	かみや たかゆき 紙谷 孝之	ふくえ きよみ 福江 清美				
石川県	もんや ともゆき 紋谷 友幸	よこやま りゅうしん 横山 隆信					
福井県	かたやま しんいち 片山 伸一	はた ひでじ 畑 透仁					
岐阜県	うえの ひでとし 上野 英敏	にしお さきこ 西尾 咲子	ほしや かずあき 星屋 和明	うすい ゆうこ 臼井 夕子			
静岡県	つちや えみこ 土谷英美子 はらの としろう 原野 俊郎	おくやま けんじ 奥山 賢司	おおい まさはる 大井 正晴	きんばら もとし 金原 元司			
愛知県	やました よしいち 山下 吉市 かとう とみえ 加藤 富江 いしはら とよこ 石原 豊子	かとう きわむ 加藤 極 いけだ さだし 池田 定史	みうら よしのり 三浦 良典 ありが つかさ 有賀 司	ふじわら りょうじ 藤原 良二 あらか よしはる 荒木 良治			
三重県	おがわ まさし 小川 雅司	なかせ こまきこ 中瀬古真喜子	しもにし てるお 下西 輝男				
滋賀県	なかじま あやこ 中島あや子	くぼ ひろし 久保 洋司					
京都府	きしもと くにお 岸本 邦夫	さの えりこ 佐野恵理子	かわぐち ひろし 河口 宏	たきぐち みつこ 滝口美津子			
大阪府	はたなか しげる 畠中 成 つつき あつみ 津々木篤美	たかやま まさのぶ 高山 正宣	こたに えみこ 小谷恵美子	かわばた ひつみ 川端 睦己			
兵庫県	たなか ふさこ 田中美佐子 ばば きよつぐ 馬場 清順	ふくだ ふじえ 福田富士枝	なかお りゅうた 中尾 隆太	なかの しげみ 中野 重美			
奈良県	たかだ よしみ 高田 吉美	さかきもと まゆ 榊本 参					
和歌山県	やまべ すずむ 山部 進	あさき かずひろ 朝木 一廣					
鳥取県	よねだ あいこ 米田 愛子	たきもと あきよし 瀧本 昭良					
鳥根県	やまぐち ひろし 山口 洋	なかた はじめ 中田 元					
岡山県	もり まさひこ 森 正彦	ながお まさのり 長尾 政則	たかしま たつみ 高島 健身	おはら きょうこ 尾原 京子			
広島県	あまの なおき 天野 直樹 よしむら しげお 吉村 成男	やまむろ たくろう 山室 卓朗	いしい かんじ 石井 完二	ひらね さちえ 平根 幸江			
山口県	なんば ふみお 難波 文雄	もりしげ まさかず 守重 賢一	やたに あつし 八谷 篤				

(敬称略)

都道府県名	被表彰者氏名					
徳島県	のぐち やすのぶ 野口 泰延	さとう かずこ 佐藤 和子				
香川県	かわい としひろ 川井 敏弘	だいまる よしお 大丸 佳男				
愛媛県	やまうち さだお 山内 貞夫	ほんだ じょうじ 本田 穰司	そが べきみよ 曾我部公代			
高知県	おかのうえ ぶんじ 岡上 文司	さたけ えいすけ 佐竹 英介				
福岡県	すえよし たつや 末吉 達矢	いまむら きよし 今村 清	くぼ ともり 久保 智則	ふじさき きみあき 藤崎 公明		
	かわばた まさひろ 川端 政廣	てしま ようじ 手島 洋二				
佐賀県	かわじり みつまさ 川尻 光政	かわじり はつお 川尻 初雄	おがた としお 緒方 敏雄			
長崎県	むらやま ただくに 村山 忠国	みやぞの ひさのり 宮蘭 久教	もり まさし 森 正志			
熊本県	わたなべ とおる 渡邊 享	うるしはた ゆきお 漆畑 幸夫	ながお てるこ 永尾テル子	むらもと ふみあき 村本 文昭		
	ほった まさゆき 堀田 正幸					
大分県	いわお かずひろ 岩尾 一弘	なかむら かずひこ 中村 一彦	のなか ひろみ 野中 弘美			
宮崎県	いで としこ 井手 敏子	てらだしんいちろう 寺田新一郎				
鹿児島県	おおさこ ちづこ 大迫ちづ子	かみかわ ちづこ 神川千鶴子	きむら アイ子 木村アイ子	はしぐち れい子 橋口れい子		
沖縄県	なかま ひろみ 仲間 弘美	ほしかわ まこと 星川 眞				

# 平成30年度 全国スポーツ推進委員連合感謝状贈呈

## 30年勤続スポーツ推進委員表彰（282名）

（敬称略）

都道府県名	被表彰者氏名						
北海道	佐藤 正巳 三宅 武夫 樋渡 敏照	高木 邦男 沼上 潤子 桜庭 伸一	山下 勝廣 桑田 光幸	ながいけ ひでひこ ひさの としひろ	永池 英彦 久野 利廣		
青森県	須藤 正	太田 栄治	三上 義勝				
岩手県	岡村 勝子 新沼 幸夫	藤倉 昌枝 高橋 泰次	吉田 千秋	よした ちあき ただ けいぞう	多田 慶三		
宮城県	東山 宗悦 大和田 純一 大場 照彦	小野 和則 石川 ひとみ 菅野 よし子	川村 靖子 武田 高誠 白井 信昭	かわむら やすこ たけだ たかし しらい のぶあき	たかはし じゆん やまぐち けんいち	高橋 淳 山口 健一	
秋田県	伊藤 敏和 岡根 弘幸	三留 達也 猪岡 堅二	ふなやま ゆきひこ	ゆきひこ	みやもと やすひろ	宮本 康博	
山形県	佐藤 明信						
福島県	大塚 美代子 栗田 要	佐藤 英章	高橋 ひろ子	たかはし ひろこ へんみ たつお	辺見 辰男		
茨城県	相田 仁史 鈴木 清 黒須 美樹 野口 勝美	金成 勝子 伊藤 政男 笠倉 不二 山崎 千鶴子	まつだいら しげお こいずみ てるただ さわべ えつお	まつだいら しげお こいずみ てるただ さわべ えつお	はなり こういち ふくぞの く に こ ますだ としいち	羽成 幸一 福園 久仁子 増田 利一	
栃木県	佐々木 洋二						
群馬県	高間 葉子	富澤 加代子					
埼玉県	浅見 栄子 八須 由憲 大森 みや子	当麻 浄 鈴木 美禰子	あべ ひろゆき かげやま えつお	あべ ひろゆき かげやま えつお	もてき のぶお こみや ひろし	茂木 延夫 籠宮 博	
千葉県	高津 和子 畑 和子 熱田 幸子	脇田 直 松元 健一 細矢 光男	いづか まさお ほしの やすゆき たなか やすお	いづか まさお ほしの やすゆき たなか やすお	やまざき よしじ たかぎ かずお	山崎 義二 高木 一男	
東京都	島田 泰子	栗原 裕子	すぎやま よしひろ	かわしま よしお		川島 良夫	

都道府県名	被 表 彰 者 氏 名							
神奈川県	たけだ	ゆうぞう	ほんま	いずみ	おかがみ	はるひこ	あらい	としお
	武田	勇藏	本間	五三	岡上	治彦	新井	敏夫
	たかほたけ	かずよし	ながつか	ひさし	わたなべ	たつお	きむら	やすお
	高島	一義	長塚	寿	渡辺	辰雄	木村	保雄
	いけだ	げんこ	むらやま	しげのぶ	ひらせ	まさあき	あべ	つねお
	池田	源悟	村山	重信	平瀬	雅明	阿部	恒夫
	いそぎ	のぶお	よこた	たかのり	ふじた	すえお	やました	ひろし
	磯崎	信夫	横田	隆教	藤田	末男	山下	博
	おおた	えつこ	いわはな	ちえこ	くらもと	ふみえ	やまにし	えいち
太田	悦子	岩鼻	千恵子	倉本	文江	山西	英一	
わたなべ	まさあき	まつぎ	としろう	ひらぐち	かずひろ	やこめ	ただお	
渡邊	正明	松木	俊朗	平口	和宏	矢込	唯男	
こいずみ	ゆきお	ほんだ	とる	やすま	たかし	たかしま	すがえ	
小泉	幸男	本田	徹	矢須間	隆	高嶋	菅恵	
さいとう	よねお							
齊藤	米夫							
山梨県	かねまる	よしお						
金丸	良雄							
長野県	いのうえ	たかし	かねこ	かずお	しみず	まさお	こばやし	たかし
	井上	孝	金子	和夫	清水	正夫	小林	孝
おおたか	ひろこ							
大高	博子							
新潟県	さかい	ちえこ	なかやま	さわこ	きょうの	ひでゆき	えんどう	ゆたか
	坂井	千恵子	中山	佐和子	京野	秀幸	遠藤	裕
たかの	ゆたか	おみ	たつお	さの	さだゆき			
高野	豊	小見	健雄	佐野	貞幸			
富山県	おかじま	さちこ	あきのう	さくに	たなか	つとむ	むらた	ひでゆき
	岡島	幸子	秋濃	作二	田中	勉	村田	秀幸
みやぐち	たかし	いけはら	じゆんいち					
宮口	隆志	池原	純一					
石川県	しもじ	はつえ	ふくしま	しょういち	もり	しげのぶ		
	下地	はつえ	福島	正一	森	茂信		
福井県	きのした	まさよし	たなか	ゆうこ	いただに	のりあき		
	木下	正義	田中	祐子	板谷	則昭		
岐阜県	いとう	よしゆき	ひらた	しず夫	こんどう	よしゆき		
	伊藤	義行	平田	静夫	近藤	好之		
静岡県	こんどう	さえみ						
近藤	さえみ							
愛知県	かとう	としかつ	のぐち	さとる	さきやま	はるお	なかの	かねひろ
	加藤	壽捷	野口	悟	笹山	春男	中野	金弘
	いとう	のりひろ	いとう	まさた	うちだ	としみ	えのきざわ	まさひろ
	伊藤	典宏	伊藤	雅太	打田	敏己	榎澤	正博
	おぼら	みつよし	かんだ	しげる	こんどう	けんじ	すみ	さだより
	小原	光宜	神田	茂	近藤	健治	角	定頼
	そえじま	まこと	ほしこ	ひろし	やまだ	ひろし	よしだ	さとる
	副島	良	星子	浩	山田	博	吉田	覚
	わだ	ともひこ	つだ	なおこ	ふじの	るみこ	みやもり	りょうこ
和田	智彦	津田	直子	藤野	留美子	宮森	涼子	
なりた	なおみ	はせが	わかつこ	みなみかわ	いさお	せき	ひろし	
成田	直美	長谷川	克子	南川	勇夫	関	浩	
くりた	きよひろ	のむら	よしたみ	たなか		おかもと	なおこ	
栗田	清広	野村	芳民	田中	ヒロミ	岡本	直子	
三重県	つやま	みねこ	はしおか	けいこ				
津山	峰子	橋岡	敬子					
京都府	さの	えりこ						
佐野	恵理子							

(敬称略)

都道府県名	被表彰者氏名					
大阪府	つじ てつや 辻 哲也 さ さ き かつひと 佐々木勝人	よしだ とみはる 吉田 富治	つ つ き あつみ 津々木篤美	おくの かずよし 奥野 一吉		
兵庫県	えもと ひでこ 江本 秀子 おかもと つねじ 岡本 常司 うすき まさお 薄木 正夫	すぎたに み わ こ 杉谷美和子 ふじい ひろや 藤井 敬也 なかやま かずひさ 中山 一久	もりかわ かずとし 森川 和俊 やまうち もとゆき 山内 基行 いかわ まさお 井川 雅夫	ふるつ じゅんこ 古津 純子 かうち しんいち 賀内 進一 おの やませいいち 小野山誠一		
奈良県	のぎき ひでとし 野崎 尚利 しのだ はじめ 篠田 元	なかにし やすよ 中西 康代	かじたに のぼる 梶谷 登	おくばた とみお 奥端 富男		
和歌山県	ふじやま かずひら 藤山 和平 おかもと ひろみ 岡本 廣美	よしだ えいこ 吉田 榮子 きのした しんじ 木下 慎次	かたやま まさお 片山 雅生 おおもり ちせこ 大森 ちせ子	とくやま きんや 徳山 欣哉		
鳥取県	やまね のりお 山根 則男	おかだ のぶゆき 岡田 信行	ふくしま きみあき 福島 公明	やまおか よしお 山岡 由夫		
島根県	うへだ かずとし 上田 一利	なかさ ひさこ 仲佐 久子	しみず やすこ 清水 康子	いしぐち きよたけ 石口 清武		
岡山県	まつえ りょういち 松江 良一	すぎもと やすかず 杉本 靖和	みやはら みつお 宮原 光夫	やだに まさあき 矢谷 正明		
広島県	ただ よしかず 多田 喜千 ひもと さとし 比本 学志	さいく みのる 細工 実 だんじょう す み え 檀上須美江	みなもと まさのり 南本 正則 かさい えいこ 笠井 栄子	にい たかし 仁井 孝志 みょうが や す み こ 妙加谷純子		
山口県	つばき やすひろ 椿 泰博					
徳島県	よこせ しんいち 横瀬 真一	にしむら とみよ 西村登美代				
香川県	わだ てつ 和田 哲 もり けいち 森 圭市	なかやま やすひろ 中山 康弘	きよはら えいこ 清原 栄子	ふじもと やすあき 藤本 康明		
愛媛県	はせべしやうぞう 長谷部省三 やまもと 山本ナナエ	はせべけんじ 長谷部賢司	さいき よしひろ 佐伯 義廣	いとう えいじ 伊藤 英二		
高知県	たなべ かずよし 田辺 計由					
福岡県	しまお じゅんこ 島雄 潤子 のだ せんぞう 野田 千三	ありま としあき 有馬 利昭 ふじしませつこ 藤嶋勢津子	やまきたせいしろう 山北清四郎 いしはら よしき 石原 栄樹	すえふじ よしあき 末藤 芳昭 おがわ たかこ 小川 貴子		
長崎県	はしば さとる 羽柴 悟 まつお たつゆき 松尾 龍幸 やまぐち かずお 山口 和雄	いでた はるき 出田 春喜 あべ ただし 安部 正	たがわ てるのぶ 田川 照信 もりた としひこ 森田 俊彦	とじい えいじ 土井 英二 いのう えすみや 井ノ上澄夜		
熊本県	さかい かよこ 境 加代子 いしまつじやうたろう 石松丈多郎	かわづの りお 河津野利夫 おおつか よしたか 大塚 義隆	よしかわ のりゆき 吉川 憲行 やまなか きよし 山中 清志	うらかわ いたる 浦川 至		

(敬称略)

都道府県名	被 表 彰 者 氏 名							
大分県	さかい 酒井	あきら 明	ひろた 廣田	こういち 孝一	なかのけんいちろう 仲野賢一郎	さわき 佐脇	ひろしげ 廣栄	
宮崎県	こいわやけんじ 小岩屋健兒		くろき 黒木	かずのり 一則	たしろ 田代	ながしげ 長茂		
鹿児島県	ひがしむら 東村	まなぶ 学	みなもと 皆元	りゅうじ 隆次	はしぐち 橋口	れいこ れい子	はまだ 濱田	けんじ 健二
	したしおみ 下塩見	ひろし 浩	しげむら 重村	きょうこ 京子	おおやま 大山	たまき 珩	そのだ 園田	さかえ 栄
	ふなくら 船倉	ひろし 浩						
沖縄県	ほしかわ 星川	まこと 眞	くりすかよこ 栗栖香代子		なかにね 仲嶺	まさはる 眞春	おくま 奥間	たかし 尚
	うえち 上地	かつのり 勝則	くによし 國吉	じんえい 仁英	ひが 比嘉	いちろう 一郎		

## 退任役員等 (12名)

(敬称略)

都道府県名	被表彰者氏名		
北海道	つぼた 坪田	としお 敏男	
青森県	めざわ 目澤	しんいち 伸一	
東京都	あべ 阿部	まさよし 正幸	なかそねひろふみ 中曽根弘文
神奈川県	そのやま 園山	かずお 和夫	しょうじ のりゆき 莊司 德行
石川県	まつもと 松本	あきや 章弥	
三重県	ばば 馬場	ひろし 宏	
京都府	ふじい 藤井	ひろし 博志	
高知県	しまさき 島崎	しんいち 伸一	
熊本県	たなか 田中	せいいち 誠一	
宮崎県	こいわやけんじ 小岩屋健兒		

## 一般賛助会員 (71名)

(敬称略)

都道府県名	被表彰者氏名							
青森県	えびな 蝦名	ふみあき 文昭						
岩手県	さとう 佐藤	かつし 勝士	しもまた 下又	ぜんさく 善作	みよし 實吉	よしまさ 義正		
	はなまきし 花巻市スポーツ推進委員協議会							
山形県	おおば 大場	かずお 和夫						
福島県	かんの 菅野	りきお 力雄	あいかわ 會川	しんぺい 新平	さいとう 斎藤	やすお 康雄		
茨城県	いしじま 石島	くにゆき 邦行	はなし 葉梨	まもる 衛	とみざわ 富澤	とみお 富生	あだち 安達	かおる 薫
	さいとう 齋藤	みのる 實						
栃木県	つぶらい 粒来	のりお 紀男	はねいし 羽石	こうし 好志				

(敬称略)

都道府県名	被表彰者氏名			
埼玉県	あさみ えいこ 浅見 栄子	さいたまけん 埼玉県スポーツ推進委員協議会		
千葉県	ひろせ ひろし 廣瀬 博	ほそや みつお 細矢 光男		
東京都	にいじま ふみひこ 新島二三彦	なぐも ちえ 南雲 千恵	まきの ひさよし 牧野 壽義	なかぞねひろふみ 中曽根弘文
	こうとうく 江東区スポーツ推進委員会		しょうわしょうじかがぶしがいしゃ 昭和商事株式会社	
	すずきしょうてん 鈴木商店			
神奈川県	しょうじ のりゆき 莊司 德行	よしむらかつ たろう 吉村勝太郎	やまだ あきこ 山田 昭子	たけ まさえ 武 雅兄
山梨県	にらききし 韮崎市スポーツ推進委員会			
長野県	うめざわ まさはる 梅澤 正春	い で さちこ 井出 幸子		
新潟県	くすみ ゆういち 久住 裕一	おおたき ときお 大瀧 時男		
富山県	やまだ じゅんいち 山田 純一	たかはし きよし 高橋 清	にしむら よしみつ 西村 良三	まつもと ひろし 松本 博資
	なかたに ありひで 中谷 有秀	いけはら じゅんいち 池原 純一	にった としお 新田 敏雄	
石川県	たい えいいち 多井 英一			
岐阜県	たなはし おきお 棚橋 沖夫			
静岡県	さいとうと しつぐ 齊藤斗志二	すずき まさお 鈴木真佐雄	たばた かつじ 田畑 勝次	あおの かくろう 青野 覚朗
	なかむら みつまさ 中村 三正			
三重県	やすだ まさひろ 保田 真宏			
滋賀県	やまもと ひろかず 山本 博一			
大阪府	かわばた むつみ 川端 睦己			
奈良県	やまごおりやまし 大和郡山市スポーツ推進委員会			
鳥取県	うえた ひでみ 上田 秀美			
岡山県	たまだ としあき 玉田 敏明			
広島県	さわ みなえ 澤 美苗	かわの ひろし 川野 洋		
徳島県	みやた まもる 宮田 衛			

(敬称略)

都道府県名	被表彰者氏名
香川県	<small>ふき た まこと</small> 富木田 誠
福岡県	<small>ひさもと なるみ</small> 久本 成美 <small>う さ てるひと</small> 宇佐 輝人
佐賀県	<small>なかむら なおと</small> 中村 直人
熊本県	<small>はらぐち まもる</small> 原口 護 <small>ふたがみ てつご</small> 二神 徹伍
大分県	<small>さかもと としゆき</small> 坂本 利幸 <small>かじわら きょうこ</small> 梶原 京子
鹿児島県	<small>まえだけんじろう</small> 前田健二郎
沖縄県	<small>た か や ま と も や す</small> 多嘉山朝安 <small>ふ く み ね さ と し</small> 譜久嶺 聡 <small>かわみつ のりあき</small> 川満 則明

### 特別賛助会員 (4法人)

<small>こうえきざいだんほうじん</small> 公益財団法人 <small>しんこうざいだん</small> ミズノスポーツ振興財団
<small>こうえきざいだんほうじん</small> 公益財団法人 <small>あんぜんきょうかい</small> スポーツ安全協会
<small>かぶしきがいしゃ にほんたいいくしゃ</small> 株式会社 日本体育社
<small>こうえきざいだんほうじん</small> 公益財団法人 <small>ざいだん</small> ライフスポーツ財団





講師

## 柴田 亜衣

アテネオリンピック 金メダリスト／スイミングアドバイザー  
しばた あい〈Ai Shibata〉  
生年月日：1982年5月14日

### プロフィール

#### 【主な経歴】

- ・ 生まれ：福岡県 出身地：徳島県 現在地：神奈川県
- ・ 穴吹高校－鹿屋体育大学－鹿屋体育大学大学院
- ・ 第28回オリンピック競技大会(2004／アテネ)に出場  
競泳女子800M自由形金メダル(五輪での女子自由形の金メダルは日本人初)
- ・ 第29回オリンピック競技大会(2008／北京)にも出場
- ・ 2005年04月 株式会社デザート入社
- ・ 2008年12月 現役引退を表明
- ・ 2009年03月 鹿屋体育大学大学院を卒業
- ・ 2009年04月 株式会社デザートコーポレート企画室に配属
- ・ 2011年03月 株式会社デザート退社
- ・ 2011年04月 株式会社Plumin(プラミン)に所属  
(水泳教室や講演会などを通じて水泳の普及振興やスポーツ界の発展の為により一層幅広く活動中)
- ・ 2012年09月 結婚現在は一児の母

#### 【主な活動内容】

- 〈招致関係〉2020年東京オリンピック・パラリンピック招致ANOC会議プレゼンター
- 〈メディア〉読売新聞「柴田亜衣の目」競泳・国際大会
- 〈日本サッカー協会〉スポーツこころのプロジェクト「夢先生」
- 〈水泳教室〉「ひとりでも…プロジェクト」全国小学校

#### 【主な役職】

- 国立大学法人 鹿屋体育大学広報戦略アドバイザー
- 日本スポーツ振興センター「SPORTS JAPANアンバサダー」

#### 【主な著書】

- 競泳で勝つ！クロール「タイムを縮める50のポイント」(メイツ出版)

# シンポジウム

[ テーマ ]

## 「スポーツで輝く未来に向けて」

～スポーツで創る強い絆と活力ある地域社会づくりを目指して～

[ コーディネーター・シンポジスト ]

コーディネーター

柳沢 和雄

シンポジスト

作野 誠一

小澤 多賀子

金山 千広

松橋 崇史



コーディネーター

筑波大学 体育系

教授 柳沢 和雄

## プロフィール

### 【学歴】

筑波大学 体育専門学群 卒業

同大学院博士課程体育科学研究科 修了

### 【主な職歴】

帝京大学 文学部教育学科 講師

筑波大学 体育科学系 講師

筑波大学 体育科学系 助教授

筑波大学 大学院 人間総合科学研究科 教授

### 【主な役職】

公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合 専務理事

全国スポーツ推進委員連合機関誌「みんなのスポーツ」編集長

茨城県スポーツ推進審議会 副委員長

一般社団法人 日本体育学会体育経営管理専門領域会長

日本体育・スポーツ経営学会 会長

### 【主な著書】

『テキスト体育・スポーツ経営学』（編著）大修館書店 2017年

『よくわかるスポーツマネジメント』（編著）ミネルヴァ書房 2017年

『スポーツ推進委員ハンドブック：生涯スポーツのコーディネーター』（編著）

（公社）全国スポーツ推進委員連合 2014年

『総合型地域スポーツクラブの発展と展望』（編著）不昧堂出版 2008年

『テキスト総合型地域スポーツクラブ』（共著）大修館書店 2004年



シンポジスト

早稲田大学 スポーツ科学学術院

教授 **作野 誠一**

## プロフィール

### 【学歴】

金沢大学 教育学部 卒業  
同大学院社会環境科学研究科修了, 博士(学術)

### 【主な職歴】

福岡県立福岡女子大学 文学部 講師  
早稲田大学 スポーツ科学部 専任講師  
早稲田大学 スポーツ科学学術院 教授

### 【主な役職】

日本体育・スポーツ経営学会 常務理事  
所沢市スポーツ推進審議会委員  
八王子市スポーツ推進審議会委員  
所沢市総合型地域スポーツクラブ(WASEDA Club2000)運営委員

### 【主な著書】

『よくわかるスポーツマネジメント』(共著)ミネルヴァ書房 2017年  
『テキスト体育・スポーツ経営学』(共著)大修館書店 2017年  
『スポーツマネジメント[改訂版]』(共著)大修館書店 2015年  
『体育・スポーツ科学のための調査研究法』(共著)杏林書院 2014年  
『総合型地域スポーツクラブの発展と展望』(共著)不昧堂 2008年



シンポジスト

NPO法人 日本健康加齢推進機構

理事 **小澤 多賀子**

## プロフィール

### 【学歴】

筑波大学 体育専門学群 卒業

筑波大学 大学院修士課程体育研究科健康教育学専攻 修了

筑波大学 大学院人間総合科学研究科博士課程スポーツ医学専攻 修了  
学位 博士(スポーツ医学)(筑波大学)

### 【主な職歴】

土浦社会保険健康センター

東京都健康づくり推進センター

筑波大学 体育科学系(科学技術振興研究員)

茨城県健康科学センター

茨城県立健康プラザ

株式会社THF

茨城大学(非常勤講師)

茨城県立健康プラザ(客員研究員)

### 【主な役職】

株式会社THF 取締役兼管理部部長

NPO法人 日本健康加齢推進機構 理事

茨城県立健康プラザ 研究員

日本健康支援学会 評議員

### 【主な功績】

第14回日本健康支援学会学術集会 優秀賞受賞

一般社団法人 茗溪会(筑波大学同窓会) 茗溪賞受賞

筑波大学 人間総合科学研究科スポーツ医学専攻 優秀論文賞受賞

### 【主な著書】

『中高年者のための運動プログラム』(共著) 有限会社ナップ

『健康運動の支援と実践』(共著) 金芳堂

『中高年者の元気長寿のための運動プログラム』(共著) 有限会社ナップ

『健幸華齢のためのエクササイズ』(共著) サンライフ企画

『よくわかるスポーツマネジメント』(共著) ミネルヴィア書房



シンポジスト

立命館大学 産業社会学部

教授 金山 千広

## プロフィール

## 【学歴】

武庫川女子大学 文学部教育学科体育専攻 卒業  
 京都教育大学 大学院教育学研究科教科教育専攻保健体育専修修了 修士(教育学)  
 広島大学 大学院総合科学研究科博士課程後期修了 博士(学術)広島大学甲第6033号

## 【主な職歴】

大阪ガスグループ(株)オージースポーツしあわせの村/こうべ福祉センター/加古川ウェル  
 ネスパーク: 支配人兼チーフトレーナー  
 関西学院聖和短期大学 保育科准教授 関西学院大学兼務  
 神戸女学院大学 教養部体育研究室 教授  
 立命館大学 産業社会学部 教授

## 【主な役職等】

スポーツ庁 地域における障害者スポーツ普及促進に関する専門委員  
 日本障がい者スポーツ指導者協議会 研修部 委員  
 公益社団法人 兵庫県障害者スポーツ協会 理事  
 京都府障害者スポーツ推進協議会 委員  
 神戸市スポーツ推進委員会 委員  
 芦屋市スポーツ推進審議会 委員  
 一般社団法人 日本体育学会 アダプテッド・スポーツ科学専門領域選出 代議員  
 日本アダプテッド体育・スポーツ学会 理事

## 【主な著書】

『よくわかるスポーツマネジメント』(共著)ミネルヴァ書房 2017年  
 『図とイラストで学ぶ新しいスポーツマネジメント』(共著) 大修館書店 2016年  
 『図解スポーツマネジメント 大修館書店 2005年 共著  
 『新版障がい者スポーツ指導教本初級・中級』(共著) ぎょうせい 2016年  
 『改訂版スポーツ経営学』 大修館書店(共著) 2006年



シンポジスト

拓殖大学 商学部

准教授 **松橋 崇史**

## プロフィール

### 【学歴】

慶應義塾大学 総合政策学部 卒業  
同大学政策・メディア研究科博士課程修了

### 【主な職歴】

東京工科大学 メディア学部 助教  
拓殖大学商学部 准教授  
慶應義塾大学 政策・メディア研究科 特任准教授

### 【主な役職】

一般社団法人 日本体育学会体育系管理専門領域委員  
一般社団法人 スポーツによる地方創生推進会議 代表理事  
一般社団法人 地域社会活性化支援機構 理事  
など

### 【主な著書】

『スポーツのちからー地域をかえるソーシャルイノベーションの実践ー』

(共著) 慶應義塾大学出版会 2016年

# 第1分科会

[ テーマ ]

## 「スポーツで輝く未来を楽しく！」

～地域の課題を解決するスポーツクラブの実現を目指して～

[ コーディネーター ]

早稲田大学 スポーツ科学学術院  
教授

**作野 誠一**

[ 発表者 ]

鹿児島県：NPO法人SCC  
理事長

**太田 敬介**

長野県：一般社団法人 たかぎスポーツクラブ  
理事・クラブマネジャー

**上杉 健太**

埼玉県：一般社団法人 ふじみ野ふあいぶるクラブ  
理事長

**篠島 幹昌**

# 「スポーツで輝く未来を楽しく！」

～地域の課題を解決するスポーツクラブの実現を目指して～

鹿児島県・総合型地域スポーツクラブ NPO法人SCC 理事長 **太田 敬介**

## 1 クラブ所在地の概要

本クラブは、本大会が開催されている鹿児島県鹿児島市で活動をしている。鹿児島市は九州南部に位置し、人口約60万人。古くから薩摩藩の城下町として栄えた鹿児島県の県庁所在地である。市街地側から錦江湾を挟んだ対岸（直線距離約4km）に位置する桜島は、活発な火山活動を続けており、市中心部にもしばしば降灰する。スポーツ活動に影響を及ぼすこともある。



活発な活動を続ける桜島は、鹿児島市街地のすぐ目の前にある。

## 2 実業団陸上部の廃部から生まれたクラブ

わたしは、元々、実業団陸上競技部に所属し、短距離走を専門とするアスリートであった。オリンピック、世界陸上等、日本代表として世界大会への出場を夢見て選手生活を送っていたが、転機は突然に訪れた。

2000年（平成12年）3月23日、シドニー五輪開催の年。春からの大会出場に向けて最終調整という時期だった。陸上競技部のメンバーが会議室に集められ、その場で、3月末をもっての廃部が告げられた。大きなショックを受けた。失意の中、所属企業を退社し、選手としての現役続行を求め道を模索するが、徐々に走ることへの意欲を失っていく。

「今まで自分がやってきたことは、一体何だったのだろうか…」

精神的に沈み込み、不安定な日々が続く中、このような経験を踏まえ、これからの自分にできることはないだろうか。学校部活動・企業スポーツがベースにある日本のスポーツ界の中で、欧州にあるような、地域が主体となり自立した、新しい形の地域スポーツクラブの設立を決意し、立ち上がった。

## 3 スタートは会員3名

日本のスポーツ団体は、ほとんどが同世代でチームを構成している。「子ども、若者、大人、お年寄り、様々な世代が集えるコミュニティのようなスポーツクラブを立ち上げてみよう。」世代を超え、地域に根付き、スポーツを通じたコミュニティ、その輪が大きく広がりますように、との思いから「Sports Communication Circle（スポーツ・コミュニケーション・サークル）」と名付け、その頭文字をとり、SCCというクラブ名を付けた。平成12年7月スタート時の会員は、20代の大学部活動に所属する男子学生、県マスターズ大会100mに出場をしていた40代の女性、その息子小学校4年生と、まさに世代もレベルもバラバラな3人と指導者1人で、小さな地域スポーツクラブ「SCC」は活動をスタートさせた。翌年5月にはNPO法人化、平

成17年には日本体育協会(当時)の総合型地域スポーツクラブ創設事業を受託し、翌18年には総合型地域スポーツクラブとして再スタートした。

設立から18年が経った平成30年現在、会員数は760名、常勤スタッフ3名、非常勤スタッフ30名、年間予算規模は約3,200万というクラブに成長を遂げている。



鹿児島市内にあるクラブハウス



勤務するクラブスタッフ

#### 4 総合型地域スポーツクラブとして

現在運営している教室の種目数は、陸上競技教室、サッカー教室、幼児体操教室、健康体操教室(ストレッチポール教室、ノルディックウォーキング教室)の計4種目13教室と、総合型地域スポーツクラブとして少ない方ではあるが、総会員数760名のうち約85%が陸上競技教室に所属する会員であり、陸上競技をベースに教室を展開してきている点が特徴的である。



陸上競技教室



ノルディックウォーキング教室

#### 5 人材育成と多様なニーズへの対応

クラブが持続可能な「社会的な仕組み」となるためには、質の高いスポーツプログラムを生み出す仕組みづくり、人材育成の仕組みづくり、多様なニーズをプログラムの中に反映させていくための仕組みづくりが鍵となる。

##### (1) クレドカード

教室の指導における基本的な心構えをまとめた小冊子を作り、全スタッフに配布をし、共通理解をしている。クレドとはラテン語で「志」「信条」という意味。指導者として声のかけ方、発育発達の特徴を考慮して指導をすること、常にプレイヤーズファーストの視点を持つこと、おもてなしの心を持つこと等、簡潔に分かりやすい内容としている。

(2) オリジナルグループウェア

グループウェア(組織内の情報共有やコミュニケーションを促進するソフトウェア)を開発会社と共同で立ち上げ、活用している。各スタッフはそれぞれの教室での指導が終わった後、グループウェアを通して日報を上げる。各教室がどのような状況で、成果、課題があるのか、情報を全スタッフで細かく共有している。また、それぞれの日報にはコメントを付けることができ、スタッフ同士の情報交換にもなっている。

それらの日報をゼネラルマネジャーが月に一度まとめ「今月のイチオシ報告」「改善が必要な報告」を三つずつ挙げ、それぞれ何がどう良かったのか、どういふ改善が必要か、コメントを付け、スタッフ全員にフィードバックをしている。

(3) スタッフを固定化しない

約30名の指導スタッフが登録をしているが、クラブ立ち上げ時からいるスタッフもいれば、ここ数カ月の間にスタッフになった者もいる。その指導スキルには大きな差がある。良い指導スキルが指導者個人のものとして終わるのではなく、クラブのノウハウとして積み上げていくことが大切である。プログラムの指導をする際、スタッフをペアで組ませ、その組み合わせを固定化せず、常に変え続けることで、スタッフ同士が指導をしながらお互いの指導スタイルを学び合える仕組みをつくっている。

(4) ヒヤリング(調査:多様なニーズへの対応)

ゼネラルマネジャーが各教室を回りながら、アトランダムにクラブ会員にヒヤリングを実施している。それぞれ会員が、どのようなことを目標としていて、どのようなことに楽しさを感じているのか、また、どのような要望、不満があるのか等について聞き取りをする。それをまとめ、傾向を分析し、クラブとして求められていることは何なのか、多様なニーズを各教室のプログラムに反映させるようにしている。

また、入会時、退会時においても、アンケートやヒヤリングを実施し、何故、入会をしようと思ったのか、何故、退会するに至ったのか、データを集め分析をし、新規入会率の増、退会率の減に向けた経営戦略のデータとしている。

(5) 定期スタッフ研修会

開催日時	イベント名	スタッフ名	内容
			水曜トレーニング 参加人数19名
2015/9/8 11:57	外部研修	大塚 浩樹	・研修 ・リアクションタグ ・練習 ・ラリー 子供たちも運動場に向かっていた様子が見られました。ラリーでも、チームを大声で応援しているなどいい声を出して、ボールを奪ってできなかったのは残念でした。最終目標が達成された喜びが伝わっていました。
2015/9/8 10:51	ジュニアスクールの	生田 雅夫	開始時間短縮しました。遅くまで遊びに飽かずに動きまわっていました。早退で帰る子供も増えてきました。ラリーでも声を出して応援する姿が見られました。子供たちも楽しんでいる様子が見られました。研修も満足しています。あと少しの練習をすれば外観がきれいになる。
2015/9/8 08:47	総合型クラブ	鈴木 幸介	痛みがあまり強くないことは良かったです。痛みが軽減するようにして無理な動きをすることでさらに別の痛みを招く恐れがあります。指導者も十分に研修を受けてほしいです。
2015/9/8 08:43	総合型クラブ		走る距離に慣れる。加速を付くための30mを走りこむための練習の30mを積極的に走りこむことが目標を掲げていること。動きが速くなっている中で走る距離に慣れることで身体能力の向上を促すこと。
			H27-09-07 職員研修 ○確定拠出年金講座 ○アルバイト勤務者の ○研修、研修、研修 ○研修、研修、研修 ○研修、研修、研修

グループウェアに書き込まれた日報



スタッフ研修会の様子

年に3回開催するスタッフ研修会では、救命救急の基礎(AEDの使い方)や、上記(1)のクレドカードの内容について協議を深めたり、様々な指導法等について、研修を積んでいる。

## 6 イベント=趣向を凝らした独自性の高いイベントを実施

### (1) 50mダッシュ王選手権

クラブを立ち上げて2年ほど経った頃「クラブを象徴するようなイベントをやろう。」と企画したイベント。クラブの特徴といえば(1)多世代の参加(2)元陸上競技短距離選手が立ち上げたクラブ、ということで「50m走」に特化したイベントにした。第1回目は100名ほどだった参加者も現在は300名近くまで増え、その企画の独特さから「yahooニュース」のトップ画面でも取り上げられたこともある。参加条件は「50mを1分以内で走り切れること」、1歳から80歳代まで幅広い年齢層にご参加を頂いている。平成31年3月に第18回大会が開催予定である。

### (2) 夏休み! 小学生かけっこ塾

かけっこが好きな子どもたちは、毎年の運動会を楽しみにしているが、その反対に、苦手な子どもはとても憂鬱な気持ちでいる。かけっこが苦手な子どもは、そのままスポーツ離れにも繋がる。夏休みの間にかけてこの特訓をして、かけっこに対して自信を持ち、スポーツ好きな子どもを増やしたい、という趣旨で企画したイベント。前期、後期それぞれ75名、計150名の定員で募集をかけるが、例年定員以上の申込みを頂いている。



世代を超えたかけっこ勝負「50mダッシュ王選手権」



運動会前のかけっこ特訓「夏休み! かけっこ塾」

## 7 地域の課題を解決するために

人がスポーツをする理由は人それぞれである。また、何故クラブに所属をしてくださるのか、イベントに参加してくださるのか、人それぞれである。人の数だけ理由があり、その「多様な理由」一つ一つに寄り添っていけるクラブでありたい。800名近くの会員がいて、そのようなことができるのか、と問われれば100%はできないことかもしれない。けれども「800名の会員」という言葉で抽象化することなく、大袈裟ではなく「800名分の人生」がそこにある。終わりのない試みではあるが、スポーツを通して一人一人の思いを受け止めることが大

切であり、その積み重ねが「地域の課題を解決する。」ことなのかもしれない。

また、「スポーツはスポーツを通して多くの地域課題を解決することができる。」という言葉だけが強調され過ぎて、スポーツ本来がもつ普遍的な価値、楽しさや面白さというものがないがしろにはいけないとも思う。スポーツそのものに内在する楽しさ、面白さを高めることは、参加する人を増やし、そしてその活動を続けていくための最も大きなファクターである。

その副次的な効果として、地域の様々な課題を解決することができる。社会教育、青少年教育、地域活性化、世代間を越えた交流、子どもたちの体力向上、生涯を通じた健康的なライフスタイルの増進、それにより増え続ける医療・介護費用を抑制することができる。まさに運動・スポーツは、複雑かつ多様化する国家課題を解決するために必要不可欠なものである。一人でも多くの国民が、運動・スポーツに気軽に親しむことができる仕組みを、社会総がかりで構築していくことは、今後更に重要になる。

そういうマクロ的な視点から、次はミクロなところへ視点を移すと、我が家の中で起きていることだが、我が家には4人の子どもがいる。高校1年男子、中学2年男子、小学5年女子、幼稚園年長女子。一番下を除いては、思春期に入り、なかなか難しい年頃。しかし、全員が本クラブの会員であり、陸上競技場では一人の陸上競技選手である。わたしも陸上競技の指導者としてコミュニケーションをとる。普段の親子とはまた違うコミュニケーションとなる。時には前夜ちょっとした言い争いになったような時も、いざグラウンドに立てば、そのようなことは関係ない。いつの間にかコミュニケーションをとっている。また、皆さんご存知のとおり、トレーニングが終わった後のなんとも言えない充実感、ほっとした感じは何にも代えがたく、このような瞬間にぶすっと不機嫌にしている人はいない。頬を伝わる風に心地よさを感じながら帰宅するときは、いつもみんな上機嫌。「今夜の晩ごはんは何かな、お腹減ったなあ。」なんて言いながら、会話も弾む。難しい年頃になっても、家族仲良く円満にやっっていけるのは、まさにスポーツが我が家の課題を解決してくれているから。心から感謝をしたい。そして、このような風景を我が家の当たり前の風景として、本クラブが大切にしたい風景として、これからいつまでも守っていきたい。

# スポーツの多様性を表現していきたい

一般社団法人 たかぎスポーツクラブ 理事・クラブマネジャー 上杉 健太

## 1 クラブは地域課題の解決を目指しているわけではない

当クラブは地域課題の解決を目指して活動をしているわけではないということを、はじめに述べておかなければならない。我々はただひたすらに、それぞれの「やりたい!」を叶える為にクラブに所属し、スポーツを行っているにすぎない。それが結果的に地域課題の解決につながることはあっても、目的としているわけではない。クラブでの活動やスポーツを通じて享受する幸せを、死ぬまでずっと享受し続けること(=生涯スポーツ社会の実現)こそ、当クラブ(=会員)が目指していることである。

ただし、当クラブは、多くの総合型クラブがそうであるように、実質的には行政が主体となって立ち上がったクラブであるため、地域課題や行政課題の解決のためにクラブが存在するという側面もある。また、補助金などの公的な資金をいただいているため、公益性の高い事業を行っていることは、併せて述べておく。

## 2 たかぎスポーツクラブはどんな地域課題を“結果的に”解決してきたか

### (1) 拠点である長野県喬木(たかぎ)村の概要

- ・人口 約6,300人
- ・小学校2校 / 中学校1校 / 総合型クラブ1
- ・スポーツ施設
 

体育館5 (内3は学校施設)	
グラウンド5 (内3は学校施設)	
テニスコート4面	
ランニングコース1	
多機能型施設(クラブハウス)	フットサル兼テニスコート1面
	スタジオ
	フィットネスジム



### (2) クラブ遷移

平成23年度 総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会設立  
 ※ 村体育協会・スポーツ推進委員会・教育委員会などで構成  
 平成25年度(1年目) 喬木村総合型地域スポーツクラブ設立

※ スポーツ推進委員のほとんどが運営委員となる

平成26年度(2年目) 「地域おこし協力隊」の活用(以後3年間)

以降の柱となるテニス部門を設立

平成27年度(3年目) たかぎスポーツクラブに改名

会費制の導入

平成28年度(4年目) テニス部門で志向別クラス編成の導入

平成29年度(5年目) 一般社団法人たかぎスポーツクラブとなる

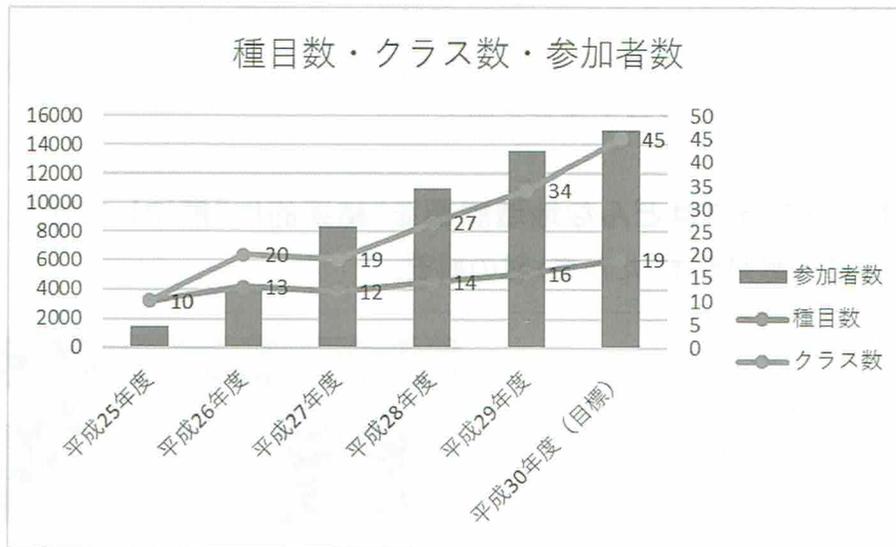
年度末で2種類のtoto助成期間終了

平成30年度(6年目) 喬木村多機能型施設「みんなの広場アスポ」運営開始

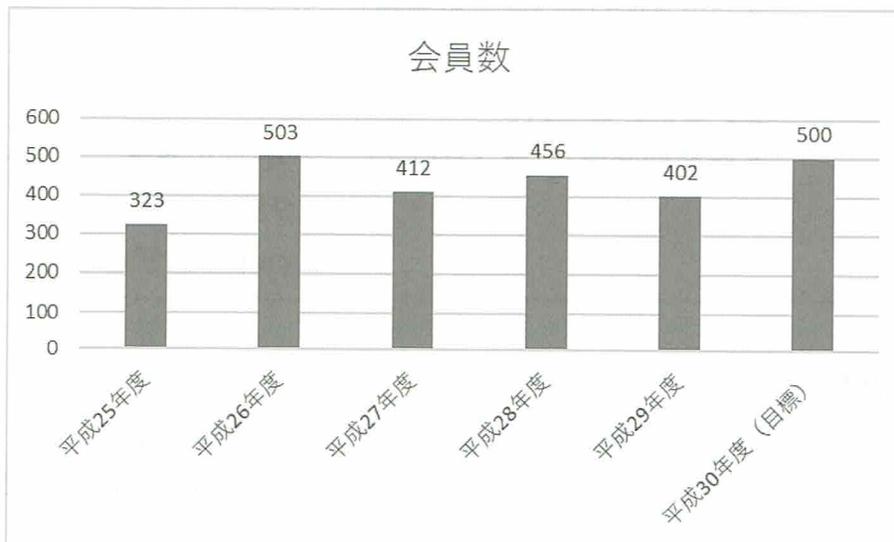
フットサル・ランニングでインストラクターを雇用し、クラスを

大幅拡大

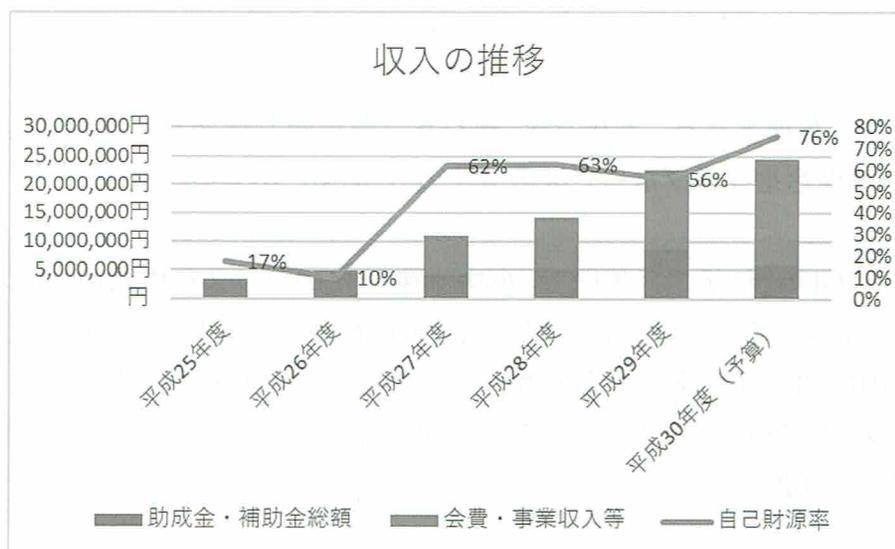
ア 種目数・クラス数・参加者数



イ 会員数



## ウ 収入



## (3) 事例1:スポーツの多様性を少しずつ実現

## ア 選択できる種目の拡大

少年団や体育協会所属団体など、既存団体が行っていた種目と極力重ならないように活動を立ち上げていったため、住民にとってはスポーツ種目を広く選べるようになった。特に、一つのスポーツを何らかの理由でリタイアしてしまった子どもが、すぐさま異なる種目を選べる環境が準備できるようになったことは大きな成果。部活動へ入らず総合型での活動を続ける子どもも増えてきている。

また、当クラブまたは他団体との間で複数種目を同時に行う会員も増えてきている。これから人口減少が進んでいく前提に立つならば、それぞれの種目の愛好家人口や競技レベルを維持するために、一人が複数種目を同時に行うことを当たり前(=文化)にしていくことは、極めて重要な取り組みだと思っている。

- ☆クラブ2年目:テニス部門を新設。1年間に4クラスが活動をスタート
- ☆クラブ4年目:毎回異なるスポーツを楽しむ「スポーツ広場」がスタート

## イ 選択できる志向の拡大

スポーツに対するニーズは実に多様。近年では多くの習い事を同時にやる子どもも増えており、それぞれのスポーツの取り組み方は、個人によって大きく異なる。競技としてやりたいというニーズもあれば、とにかく楽しみたいというニーズもある。当クラブの、「のびのびクラス」では、スポーツやその種目が好きになることを目的として活動を行い、「育成クラス」では、競技選手として目標達成を目指して活動を行っている。また、大人向けには指導者がいるクラスもあれば、指導者なしで活動を行うサー

クルもある。一つのクラブ内で志向に合わせて活動を選べることは、地域住民の多様なスポーツニーズを充足させる一助になっていると思われる。

さらに、特に子どもにおいては、志向や能力、人間関係の変化によってクラス替えや種目替えを提案することができ、それをコーチ間で情報を引き継ぐことができている。これは総合型クラブならではのメリットであるといえると思う。

☆クラブ4年目：テニス部門で、小中学生年代のクラスを再編成。エンジョイ志向の「のびのびクラス」と、競技志向の「育成クラス」に分かれる。さらに、大人の部門では教室卒業者でサークルの立ち上げが行われた。

☆クラブ5年目：テニス部門のクラス編成をフットサル・ランニング部門にも応用して展開

#### ウ 機会の拡大

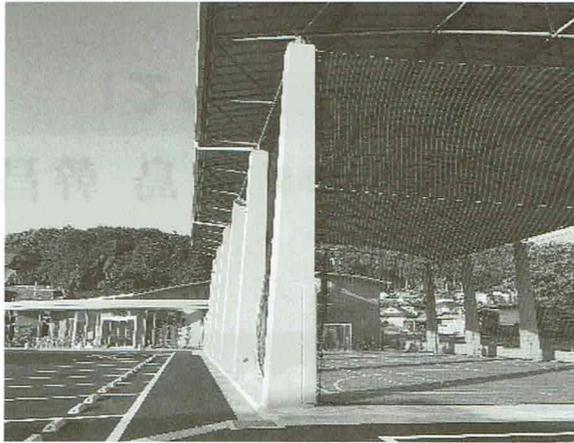
当クラブは、常勤職員が4名で、内2名がクラブマネジャー、2名がインストラクター。マネジャー2名は指導業務も行っている。仕事としてクラブの業務を行っている職員は、ボランティア指導者では動きにくい平日夕方にも盛んに活動を行うことができる。これまで土日しかスポーツをする機会がなかった小学生などが、総合型クラブでの活動をプラスして平日にもスポーツを行うことができている。仕事として総合型クラブに関わる人材が増えることで、地域にスポーツ活動の機会を増やすことができてきた。また、平日の運動機会がプラスされることによって、他団体の競技力向上にも寄与することができていると思われる。

☆クラブ3年目：テニス部門をはじめ、各クラスの活動頻度を上げてのべ参加者数が大きく伸びた。

☆クラブ5年目：テニス部門ではプロインストラクターと委託契約、ランニング・フットサル部門でインストラクターを雇用して平日夕方の活動も充実させることができた。

#### (4) 事例2：居場所づくり

2018年4月から運営を開始した「みんなの広場アスポ」は、『喬木村』・『喬木村社会福祉協議会（ボランティアセンター）』・『たかぎスポーツクラブ』の三者が連携して建設を企画した施設である。現在は、様々なボランティアニーズをマッチングする機能を持つ「ボランティアセンター」と当クラブの2団体が施設内に事務所を構え、共同運営を行っている。これにより、会員に限らず様々な方が施設を利用することとなり、それぞれの方の居場所となるだけでなく、様々な交流が生まれることとなった。



みんなの広場アスポ コート



みんなの広場アスポ コミュニティスペース

- 利用例①(小学生): 下校後アスポへ→宿題→テニス(クラブ活動)  
→卓球(自由遊び)→帰宅
- 利用例②(高校生): 休日にアスポへ→試験勉強→卓球(息抜き)→昼食休憩  
→また勉強
- 利用例③(保護者): 子どもを迎えにアスポへ→帰宅前に卓球で子どもと交流  
→周りの子どもも入り, みんなで卓球
- 利用例④(保護者): それぞれの活動後アスポへ→テラス席でバーベキュー  
→クラスを越えた子どもと保護者・コーチ・スタッフの交流

### 3 たかぎスポーツクラブの課題

当クラブは、半永久的に会員が幸せを享受できるクラブを目指している。そのために作り上げたい形の1つとして、『地域スポーツクラブを仕事にできる』がある。これが実現できれば、多くのスポーツ機会を生み出すことができるし、マネジャーやインストラクターの後継者を育てやすくなり、クラブが活発な活動を半永久的に続けていく仕組みとなり得るからだ。しかし現状は、将来的に十分な報酬を用意できるだけの収入は確保できていない。

この課題をクリアするためには、受益者負担のマインドをさらに広めて会費収入を増やすことを目指しつつも、地域や活動内容にあった人員配置、コストバランスの追及、自治体や地元企業との関係性の構築など、喬木村における総合型クラブのベストの形を見極めていかなければならない。

ただし最も重要なのは、クラブの活動が誰かを幸せにしていること、そして、それがずっと続いていくこと。スポーツで色々な幸せの形を実現するためにも、多様なスポーツの形をこれからも生み出していきたい。

## 身近な課題から始まり、 新たな課題解決ができるクラブを目指して！

一般社団法人 ふじみ野ふぁいぶるクラブ 理事長 篠島 幹昌

### 1 クラブ設立ストーリー

#### (1) ふじみ野市は、どんなところ？

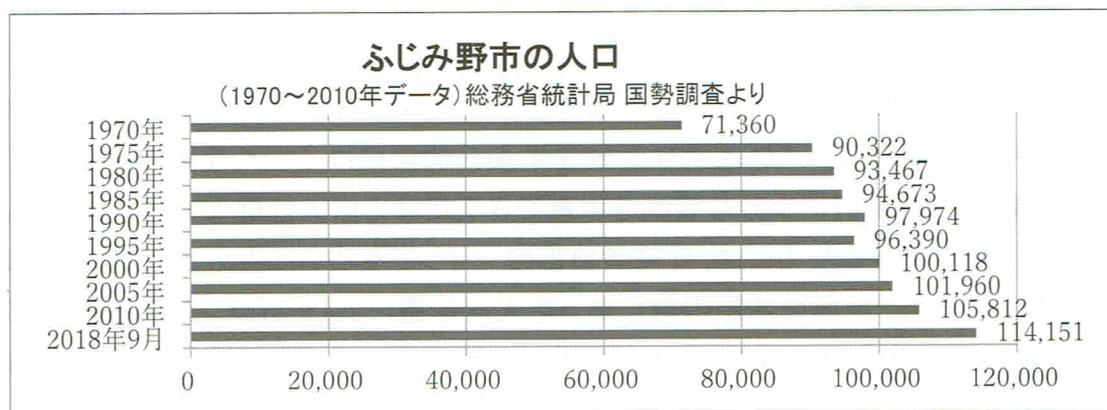
埼玉県南東部にある人口11万4千人のまち。平成17年10月1日に上福岡市と入間郡大井町が合併して誕生。北には川越市、東には富士見市と、さいたま市が隣接。東京(都心から30キロ)のベッドタウンとして昭和30年代の団地建設、平成5年11月のふじみ野駅(急行が停車)開業による



周辺開発、上福岡駅周辺の市営住宅の再開発等により、未だ人口が増えている。※ただし、今後急激な高齢化がすすむこと(2025年問題)は深刻な課題?!

#### ◆ 昔からの住民(「旧上福岡市民」と「旧大井町民」)と新興住宅の住民(ふじみ野市民)

それぞれの住民の地域参加意識やニーズは違っていると思われる。学校は大学1, 高校1(もともと2校だったが統廃合), 中学校6(約3,000人), 小学校13(約6,000人)。旧上福岡市エリアの上福岡駅東口周辺には飲食店が多く、外国籍の住民も年々増えており、その子どもたちも増えている。近年は郊外に大型ショッピングセンターも建設された。



#### (2) 既存(環境・仕組み)の限界。「仕方がない」を「仕方はある」に変えたい!

市が主催するスポーツ行事の運営協力をしていて感じたのは、参加者もサポートする側も、顔ぶれがいつも同じで、サポートする側の無理やりの当番制による雰囲気。いっぽう高齢化や会員減少は課題とされ、小学生保護者からは勝利至上主義でなく、ス

スポーツの楽しさや基本を教えてほしいという声や、中学・高校で入部したものの人間関係などで辞めてしまい、やりたいけど場がないという相談も受ける。周りに相談するも「(既存環境では)難しい。」「仕方ない。」と言ってどうしようかとは考えない。なんとかしたいと思い、提案するも「若い人の考えは難しくてよく分からない。」と言われてしまう。「(できることから)仕方ないを、仕方あるに変えよう。」と決意する。

#### ◆ 総合型地域スポーツクラブの設立

平成16年、(旧上福岡市)体育協会で検討委員会(合併・法人化・総合型クラブがテーマ)が立ち上がったため委員として参加。主な内容は、体育協会合併による新定款及び体制づくりだったため、総合型クラブについては自立案件(体育協会と引き続き連携は願います。※事務所スペース等)として進めさせてもらう。理念やビジョンに共感してくれた地域スポーツ関係者、既に開催していた(世代・競技レベル問わず参加できる)交流バスケットボール仲間の有志、またラケットテニス普及を進めていたスポーツ推進委員の有志、埼玉ブロンコス(埼玉県のプロバスケットチーム)などの協力により、多種目スポーツ体験交流イベントや講習会等を不定期開催。地元ローカル紙に総合型クラブをテーマとしたコラムも連載。平成21年3月8日クラブ正式設立。脱サラし専従。



スポーツフェスタ(バスケットボール)



多種目スポーツ体験交流イベント(ラケットテニス)

### (3) 地域の課題／地域スポーツ課題の解決・・・スポーツ×まちづくり

準備期間中は「地域の誰もが参加できる!」をテーマに、イベントや定期活動を行い、スポーツで地域の仲間づくりを広げていく。しかし、どうしても場に閉塞感や偏りがしやすい(「共的」から「公的」への)難しさを感じる。あらためて住民ニーズ・視野にたち「身近に場があること」の大切さに、より目を向けてみると、施設などのハードウェアとプログラムやイベントなどのコンテンツなどのソフトウェアの間に位置付けられる「ミドルウェア(地域スポーツ基盤のようなもの)」を、もっと整備するようなアプローチが必要なのではないかと思うようになる。正式設立時の計画に反映していく。取組の一つが、町会・自治会・子ども会などの加入も少なくなってきた、近所同士の顔さえあまり見え

なくなりつつある、地域コミュニティ活性化という地域課題。クラブとして主な対象である子どもをキーワードにし、既に開催していた子どもたちのバスケ教室を数年かけて市内全6中学校区に拠点展開し、ネットワーク化して、地域では見られなくなっていた、子ども会対抗球技大会のような場を再びつくることを計画に入れ実行。※設立4年後、1歩目のネットワークイベントを実現。企業CSR協賛も得る。



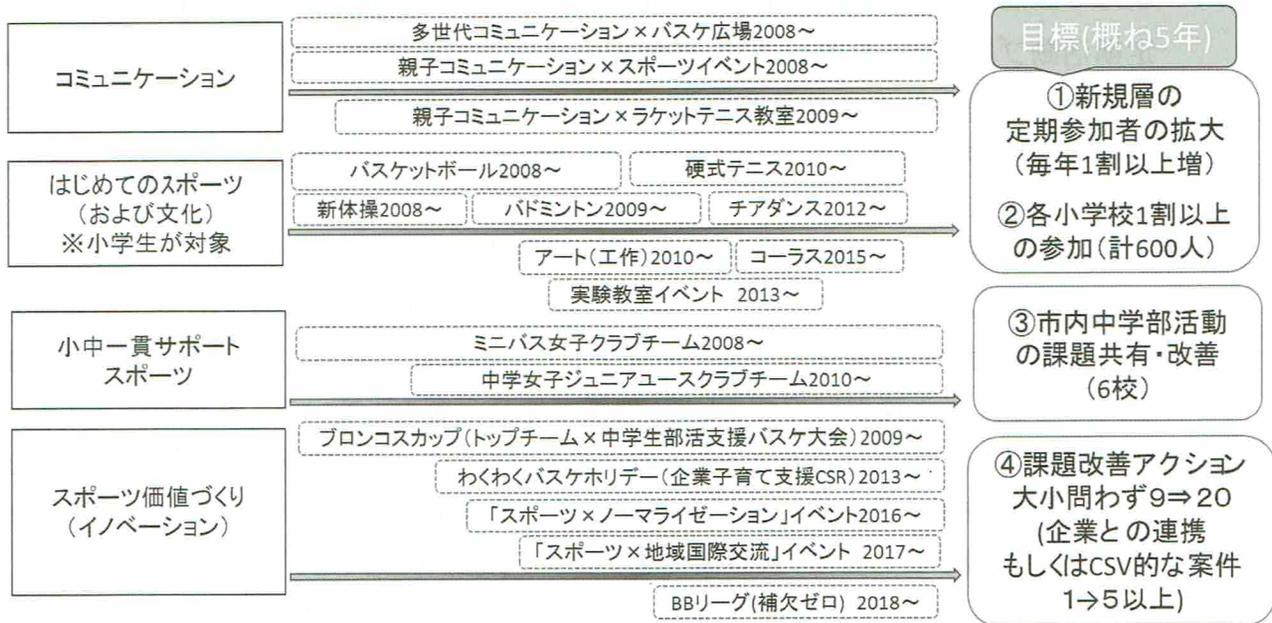
わくわくバスケットホリデー（教室交流ネットワークイベント）

一方、(地域課題というよりは)地域スポーツの課題として、地域にあるスポーツの場の多様化と二極化が進んでいることや、それらが点(地域や横のつながりをほとんど作っていない。)になっていることを現場活動から感じる。

競技志向のジュニアスポーツの場は既にあったため、競技の前段階もしくは、ジュニア競技団体との連携や、サポートできる位置づけとなるような「はじめてのスポーツ」をテーマに定期プログラムを実施。小学生や親子を主な対象とし、バスケットボール、新体操、バドミントン等の室内種目と、硬式テニス教室プログラム等を、各種目関係者に協力してもらいスタート。また、市主催のスポーツ体験教室(チアダンスなど)終了後の受け皿的な機能にもなり、できることから種目等の幅(種目数)を増やしていく。

#### ◆ ソーシャルスポーツ

定期プログラム充実化(満足度)は常に大切にしながらも、それを継続していくことで、課題の大小関わらず、どんな課題に対して、どのようなアプローチになっているのか、また、可能性があるのかも併せて常に考えるようになっていく。



総合型クラブの事業カテゴリロードマップ及び5年後のゴール

多様化・多様性については、競技レベルの二極化と志向の多様性にとらわれず、「そもそも多様化・多様性とは(課題, 効果等も含め)何か?」を考えながら、地域スポーツを通じた相互理解の促進や、(外国籍住民との)多文化共生なども含め、小さくてもできることから不定期イベントなどを通じてカタチにしていくスタンスで進めている。

平成29年度「ふじみ野市スポーツ推進計画」が施行されるまで、市にはスポーツ振興の計画的なものがなかったため、自分たちの進むビジョンが、市のスポーツ振興ビジョンと共有できるように担当部署との関係づくりにつとめてきた。「ふじみ野市スポーツ推進計画」の策定にむけた、スポーツ推進審議会に委員として参加して意識共有。また、居場所づくりや放課後づくりを課題とした、教育委員会や子育て支援課の「土曜学習」,「放課後子ども教室」,「放課後児童クラブ(学童)」にも指導者やコーディネーターが協力。

#### (4) クラブの課題(「地域づくり×スポーツ」の停滞・壁)へのアクション

設立5年を過ぎた頃、右肩あがりの時期(活動を増やせば定期的な参加者も増えていく段階)から、施設確保の限界等の理由から停滞時期となる。またtoto助成金を5年間で終えることにし自立時期を迎えた後、ある程度想定範囲内であったものの、経営的に有給専従や雇用していくことの厳しさを感じる。そこで理念・ビジョンの共有は大前提で、それまでの「参加ニーズの多様性」に応える観点に加えて、「(支える側の)多様な人づくり」の観点をより入れて、多様な関わり方で、新たに支える側の仲間を増やすことを考える。クラブ理念とともに、市スポーツ推進計画との整合性や計画へのインプットについても、改めてきちんと意識共有していくことにした。

## (5) 新たな課題解決は、新たな仲間づくりと共にしていく!平成生まれの活躍!

定期活動プログラムにおいては、参加状況や利益率管理から、場合によっては外部からの指導者変更や指導者謝金歩合制への見直しなどをしながら、いったんスリム化して、現状スタッフ負担はできるだけ増やさず、新たなイベントや定期プログラムを追加。

## ◆ 「スポーツ鬼ごっこ」の活動サポートおよび連携

なかでも「スポーツ鬼ごっこ」は、幅広い層の人達が楽しめ、小学生の競技前段階としても適しており、学校体育授業でも導入している実績があることを知った。たまたま市内に住む大学生達が同好会として、地域で普及活動をしていることを知り、「スポーツを通じた地域づくり」の考えを話したところ共感してくれ、クラブの現場協力スタッフになるとともに、その同好会活動をクラブが支援するカタチで連携。クラブ主催イベント、放課後子ども教室、放課後児童クラブ(学童)等の人気プログラムになる。

※ 今年度、正式に「ふじみ野市スポーツ鬼ごっこ連盟」が設立された。



イベントや放課後子ども教室でも、人気の「スポーツ鬼ごっこ」

## ◆ デザインチームとインターンチーム、地元在住の音楽家との繋がり

他にも、クラブの広報やイベント企画において、大学でスポーツ分野やコミュニティデザイン分野などで学び、現在スポーツ関連の企業に勤めている20代若手数名が、「スポーツを通じた地域づくり」に共感してくれ、プロボノ参加し、デザインチームが発足。

基本的には提案されたことはOKするスタンス。30~40代女性を意識した募集チラシ製作や広報デザイン、又「スポーツで未来づくり」をテーマにしたワークショップを企画。さらに大学生がクラブにインターン参加できる場も設計し、インターンチー

ム発足。デザインチームメンバーがコーチとなり、総合型クラブはもちろん、スポーツ業界で必要なスキルやマインドを大学生が主体的に現役業界関係者から学べるキャリアデザインの新たな場にもなっている。プレゼンテーション合宿も夏に開催。さらに、他にもスポーツだけでなく、小学生コーラス教室を通じ、地元音楽家の方々と繋がりもできている。

総合型クラブを通じて、スポーツ仲間を増やしていくことから始まり、地域のより多くの人たちがスポーツを通じ、参加できるような場づくりを進めてきたが、半径数十メートルにある身近な課題からアプローチしていくうちに、最近は新たな課題に対してアプローチができるような体質ができつつある。新たに多様な人が集まりつつあり、また、他組織とのWin-Win連携もできるようになってきたことが大きい。

#### ◆ RSMO (地域スポーツ運営組織)

(総合型クラブ、スポーツ推進委員、市町村体育協会、大学、スポーツ少年団、レクリエーション協会、学校、商工会、金融機関、行政などの地域関係者)が連携した「RSMO (地域スポーツ運営組織) ※スポーツ白書2017の政策提言より抜粋」の枠組みで、スポーツを通じた課題解決に取り組むスタンスを持っていけることを、これからは考えていきたい。RSMOにもつながっていく可能性があるのが、平成30年度中に実施予定の「スポーツ関連団体ネットワークの設置事業」。総合型クラブが中心的な役割を期待されているが、本事業を進めるにあたり「部活動連携(融合)・支援」、「ノーマライゼーション(健常者と障がい者が同じ場で一緒にプレーする)ノ parasports×テクノロジー」、「地域スポーツ国際交流(外国籍住民とスポーツでつながる場づくり)」などをテーマに、改めてスポーツ推進委員の皆さんはじめとした地域スポーツ関係者やテーマを共有できる地域の人たちにも参加をよびかけていきたいと思っている。



「部活動連携・支援ネットワークづくりプロジェクト」デザインワークショップ

## ◆ 部活動連携(融合)・支援, およびネットワークづくり

「部活動連携・支援」については、大変デリケートな問題で、地域性の違いもあるが、これからどの地域でも課題となってくるテーマであり、スポーツで地域づくり進めるうえで大切な人づくりの部分において、若い世代の仲間を増やし、新しい風を取り入れていく大きなチャンスだと考えている(風と土)。埼玉県総合型クラブネットワーク組織(一般社団法人彩の国SCネットワーク)でも、プロジェクトを担当し、デザインワークショップを今年度より開催している。今後も情報発信を続けていきたい。

# 第2分科会

[ テーマ ]

**「スポーツで輝く未来を元気に！」**  
～健康で生き生きと暮らせる長寿社会の実現を目指して～

[ コーディネーター ]

NPO法人 日本健康加齢推進機構  
理事

**小澤 多賀子**

[ 発表者 ]

鹿児島県：鹿屋体育大学 スポーツ生命科学系  
教授

**中垣内 真樹**

長崎県：長崎市スポーツ推進委員協議会  
会長

**宮崎 武洋**

茨城県：みなとwaiwaiクラブ  
クラブマネジャー

**吉村 孝子**

# “歩く脳トレ運動”スクエアステップの研究事例

国立大学法人 鹿屋体育大学 スポーツ生命科学系 教授 中垣内 真樹

## 1 スクエアステップとは

スクエアステップとは、横100cm、奥行き250cmの面を25cm四方の升目(スクエア)で区切ったマットを使用し、前進・後退・左右・斜め方向への連続移動を伴う(ステップを踏む)エクササイズである。身体的状況や習熟度に応じて段階的に難易度(動きの複雑さ)を決定できるので、老若男女を問わず誰もが楽しめるエクササイズである。



スクエアステップとは、横100cm×奥行き250cmの面を25cm四方のマス目で区切ったマット上を前後、左右、斜め方向へ連続移動する運動

④			③		④	②	③
	②	①				①	
④			③		④	②	③
	②	①				①	

右足スタートのステップパターンの例

### (1) スクエアステップの身体への効果(研究成果)

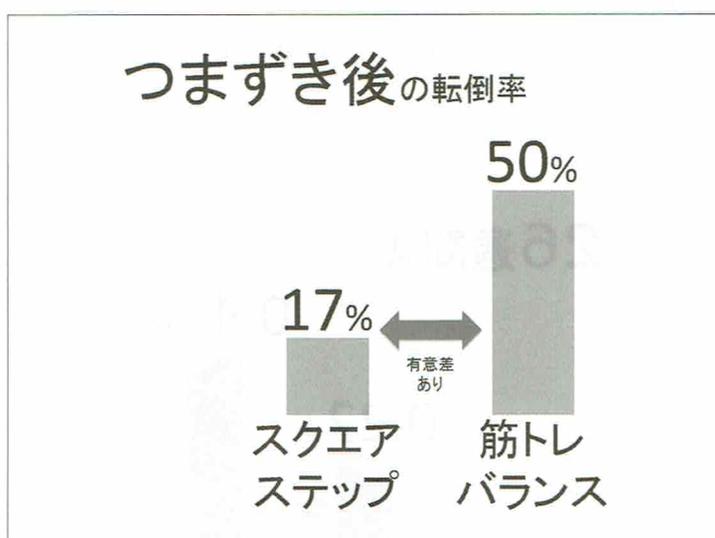
スクエアステップまたはウォーキングを週1回、3か月間実践したグループについて、運動の効果を比較すると、ウォーキングにも身体的な効果が見られるが、ウォーキング群に比べスクエアステップ群では、脚パワーやバランス能力、移動能力、反射的な能力に大きな効果が得られた。スクエアステップの場合、パターンを正確に出来ずに、足の置き場所を間違えるとバランスを崩しそうになる。それに耐えようとする、すなわち、バランスを取ろうとする動きによって、脚パワー、反射能力、バランス能力が養われるものと考えられる。自然と足場の悪いところでウォーキングを実施しているような状況になるのである。

### 体力(転倒リスク要因)

	スクエアステップ	ウォーキング
脚筋力	改善	改善
脚パワー	改善	—
リーチ長	改善	—
継ぎ足歩行	改善	—
起立時間	改善	改善
ステップング	改善	改善
歩行時間	改善	改善
反応時間	改善	—

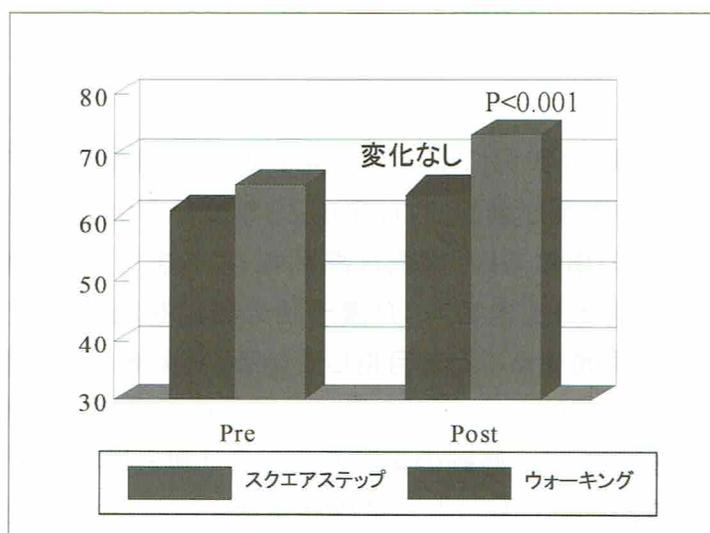
スクエアステップまたは筋力・バランス運動を週1回、3か月間実践したグループについて、脚パワーは両グループで同様な効果が得られた。同じくバランス能力と俊敏性も効果は同じであった。以上のことから、スクエアステップには、バランス能力や筋力を特異的にトレーニングするのと同等の効果が得られることがわかった。

さらに、両グループを転倒について1年間追跡した研究によると、スクエアステップグループは、つまずき後の転倒が少なかった。すなわち、転倒予防に効果が得られた。



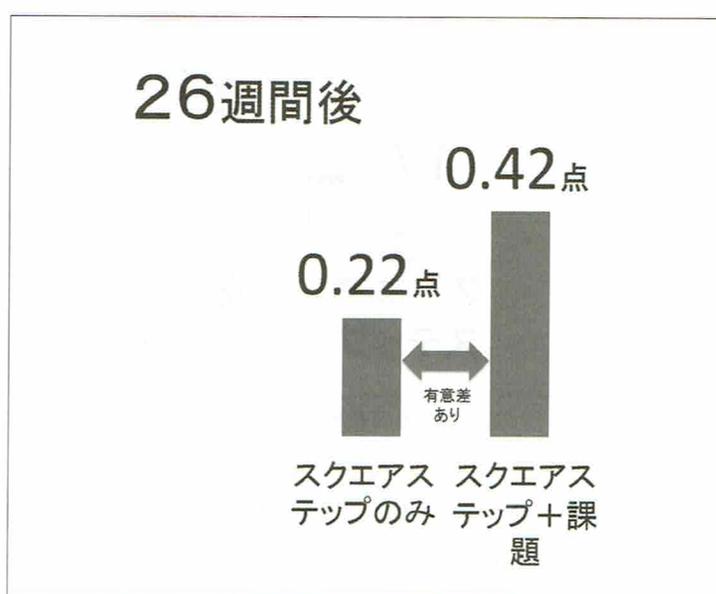
つまずき後の転倒率の地較

スクエアステップまたはウォーキングを週1回、3か月間実践したグループの認知機能への効果を比較した。認知機能のテストの結果は、スクエアステップグループで改善、ウォーキンググループでは維持であった。スクエアステップが高齢者の認知機能にも効果が得られる可能性が示唆された。パターンを正確に記憶した上で、細心の注意を払いながらスクエアステップを行う。これが、記憶や注意力の機能に効果を及ぼしたものと推測できる。



認知機能スコア変化

課題を解きながらスクエアステップを行うことで、認知機能に効果が現れるか検討した結果である。足を止めずに課題を解く、課題は3ケタの数字と2ケタの数字の足し算や引き算、ある文字から始まる言葉を答えさせる質問であった。スクエアステップに課題を付加した場合に、認知機能に及ぼす効果を検討した結果である。スクエアステップだけを実践したグループとスクエアステップに課題を付加したグループを比較すると、両グループとも認知機能のテストの結果は改善したが、改善度は課題を付加したグループの方が大きかった。以上のことから、スクエアステップは、認知機能の改善に効果があること、さらに、スクエアステップに課題を付加することでその改善度がさらに高まることが示唆された。



スクエアステップは幅広い年齢層、幅広い体力レベルに適用可能である。スクエアステップを実践することで、転倒予防に関係する体力が改善される。また、認知機能の低下を防ぐ可能性が示唆されている。

## (2) 最後に

市町村を中心に地域の状況に応じた介護予防の取組を強化する観点から、介護予防・日常生活支援総合事業が創設され、平成29年度から全国の全ての市町村でこの事業がスタートした。この事業では、虚弱な高齢者(これまでの介護保険での要支援1, 2に認定されていた高齢者)を含めて、介護予防の取組を地域での支え合いのもと地域住民が主体となって展開することを目指している。高齢者が要介護状態になる主な原因は、高齢による衰弱、関節疾患、転倒・骨折と運動機能の低下によるものが主で、運動機能の維持・向上を目的とし、運動の実践を主たる活動とした介護予防の取組が重要と言える。また、平成28年度の国民生活基礎調査によると、介護が必要となった要因として「認知症」が18.0%で、これまでの運動機能に関する要因を上回り第1位となった。認

知症予防においては、運動が有効であるとの報告もあるが、その機序はまだ明確でないため、社会参画を促す取組や地域での見守り体制を強化することが重要である。

これからの介護予防は、地域コミュニティによる住民同士の支え合いが不可欠である。こうした中、運動やスポーツを柱とする地域コミュニティの形成は、地域住民同士の支え合い、地域の活性化、住民の健康づくり・介護予防(自立期間の延伸)に好影響をもたらすと考えられる。筆者は、運動・スポーツには不思議なチカラがあると感じている。日頃交流のない人たちでも一緒に運動・スポーツ活動を行った後に、親密感や仲間意識を持つことができる。そのような人間関係(人や地域)のつながりの誕生が、地域コミュニティの復活に繋がっていくものと考ええる。運動を柱とした高齢者の集いの場が増えることで、介護予防に寄与できるとともに、地域コミュニティが形成される(集いの場で住民同士が会する)ことで、生活支援の体制づくりに繋がっていくものと考えられる。スポーツ推進委員の活動は、健康づくり、介護予防に大きな効果を出せるものと期待できる。

## 「スポーツで輝く未来を元気に！」

～健康で生き生きと暮らせる長寿社会の実現を目指して～

長崎市スポーツ推進委員協議会 会長 **宮崎 武洋**

### 〈長崎市の概要〉

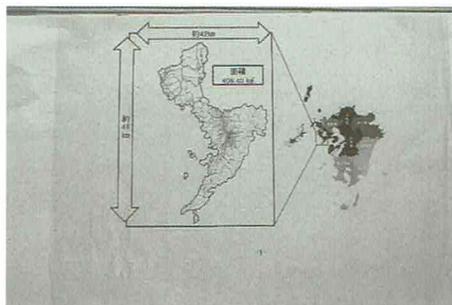
長崎市は、東アジアに近い九州の西端、長崎県の南部に位置し、長崎半島から西彼杵半島一部を占めている。五島灘、橘湾、大村湾に面し、天然の良港に恵まれている一方、市域の背骨を通るように山稜が位置し、標高590mの八郎岳を最高点とする300m～400m級の山々が連なり、急峻で平地が少ない地形である。

長崎市の市街地は、長崎港へ注ぐ中島川周辺や浦上川沿いの南北に細く連なる比較的平坦で商業・業務機能が集積した地域と、平坦地が少ないため、長崎港に面して山腹を這い上がるように形成された斜面市街地により、独特な都市景観を創り出し、さらに、新しい市街地が丘陵の外縁部に展開している。

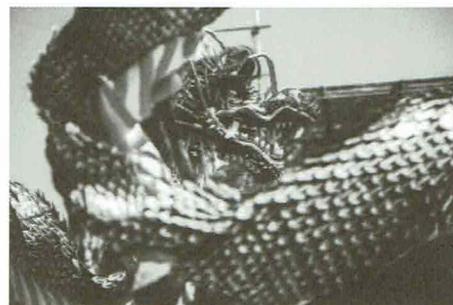
市域面積は、明治22年4月1日の市制施行時点での推定7平方キロメートルから、公有水面などの埋め立てと12次による編入合併により拡張を続け、現在では東西約42Km、南北約46Kmにおよぶ406.40平方キロメートルに達している。

長崎市は、江戸時代には西洋に開かれた唯一の貿易・文化の窓口として、近代以降は海運国日本を支える造船業を主として栄え、国際社会の中で重要な役割を果たして来た。

平成9年4月の中核市への移行や平成17年1月の香焼町、伊王島町、高島町、野母崎町三和町、外海町、平成18年1月の琴海町との合併により市域が広がるとともに、豊かな自然や文化などの新たな地域資源が長崎市の魅力として加わった。



長崎市の位置・面積



長崎くんち



長崎ランタンフェスティバル



長崎ちゃんぽん

平成26年に長崎市スポーツ推進計画審議会が立ち上げられ、その中で市民に対してのアンケートを行った。「総合型地域スポーツクラブを知っていますか?」の問いには「知らない。」と答えた人が84%と多数を占めており、また、「スポーツ推進委員を知っていますか?」の問いには「知らない」と答えた人が78.5%と多く、知っているても活用したことがある人は1.6%と少ない結果だった。

別の質問において、「スポーツをしない理由は何ですか?」の問いには、「高齢である。」「運動やスポーツに関する情報が不足している。」「健康や体力に自信がない。」「勤務時間が長い。」「身近に施設がない。」「施設を利用するのにお金がかかる。」等が主な理由として挙がって来た。そこで、まず私たちスポーツ推進委員が考えた事は、お年寄りから小さな子どもたちが楽しみながら、スポーツが出来る場の提供・情報発信、行政との協力、スポーツ推進委員の資質の向上だった。

長崎市推進委員は4ブロックに分けて117名いる。(定員170名)

	副会長	東 部	28名(校区長1名)	理事長	1名
会 長	(2名)	西 部	22名(校区長1名)	理事	12名
		南 部	37名(校区長1名)	婦人部長	1名
	副会長	北 部	30名(校区長1名)	総勢	117名

## 1 スポーツ推進委員の勉強会で全員の意思統一を図る

スポーツ推進委員は、わずかな財政負担の中で、非常勤公務員という誇りと使命感のもと、ほぼボランティアともいえる活動を通して、参加ではなく、参画支援をという意識の改革を全員がする。

### スポーツ推進委員の役割

小学生対象	小学校・保護者・PTAとの連携で、親子レクリエーション教室の開催 地域の子供会や育成協等と連携し、各種スポーツ大会の開催 地域の小学生を対象に、各種スポーツ教室の企画・運営 スポーツ指導少年団の指導 夏休みのラジオ体操の指導
一般対象	自治会などが主催するスポーツ大会の企画・運営 地区体育会に所属し、各種スポーツイベントの企画・運営 軽スポーツ・ニュースポーツ教室・健康体操教室等の企画・運営
高齢者対象	健康増進のための軽スポーツにおける指導 地区の老人会と連携し、多世代交流グランドゴルフ大会の開催 高齢者健やか支援課と連携し、介護予防講座や健康増進居室の補助
多世代対象	総合型地域スポーツクラブの運営・指導 地区でマラソン大会ウォーキング大会の企画・運営 地区で親子体操教室やリフレッシュ体操の指導

## 2 県立体育館を借り切り, 大人の方の体カテストとニュースポーツ教室の開催



閉眼片足立ち



ラダーゲッター



長座体前屈

参加対象を体カテストは, 20歳~79歳としたが, それ以上の方も参加された。参加募集を市広報誌で, 近隣住民には回覧板で案内をした。

受付時に, 脈拍・血圧を測り顔色を伺い, 体調をそれとなく聞き, 会場に案内する。

種目は, 握力・立ち幅跳び・上体おこし・10分間障害物歩行・長座体前屈・反復横跳び往復持久走などである。参加者の声は, 「筋力は何歳になっても付くというので参加した。」「久しぶりに運動をして体力が落ちていてびっくりした。」「これから機会があれば参加したい。」等々の声が聴かれた。最後にA~Dまでの判定を出し, 「今のところ〇歳です。」という結果を知らせて終わった。

ニュースポーツ体験コーナーには, カローリング・バッコー・ラダーゲッターを置き, スポーツ推進委員が指導した。

## 3 長崎市陸上競技場を借り切ったレクリエーション教室の開催

参加対象: お年寄り~幼児(障がい者含む), 目標人数 600人

案内先: 市内の小学校・学童クラブ・近隣の養護老人ホーム・養護施設

種目: ラダーゲッター・デスゲッター・ペタンク・フライングディスクゴルフ・輪の輪リング



デスゲッター



バッコー



受付の様子

目標の600人には届かなかったが, 530人集まり, 中には車いすに乗った方も参加されて, 笑顔が弾けて私たちまで明るくなった。私たちが, このレクリエーション教室を開催するにあたり準備したことは, 「どのようにすると皆さんが楽しんでくださるか?」「配置はどのようにするのか?」「熱中症対策は大丈夫か?」3回程集まり企画委員会を作り準備をした。

## 4 PTAとの連携

長崎には70余りの小学校があるのだが, その保健厚生部員さんに, 長崎市市民会館で

午前の部・午後の部と別れ、実技でキンボール・ドッチビーを体験して貰い、親子レクリエーションを計画している学校には、スポーツ推進委員を派遣という制度を宣伝した。派遣希望の学校は、スポーツ振興課に派遣依頼を、種目・学年・人数・月日・時間・道具の有無を知らせて貰う制度を作った。昨年は5件、今年は8件とスポーツ少年団から1件の派遣依頼があり、徐々に浸透しているのかなと思っている。

## 5 長崎市主催のベイサイドマラソン大会への手伝い

種目：ハーフ(200名)・10Km(1,000名)・1.9Km(制限なし)

1.9Km(保護者と小学生)・・・手をつないでゴールしなくてはいけない。

60歳以上・59歳～40歳・39歳以下・中学生・小学生4年生以上・小学生3年生以下に分かれている。

ウォーク：5Kmコース長崎名物おもてなしコース・8Kmコース世界遺産をめぐるコース・17Kmコース世界遺産と平和の祈りコース・20Kmコース・女神大橋長崎沿岸コースがある。毎年3,000人程の人が集まる一大イベントである。朝早くから受付、沿道の交通整理給水所の手伝い、救護班の手伝いとフル回転である。



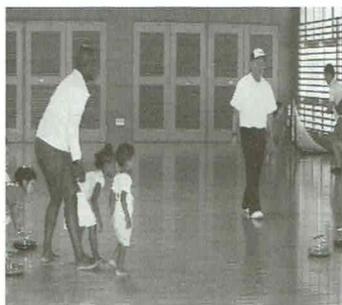
ちらし



電光案内板

## 6 今年初めての県主催「県民健康まつり」の開催

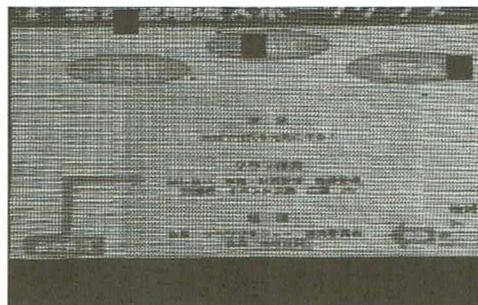
スポーツ推進委員も時間と場所を提供して頂き、「総合型地域スポーツクラブとスポーツ推進委員の関わり方」を20分位話し、実際に取り組んでいるクラブの方に15分程度で取組を披露して貰った。また、会場の一角に、ニュースポーツコーナーを設けてバドミントン・ドッチビー・ピロポロ・カローリング・ラダーゲッターを体験できるように、スポーツ推進委員を配置した。小さな子供からお年寄りまでひっきりなしにおとずれ、昼ご飯を食べる間もないくらいだった。参加者の話を直接聞く事ができ「何が楽しいか?」「どれが又したいか?」など年代別に聞けたので、老人会イベント・育成協等に呼ばれたりする時の種目選びに非常に参考になった。この日は他に、大会マラソンで金メダルを獲得した井上仁氏や元プロ野球選手の下柳選手やプロバスケットボール選手の小磯さんのトークショーに始まり、正しいウォーキングの指導、医師による健康診断、体力テスト等体育館に1日中いても飽きない工夫が色々なされていて、毎年して欲しいイベントである。



カローリングの様子



カローリングの様子



総合型スポーツクラブに関する資料

## 7 女性委員会主幹研修会の開催

幼児期・児童期の運動&怪我をしない身体づくり

目的…幼児期・児童期における運動の重要性を理解し、知識や実践方法を学ぶことで、スポーツ推進委員としての資質を高め、地域における活動に役立てようとするものである。講師を雇い、1日勉強会を座学と実践で学ぶものである。

最後に、私の所の長崎市西部総合スポーツクラブを紹介してみたいと思う。

設立は、平成17年4月スポーツ少年団を基盤としたクラブ。「宮崎君、子どもばかり面倒みらんで、お年寄りも面倒見てくれんね!」と言われたのが一つのキッカケとなり、体育協会からの勧めもあり、ソフトボール・バレーボール・硬式テニス・囲碁・ビリヤードの5種目で始めた。硬式テニスの指導者は、当時の小学校の校長先生がテニスをやっておられたので頼んだ。囲碁も地域に囲碁教室があったので、そこの方々をお願いした。ビリヤードは、学校の空き教室に台を置き、先生が指導してくれた。バレーボールは、私がソフトボールを20年くらい指導していたので、その保護者の方が昔取った杵づかとはばかり、数人で教えてくださった。あと、体育協会をお願いして資格を持った指導者を派遣して貰った。現在バドミントン(小学生～大人)51人・遊び塾27人・貯筋運動23人・グランドゴルフ31人の合計132人で、会費は小学生2,000円+保険料,中学生2,500円+保険料,貯筋運動500円+保険料,グランドゴルフ1,000円+保険料である。地域の餅つき・祭り・ペーロン大会・門松づくり等に団員は参加するが、指導者も積極的に手伝いをするようにしている。バドミンントンの指導者は、中学校へ指導に派遣している。



スクエアステップ



ペーロン大会

# 「スポーツで輝く未来を元気に！」

～健康で生き生きと暮らせる長寿社会の実現を目指して～

茨城県・みなとwaiwaiクラブ クラブマネージャー 吉村 孝子

## 1 茨城県ひたちなか市の概要

みなとwaiwaiクラブ(以下、当クラブ)がある茨城県ひたちなか市は、東京から約110kmの距離にあり、茨城県の中心部からやや北東に位置している。ひたちなか市の東側は美しい碧の海が広がる太平洋に面しており、約13kmの海岸線が続いている。

平成の大合併により、平成6年11月に勝田市と那珂湊市が合併して、ひたちなか市が発足した。ひたちなか市の人口(平成29年4月1日現在)は、155,711人で、水戸市、つくば市、日立市に続く茨城県下4番目の規模の都市である。常住人口では、旧勝田地域は、129,090人、旧那珂湊地域は26,621人である。農業では、「ほしいも」が特産品となっており、日本一の生産量を誇っている。

また、国営ひたち海浜公園や阿字ヶ浦海水浴場、那珂湊おさかな市場などの資源を存分に生かし、観光・レクリエーションの振興を図っているところである。

現在、ひたちなか地区開発の中核施設として建設中である重要港湾「茨城港常陸那珂地区」は、平成12年4月に外国貿易埠頭が供用開始となり、その後も着々と整備が進められている。今後も国内外の物流の拠点として、更なる整備事業が期待される。

## 2 みなとwaiwaiクラブの事業概況

### (1) 設立の背景

我が国では、平成12年度に策定された国の「スポーツ振興基本計画」の中で、生涯スポーツ社会の実現に向けた、地域におけるスポーツ環境整備のための重点施策として、行政は「2010年までに全国の各市町村において、総合型地域スポーツクラブを育成する。」という目標を掲げた。

当クラブは、行政からの指導の下、旧那珂湊地区のスポーツ推進委員を中心に地域住民が主体的に関わり、約2年半の準備期間を経て、同地域に総合型地域スポーツクラブとして設立した。

### (2) みなとwaiwaiクラブの目指す理念

子どもから高齢者まで、地域みんなが生涯にわたって自分たちにあったスポーツ・文化活動を楽しみ、健康でいきいきと交流できる環境を創り、連帯感あふれる地域社会の充実を図ること。

### (3) クラブの沿革

2008年(平成20年)4月

・湊総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会設置

2009年(平成21年)1月

・「総合型地域スポーツクラブを考える会」フォーラム開催

講演:茨城大学名誉教授 野田洋平氏

2010年(平成22年)9月 会員数101名 プロダクト3教室

・みなとwaiwaiクラブ設立総会

・パンポン教室 ・ヘルスバレーボール教室 ・バドミントン教室 開講

2011年(平成23年)4月 会員数127名 プロダクト4教室

・平成23年度 みなとwaiwaiクラブ総会

・グラウンドゴルフ教室 開講

2012年(平成24年)4月 会員数152名 プロダクト6教室

・平成24年度みなとwaiwaiクラブ総会

・健康体操教室 ・ジュニアサッカー教室 開講

2013年(平成25年)4月 会員数161名 プロダクト6教室

・平成25年度みなとwaiwaiクラブ総会

2014年(平成26年)4月 会員数208名 プロダクト8教室

・平成26年度みなとwaiwaiクラブ総会

・わんぱく相撲教室 ・ノルディックウォーキング教室 開講

2015年(平成27年)4月 会員数258名 プロダクト8教室

・平成27年度みなとwaiwaiクラブ総会

・ヘルスバレーボール平磯教室 開講

2016年(平成28年)4月 会員数300名 プロダクト9教室

・平成28年度みなとwaiwaiクラブ総会

・ボールDeあそぼ!教室 開講

2017年(平成29年)5月 会員数326名 プロダクト9教室

・平成29年度みなとwaiwaiクラブ総会

#### (4) 受賞

平成29年度文部科学省生涯スポーツ優良団体表彰

#### (5) 組織体制

当クラブは任意団体として住民主体で立ち上げ、役員と会員が一体となってクラブを支えている。役員は、会長1名、副会長2名、理事17名、計20名でクラブ運営に携わっている。その内17名がひたちなか市のスポーツ推進委員、その他の役員は、体育協会常任理事や保健推進委員から構成されている。役員の85%がスポーツ推進委員で、総合型を運営しているクラブは全国的にも少ないと言われている。

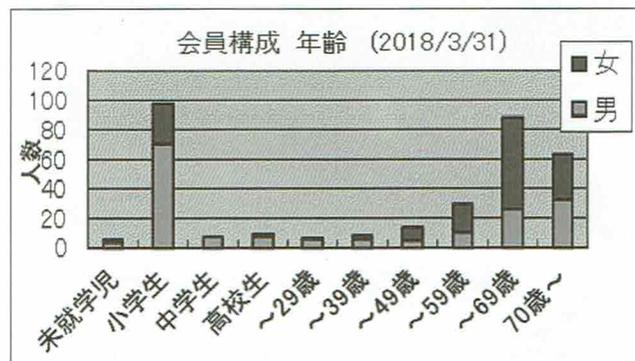
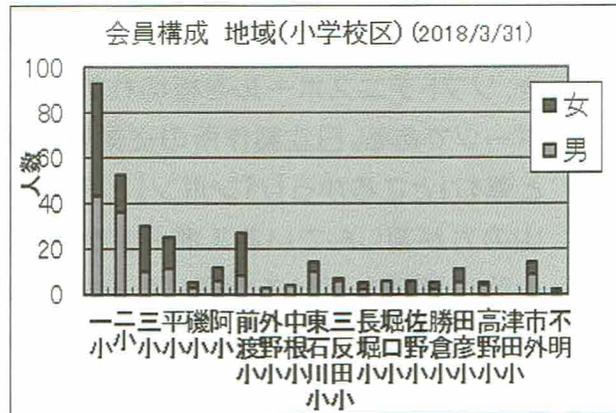
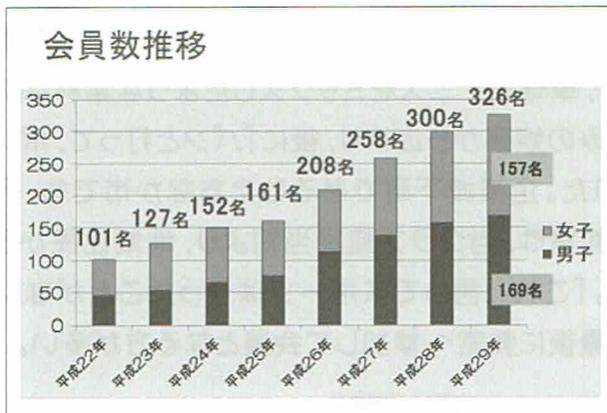
組織体制としては、総務(事務局)の他に、企画研修部会・広報部会と専門部会がある。スポーツ推進委員は、子どもを対象とした教室以外の指導も担っている。

(6) 会員構成

会員数は、326名(男性169名, 女性157名, 年齢5～85歳)である(平成29年3月31日現在)。発足当初時の会員数(平成22年:101名)と比べると、3倍以上(326名)の増加がみられる。会員増の一番の要因としては、会員による口コミがあげられる。

また、会員構成を小学校区にて分類した地区別でみると、旧那珂湊地区(一小～阿小)の会員が約70%, 旧勝田地区と市外のものが約30%であった。

年齢別では、会員の半数以上が60歳を超え、次に小学生が多い状況であった。



(7) 主な事業内容

ア 教室事業 9プロダクト

- ・パンポン教室 ・ヘルスバレーボール教室 ・バドミントン教室
- ・グラウンドゴルフ教室 ・健康体操教室 ・ジュニアサッカー教室
- ・わんぱく相撲教室 ・ノルディックウォーキング教室 ・ボールDeあそぼ!教室

イ 教室外事業

- ・ハイキング 年2回 ・グラウンドゴルフ交流大会 年1回
  - ・ヘルスバレーボール交流大会 年1回 ・パンポン交流大会 年1回
  - ・waiwaiファーム(さつま芋作り) 年1回 ・ノルディックウォーキング 年3回
- (他市町村総合型地域クラブ合同企画)

## ウ 平成30年度新規新事業

- ・剣道体験教室 8回(5月～12月)
- ・市社会福祉協議会(しあわせプラザ自主事業)
- ・ノルディックウォーキング 6回(10月～11月)

## (8) 主な活動状況教室活動

教室活動は、9のプロダクトから構成されている。中でも特に人気の教室は「パンポン教室」と「ノルディックウォーキング教室」が人気である。

「パンポン」とは、縦7m 横2.5mのコート(縦7m, 横2.5m)の中央に木製のネットを置き、ソフトテニスボールを板切れで打ち合う、卓球とテニスをミックスしたような素朴なスポーツである。日立製作所の従業員の昼休みの娯楽から広まり、後に「パンと打って、ポンと弾む」ところから「パンポン」と名付けられた。企業城下町であるひたちなか市でも、沢山の方が親しんでいるスポーツである。本教室は、当クラブ発足当初より、地域住民からの強い要望を受けて開講した出来た教室。「これと言ってスポーツはやったことがないが、パンポンならできる。」と言って、定年退職後に教室へ参加して会員となる方が多い。



パンポンを楽しんでいる様子

ノルディックウォーキングに関しては、スポーツ推進委員である理事が自主的に指導士の資格を取得し、教室はもとより地域の各団体からの要請にも出向いている。また、近隣の3市1村の総合型地域スポーツクラブと、年3回の合同事業として行っている。

子どもを対象とした教室は、「わんぱく相撲教室」「ジュニアサッカー教室」「サッカー」「ボールDeあそび教室」の3教室がある。中でも、総合型クラブの教室としては珍しい「わんぱく相撲教室」は、地元高校の協力を得て、練習場所は、茨城県出身元大相撲力士武双山が子供時代に練習した、水戸尾曾相撲道場である。地元高校の協力もあり、本格的な土俵で練習が出来る環境にあるとともに、地元高校の協力も得られることから、県内でも優秀な成績を収めている。

また、教室外事業や(ハイキング・親子でさつまいも作り・各教室交流大会・他クラブとの合同事業・剣道体験)や地域協力(地域コミュニティー祭り・商工会事業・小学校

PTA事業・高齢者クラブ・障害者スポーツ支援)も重要な活動となっている。

### 3 健康で生き生きと暮らせる長寿社会の実現に向けた取組

#### (1) 社会参加を促進することが出来る地域環境づくり

地域住民や地元の高校生、大学生、自治会、地域で活動する各種団体等が、地域の未来と地元で廃校となった施設の利活用を考えていくため、当クラブが事務局となっており「フューチャーズミーティング」という組織を立ち上げた(平成29年2月設立)。平成29年2月以降、これまでに計19回のミーティングを開催し、行政へ施設の利用に関する提案書をひたちなか市へ提出し、平成30年6月に管理運営組織「しおかぜみなと」を設立した。

7月からは管理事務所を開設し、施設をオープンさせるとともに、当クラブの事務局を同施設内に移転し、新たな活動の拠点としての利活用も開始している。

ひたちなか市においても少子高齢化は課題であり、子どもから高齢者までが集える「交流の場づくり」が期待されている。「しおかぜみなと」は、地域の誰もが足を運ぶことのできる、「明るく暖かい活力のある交流の場」としての再利用を目的としている。スポーツや文化活動を柱とした等、多方面にわたる幅広い活動を通じて、少子高齢化社会に対応した豊かな社会参加を促進する地域づくりを行うことを目指している。

#### (2) わいわい楽しく集まって繋がる大きな地域の輪を目指して

当クラブは60代以上の高齢会員が半数を占めており、サークル的な教室が多い。クラブでは多種多様な活動をしながら自分に合ったものを探していくことができる。

また、会員さんの方自らが教室のスタッフ(お世話係)としても活動し、みんなが参加しやすく、笑顔あふれる楽しい交流の場を作っている。又、会員の方が本人もお世話係をすることは、友人仲間とともにスポーツを楽しむ「社会的欲求」から、より高次元の「尊厳の欲求」が満たされているように見られる。この精神的な満足感も、健康長寿社会の実現に寿命の延伸に繋がるものではないかと考えられる。

また、クラブで知り合った会員同士で、旅行に行ったり、教室活動後にランチへ行ったり、旅行へ出かけたりするなどの協調行動が活発にみられている。このような活動の広がりによって、会員内での絆がさらに生まれ深まっていくことは、一人一人の健康で生き生きと暮らせる生活機能が維持できるのではないかとと思われる。

ある会員の方からは、「今日は少し体調が悪いけど、教室に行くと仲間に出会えるからおしゃべりをしに来たよ。」とか、「自分はもう「終活」の準備でも始めようと思っていたが、教室に通うようになって(終活→集活)、ワイワイ集まって活動する事(「集活」)が楽しくてしょうがない。」と話していた声も聞かれる。当クラブまで孫を送迎し、活動中の孫の姿を目を細めて見つめながら「この送迎が楽しみなんだ!」と話す祖父母の姿も多くみられる。

このように、クラブ活動を通して、身近に気軽に楽しく社会参加が出来る場所をつくり、人や地域を大切にする環境が身近にある事を整えていくことは、健康で生き生きと暮らせる長寿社会の実現に繋がるのではないかと感じている。

### (3) スポーツ推進委員の役割

平成29年3月に、第二期スポーツ基本計画がスタートした。スポーツ推進委員が総合的に取り組む施策の中には、行政自治体の関係部署、学校、自治会、地域コミュニティ、高齢者クラブなどの地域団体との情報交換が、さらに必要になると考えられる。今後は、スポーツ推進委員の活動においても、各関係組織・団体とのもう一歩進んだ「連携」と「協働」が求められると言えよう。

多くの地域住民は、今までは、何をするのも行政に依存していたのではないかと思う。これからは、地域住民が「まちづくり」の主役となり、自立した地域づくりを進めていかなければならないと感じている。

「行政依存型」から「地域主導型」となる、新しい公共を創っていく手助けが、スポーツ推進委員の新たな役割に必要ではないかと思う。

# 第3分科会

[ テーマ ]

## 「スポーツで輝く未来を笑顔に！」

～ 障害者と健常者が共に実践できる生涯スポーツを目指して～

[ コーディネーター ]

立命館大学 産業社会部  
教授

金山 千広

[ 発表者 ]

鹿児島県：社会福祉法人 鹿児島県身体障害者福祉協会  
スポーツ情報課長

前田 究

宮崎県：延岡市スポーツ推進委員協議会  
会長

岡本 真奈美

福岡県：NPO法人 ウェブスポーツクラブ21西国分  
クラブマネジャー

櫻木 英一

# 「スポーツで輝く未来を笑顔に！」

～車いす陸上競技の実践事例～

社会福祉法人 鹿児島県身体障害者福祉協会 スポーツ情報課長 **前田 究**

## 1 スポーツは生きる力

中学時代に陸上競技を始めた私は、高校時代、専門的な指導を受けて練習に励み、走幅跳と三段跳で京都府大会を制す実力をつけました。そして将来、国際大会で日本のユニフォームを着ることを目標に、鹿屋体育大学に進学しました。

最高の練習環境に身をおき順風満帆でしたが、1年生の9月、交通事故に遭いました。見通しが悪い、細い農道を原付で走行していたところ、前から来た軽自動車と正面衝突。そのまま気を失い救急搬送されました。病院の集中治療室で目が覚め、主治医から脊髄損傷による、感覚神経や運動神経の麻痺で下半身が動かないという説明を受けました。

京都から母親が駆けつけ、長い入院生活が始まりました。私は下半身の麻痺は一時的なもので、いずれは走幅跳ができるまでに回復するものと信じ治療を受けていましたが、何週間経っても麻痺部の状況は変わりません。一方、筋骨隆々だった足はみるみる細くなります。

入院から二か月が経過し、起き上がれるようになった頃、リハビリのために転院。新しい主治医から「君の足は、もう動かない。これからは車いすが足の代わりになるので腕を鍛えよう。」と、障害が残ることを告げられました。

車いすで走幅跳は跳べません。私は、これまで目標にしてきた日本のユニフォームを諦めることに大きなショックを受け、何を目標に生きていけばいいのかわからなくなりました。

目標のないままリハビリを受ける日々。そんなある日、先輩の患者さんから生きるヒントをもらいました。「前田くんは若いから、車いすマラソンに挑戦してみたら？」とアドバイスしてくれたのです。マラソンと言えば陸上競技。退院したら必ず始めようと決心しました。目標があれば日々のリハビリにも力が入り、坂道タイムトライアルといった自主トレも始めました。

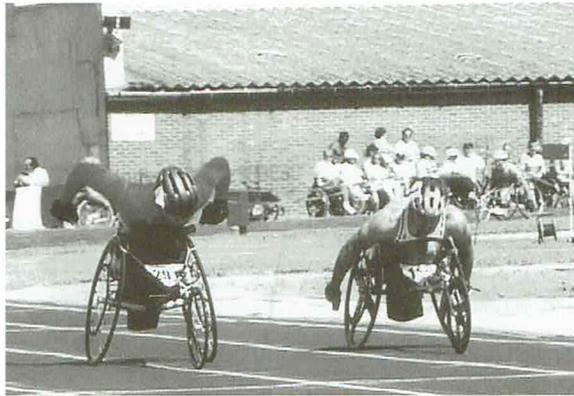
約1年間の入院生活を終え、大学に戻った私は、陸上競技部に復帰し上肢のトレーニングを開始。車輪が三輪で重心が低い競技用車いすを中古で入手し、大会に挑みました。

初めて出場したのは、第12回大分国際車いすマラソンのハーフマラソンの部。ハーフといえども21キロの道のりを腕の力だけで走ります。約300人のエントリーでしたが、翌年のプログラムに名前が掲載される20位以内を目標にスタートしました。体育大生のプライドもあり自信を持って挑みましたが、想像以上に過酷で、72位でようやくフィニッシュ。レース後は、自分で競技用車いすから降りられないほど腕の力が消耗していました。思うような結果が得られず残念でしたが、逆に簡単に勝てなかったことが再び挑戦する動機となり、いつの間にかこの競技が「生きる力」となりました。



4×400mリレーを走る私  
(1989年近畿インターハイ)

翌年は、自分にあった競技用車いすに新調し、さらにトレーニングを積んで同大会に出場。6位入賞を果たしました。車いす駅伝大会でも活躍できるようになり、遂に1995年、英国で開催された国際大会の日本代表に選出されました。欧米選手のパワーに圧倒され、競技結果は振るいませんでしたが、一度諦めたジャパンのユニフォームに袖を通せたことを誇りに思いました。



アメリカの選手と競い合う私(右)



国際大会で憧れのJAPANを着る  
ストックマンデビル国際車いす競技会(1995年:イギリス)

私は現在、2020年に本県で開催される全国障害者スポーツ大会に向けた障害者スポーツの普及や選手発掘・育成に取り組んでいます。多くの障害のある人が、スポーツの魅力を知り、その人の「生きる力」になることを願って活動を続けたいと思います。

〔鹿児島教育〕H28年9月号寄稿の随想文より

## 2 障害者スポーツの意義

「障害のない人はスポーツをした方がよいが、障害のある人はスポーツをしなければならない」Heinz Frei(Swiss)。

## 3 障害者スポーツの理念

- ・ アダプテッド・フィジカル・アクティビティー  
身体状況や知的発達状況にスポーツを適合(アダプト)させる。
- ・ 人間第一主義  
障害に注目するのではなく、その人自身に注目する。  
できないことに注目するのではなく、できることに注目する。
- ・ インクルージョン  
障がいのある人とない人が一緒にスポーツを楽しみ、スポーツの世界で共存する。
- ・ 二つの物差し  
競争(勝敗)は評価の一つめの物差しと、スポーツを通じ、その人の成長を評価する二つめの物差し。
- ・ エンパワメント  
個々人が自己決定し、問題解決能力を身につけていく。

〔新版 障がい者スポーツ指導教本〕(公財)日本障がい者スポーツ協会編より

# 障害者と共に楽しむスポーツをめざして

～ 私たちの活動と今後の課題 ～

延岡市スポーツ推進委員協議会 会長 **岡本 真奈美**

## 1 延岡市の概要について

延岡市は、東九州に位置し、清流五ヶ瀬川が貫流する日向灘に面した産業と歴史と文化とスポーツが息づくまちである。平成18年に1市3町が合併し、九州では2番目に広い面積を有し、人口12万人、商工農林漁業の各産業が均衡するまちとなった。

また、スローガン“市民力”“地域力”“都市力”を結集して、市民協働でゴールデンゲームズ、延岡天下一薪能、城山かぐらまつり、西日本マラソン大会などのイベントを開催している。



## 2 スポーツ推進委員の活動

### (1) スポーツ推進委員の活動の目的

延岡市のスポーツ推進委員は、スポーツ基本法を基に、自らの知識・技術力の向上で組織自体を育成し、住民への実技指導やスポーツの理解を深く求めてもらうための活動を推進することを目的としている。

### (2) スポーツ推進委員の組織と構成

延岡市スポーツ推進委員は28名(男性12名,女性16名)で構成されており、スポーツの普及活動や市が開催する行事等の運営スタッフ・競技役員として活動している。また、自主研修などで自己研鑽し、派遣依頼やスポーツ指導で市民のニーズに対応できるよう努めている。

### (3) 市開催の主な活動

ア 定例会(12回/年・毎月第2水曜日19:30～)      イ 北浦さくらマラソン  
ウ 市民体力テスト      エ 市民体育祭      オ 西日本マラソン大会      他

### (4) 自主的な活動

ア 夏期研修会      イ 市民ウォーキング      ウ 派遣事業

### (5) 活動の現状

私たちのほとんどが、仕事をしながら限られた時間の中で、「お互いに思いやりをもって、出来る人がしよう。」を基本に活動している。その中で、今回のテーマにある障害をもっている方に関わる職業についているスポーツ推進委員もいる。知的障害者施設に従事している

人が3名, メディカルフィットネスに従事している人が2名, 看護師2名, スペシャルオリンピックに携わっている人が1名と, 障害を持っている方と接する機会の多い職業についている。



市民体カテスト



市民ウォーキング



派遣事業(小学校)



派遣事業(小学校)

### 3 派遣事業を通して障害者との関わり

私たちが一番活発に活動しているものに派遣事業がある。派遣事業は, 市民からの依頼を行政(保健体育課)が月単位で集約し, 次の定例会で派遣者を決めて実施するもので, 現在はリピーターも増え年間30件以上の依頼がある。主な依頼は, 小学校の保護者や先生等からのレクリエーション, 企業や公民館での体力テスト, 障害者入所作業所や精神サポートセンターでのストレッチやレクリエーションなどがある。

#### (1) 障害者入所作業所への派遣

以前に依頼があった延岡市内の障害者入所作業所から「たくさんの人を巻き込んだスポーツフェスタを実施したい」と依頼があった。施設の担当者から、「絶対に成功させたいのでぜひ引き受けてほしい」という熱い思いが伝わってきた。障害者の方だけの依頼は今までもあったが, 色々な人を巻き込むことは初めてだったため, 当初は不安な思いがあった。しかし, 施設の担当者の熱意に応えるべく実施することにした。

まず, 定例会で派遣に行ける人を募り, その中から責任者2名を決めた。その後, 責任者と指導主事で施設の担当者と1回目の打合せを実施した。内容は, 施設利用者とその家族, また地域の人たちを巻き込んで, 近くの体育館と運動場で楽しいレクリエーションを実施したいというものだった。それを持ち帰り, どんなことをしたらよいか検討を重ね, 2回目の打合せを実施した。施設側は, 程度の軽い人は運動場で思いっきり体を動かしたい, 車いすの方や重度の方は体育館内で軽度のスポーツをしたいというものだった。

その要望を踏まえ, 外でする種目と, 体育館内で行う種目について話し合った。準備す

るものも、スポーツ推進委員が使っているニュースポーツの道具と施設側が手作りするものに分けて、施設の思いを充分取り入れた内容とした。

参加者：施設利用者44名、通所者25名、家族46名、職員50名

高校生ボランティア11名、スポーツ推進委員9名、行政側1名

総勢186名参加となった。

ア 屋外の内容・・・ストライクボード、輪投げ、ボーリング、ターゲットリング

イ 屋内の内容・・・大玉ころがし、おくってドン

ウ 全員参加・・・遊技リレー、綱引き、職員のダンス

感想 ・職員より：どの競技も楽しく、スムーズに進行することができ、有難うございました。

・スポーツ推進委員より：当初知的障害の方々との接し方や距離の取り方などが分からず、積極的に関わって良いのか悩んでしまったのが悔やまれた。次回はもっといっしょに楽しめるようにしたい。

・スポーツ推進委員より：利用者の方も職員の方も笑顔あふれるスポーツフェスタで、そのお手伝いができた事を嬉しく思う。

第1回目のスポーツフェスタだったが、職員も我々も運営計画や道具の準備をしっかり行っていたため、スムーズに進行することができた。スポーツ推進委員の中には、初めて障害のある方と接する人もいたが、声掛けの工夫をしながら楽しく接することができた。高校生ボランティアも、笑顔でサポートしてくれた。今回は実現しなかったが、今後は地域の方の参加もあるといいと感じた。



全員での綱引き



大玉ころがし



遊技リレー



職員のダンス

## (2) 精神疾患自立支援施設への派遣

延岡市内の精神疾患自立支援施設から、「施設の入居者がレクリエーションに参加して、スポーツやゲームの楽しさを知ってもらい、自立の一助にしたい。」という依頼があった。精神疾患の方の依頼は初めてだったのと、その施設がどんなところなのかも知

らなかったのです。まず、その施設がどんな所なのかを調査した。施設の中でレクリエーションをする場所がどれくらいの広さなのか、床は、天井は、等を調査し、実施できる道具の選択、内容等を決めることにした。また、「私たちの事を受け入れてくれるのか。」と不安に思うこともあったので、あまり考えすぎないように心掛けた。

まず、簡単な手遊び、じゃんけんゲーム、フライングディスク、ボーリング等のニュースポーツ、楽しいダンス(エアロビック)の種目で実施することにした。当日は、ドキドキしながらの参加だったが、最初に職員さんたちが明るく出迎えてくれて、私たちも笑顔になった。ホールに通され、放送されるとあちこちの部屋からみなさん出てきて、ニコニコの人、不安そうな顔の人、仏頂面な人様々だった。しかし、準備を進めるたびに、笑顔が増えていった。全員参加で和やかで楽しいレクリエーションになった。職員の方も大変喜んでくれ、その後も継続して依頼があった。



ストレッチ



ペタンク

### (3) 社会福祉協議会ヘルパーへの派遣

日ごろ介護の現場で働くヘルパーから、「同じ動作や重いものを抱えることが多く、腰痛や肩こりがひどい為、運動で解消したい。」という依頼があった。提供した内容は、腰痛のメカニズムの話、からだのセルフチェック(ビフォー・アフター)、腰痛予防運動、質疑応答(質問がとて多く時間がオーバーした)だった。

感想としては、笑いが絶えない雰囲気、全員に運動前と後に体の陽性反応があり、有意義な時間であった。

この派遣事業で気付いたことは、障害者の方だけではなく、そこで働く方々のケアも必要だということだった。



からだのセルフチェック



ヘルパーのみなさんと

### (4) 企業での体力テスト

余談であるが、延岡市にある企業の中で、会社行事として年1回の「体力テスト」を

行っている。私たちが派遣事業のスタッフとして参加する。その企業にも、障害者が在席していて、その方達も自分のできる体力テストに参加している。



体力テスト前の準備体操



左手だけの握力テスト

#### 4 実践から見た成果と課題

今回の障害者入所作業所との連携は、スペシャルオリンピックス設立に奔走したスポーツ推進委員が中心で行った。そのため、施設側との話し合いがスムーズに進み、問題なく実施できたことが成功の一因であった。しかし、一部の人が言われるままに行ったに過ぎないと反省する。今後は、全員で知恵を出し合い実践していかなければ、その人がいないとできない、また言われるままに行うイベントになってしまう恐れがある。障害者とのコミュニケーションをとり、健常者とともにレクリエーションを楽しめる企画を研究し、スポーツ推進委員が積極的に運動する喜びを提供できる体制を整える必要がある。

#### 5 今後の活動と展望

現在は、派遣事業の広報活動として、学校などでは校長会、地域では公民館長会合で派遣事業のチラシを配り、積極的に広報活動を行っている。しかし、障害者または障害者施設からは依頼が来るのを待つという受け身の態勢なので、どう展開していくべきかが大きな課題である。

考えられるものとして、

- (1) 広報活動(施設へ配布、保健所や市の担当課窓口チラシを置く等)
- (2) 障害者スポーツへの理解(障害の程度や種類に応じてサポートできる体制)
- (3) 指導者の育成(専門的な人がいて発信してもらえる体制)
- (4) だれでも、気軽に参加できるイベントの推進

現在、延岡市スポーツ推進委員は、28名で活動し、多くの派遣教室を行っている。しかし、2名は休職中であり、子供のスポーツクラブへの送迎や親の介護がある委員もいて、休日に活動できる人には限りがある。また、平日の昼間の依頼もあり、ほとんどが仕事をしているため、人を割り当てるのに苦労している現状がある。広報活動も必要であるが、まずは延岡市スポーツ推進委員の人数を増やし、その人たちを育てることが第一課題である。

今後も派遣事業を通して、障害者との関わりを持ちながら、少しずつ関係性を広げ、前に進みたい。そして、将来的には、障害者が自主的かつ積極的にスポーツが出来るようなイベントやクラブが出来ることを目指していきたい。

## 「スポーツで輝く未来を笑顔に！」

～ 障害者と健常者が共に実践できる生涯スポーツを目指して～

NPO法人 ウェブスポーツクラブ21西国分 クラブマネジャー 櫻木 英一

### 1 現状の課題や弊害となっていることを共に共有し、解決を図る

障がい者がスポーツを行う機会が増えようとしています。2020年パラリンピックの盛り上がりとその機運となっていることは、多くの国民が感じていることだと思います。しかしながら、果たしてそれは現実化していつているのでしょうか。障がい者が故に困難となる課題がいくつもあるように感じています。障がい者側だけの問題ではありません。健常者側にも問題はあります。例えば、障がい者側では移動の問題や安全面、内容、難易度、参加人数等々が考えられます。一方、健常者側は障がい者とどう接したらよいかとか、もし問題が起これたらどうしようかとか、施設利用は大丈夫か、等々が考えられます。これら多くの問題を障がい者と健常者が同じテーブルで議論されているのでしょうか。少数派の障がい者と大多数派の健常者の意見は上手く理解しあえているのでしょうか。互いの言い分はよく聞くとと思うのですが、そこから一歩進んで話し合いがなされ、問題解決に至った事例がどれだけあるのでしょうか。このことは、障がい者スポーツに関わろうと関わらずとも一度皆さんご自身で考えていただきたい、とても大切なことなのです。

ややもすると、障がい者と聞いただけで無関心を装う方、ましてや一緒にスポーツをするとなるとためらってしまう方も多いのではないのでしょうか。

しかし、残念ながらこれが日本の現状なのです。障がい者に関わる一部の人だけが行えばよいものではないと思うのです。ごく一部の心もとない少数の人の意見でもって、障がい者が安心してスポーツを行う機会が奪われていることを知ってほしいのです。

例えば、日本全国の体育館で車イスが使用できない施設がまだまだたくさんあることもその一つです。テレビや報道で車イスバスケットやチェアラグビーの活躍が流れていますが、いつどこに行ってもできるのでしょうか。

パラリンピックでメダルを取った方が、地方へ行って体育館を利用しようとしても、「規則ですから使えません。」と門前払いを受けないとも限りません。「今の時代、まだそんなところがあるの?」と多くの日本人は思っているでしょうが、普通にあります。「障がい者スポーツを推進しよう。」と声高らかに機運を上げて呼びかけたところで、使用できる施設がなかったり、弊害になることが多かたりしたら、広がるどころか推進にもならないのです。

解決策はいたって簡単です。健常者と同様に使用できるようにすればよいだけです。障がい者が自立していて、自分たちで活動できるならさせてあげればよいだけです。

### 2 なかなか進まない障がい者教育

多くの日本人が「障がい者」と聞いたとき見たときに、特別扱いで「何かしなければいけない。」や「してあげなければならない。」との思いになる方が多いのではないのでしょうか。

しかし、そのこと自体は大変素晴らしく、さすが日本人だなあと感心しますが、多くの方は「できない」、「わからない」となってしまうことが多いかと思います。

果たして、障がい者を見たら何かをしなければならないのでしょうか。

日本ではその辺りの教育がなかなか進んでいないと感じています。もちろん困っているのならば、率先してお手伝いしていただきたいのですが、困っていないのならその必要はないのです。よく、健常者の方のこんな言葉を聞きます。「せっかく親切に手伝ってあげようとしたのに断られた。」とか「怒られた。」とか。こんな話を聞くと個人的ですが、日本人って「世話好きだな〜。」とか「お節介だな〜。」と苦笑いしながらも、「困ったなあ。」とも感じています。さて、みなさんはいかがでしょう。

海外の特に先進国では、障がい者教育がとても行き届いているのを感じます。一番は障がい者を特別扱いせず、同じ人として扱っていることです。ですから、障がい者も自立しやすいような環境になっています。車イスの人と健常者が普通に楽しく会話をしながら一緒に歩いています。互いに手助けする様子も困った様子もないです。これが本来の姿だと思うのです。もちろん困っているときには、互いに声を掛け合って、手助けはするのです。ですから、健常者も車イスに乗って一緒にスポーツを楽しんだりしています。2020年のパラリンピックまでに関係者だけでなく、多くの日本人の意識が少しでも変わっていただけを願っています。

### 3 今すぐに見えること

みなさん考えてみてください。障がい者と健常者が一緒に今すぐ行えるスポーツは何でしょう。もちろん障がいの程度や種類にもよりますが、全身動かさず手だけかもしれません。顔だけかもしれません。目が見えないかもしれません。耳が聞こえないかもしれません。寝たきりかもしれません。でもみなさん、スポーツは楽しくて健康にいいのですよね。

障がいがある人には、その機会がないのでしょうか。意欲のある人だけが参加すればよいのでしょうか。多くの方が一緒に考えていただけると問題は解決していきます。

車イスに乗っているなら、乗っている範囲でできること。ゆっくりしか歩けないなら、そのスピードや動ける範囲の中でできること。はたまた健常者が、車イスに乗ってもいいのではないのでしょうか。

みなさんはいくつの種目があげられますか。車イスに乗っているなら卓球もバスケットもバドミントンもテニスもできますね。ボッチャもできます。玉入れだって風船バレーだってダーツだってできます。健常者の判断ではなく、まずは障がいがある人がやってみればよいのです。もし困難ならば、ルールを変えて考えてあげればよいのです。

### 4 アダブテッドスポーツ

その場にいる人たちに合わせてルールをつくり、一緒に楽しむ。正規のルールに縛られずに臨機応変にルールを変えて、みんなが楽しめるように工夫していけばよいのです。これは決して障がい者に限らず、高齢者のみなさんとのスポーツも同様です。高齢者の方が多く、長い時間立ってられないのならば、イスを用意して座ったままでできるようにすればよいの

です。みんなが同じルールで楽しむのですから、これは特別扱いではありません。スポーツですから勝敗もあるでしょうが、まずは楽しめるための手段を考えることです。

「できないからやらない。」のではなく、出来る方法を考えればよいのだと思います。長年競技スポーツに携わってこられた方にとって、ルールは命みたいなものだと思いますが、それはあくまでも競争・勝敗といった目標や目的がある中で必要とされるからできてきたことであり、必要なことだとは重々わかっていることで、なくそうとしているではありません。その時だけ、その日のために、その人たちが楽しめるためだけに、少しだけやり方を変えるのです。そこも日本人だなあとと思います。「するからには勝たなければならない。」それもまた大切なことだと思います。しかし、どうでしょうか。勝敗に拘らない人は、競技スポーツを楽しんではいけないのでしょうか。ただただバスケットがしたい、テニスがしたい、卓球がしたい、だけではいけないのでしょうか。勝っても負けても、互いに「楽しかった～。またしよう!」ではいけないのでしょうか。厳格な日本人のある意味弊害なのかもしれません。

垣根のない共生の環境。障がい者も健常者も一緒に楽しくスポーツを行うことはとても大切なことだと思います。

## 5 福岡県や久留米市の取組

福岡県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会では、県と一緒に特別支援学校の支援や総合型地域スポーツクラブと障がい者スポーツをつなぐ活動を行っています。また、県連絡協議会の研修会でスポーツ車イスの扱い方やメンテナンス、障がい者スポーツの研修会も行っています。更に久留米市では、日頃から障がい者と健常者が一緒に活動できる場を定期的に設けているクラブがあったり、街中で障がい者スポーツの体験会をおこなったり、車イステニスの元パラリンピアンや車イスバスケットの元選手などと一緒にたくさんの車イスを持参して、小学校や中学校へ出向き「出前授業」を行っています。子どもたちにパラリンピックの話や実際に車イスに乗って、バスケットなどを体験してもらっています。子どもたちは多くの体験ができ、とてもよい経験ができています。

## 6 この機運を大切に

「障がい者が一人でも参加できるスポーツ環境ってないの?」障がい者教育や障がい者支援に教職時代を含め、長年取り組んできた母の言葉が今でも私の宿題の一つです。「生涯スポーツ」は健常者だけでなく、障がい者にも当てはまる言葉のはずですが、あまりのハードルの高さにびっくりしたのです。

障がいを持った人との括りが一概でないことは、十分にわかっています。だからこそ、難しいと感じ、長年の宿題となっているのです。

2020年東京パラリンピック、2019年には「スペシャルオリンピック世界大会」が、アラブ首長国連邦で行われる、どちらも障がい者のスポーツ大会ですが、認知度はどれくらいなのでしょう。

都道府県をはじめ市町村でも、障がい者スポーツに多くの予算を計上していただいでい

るようです。このチャンスを生かして、障がい者と健常者が共に理解し合い、スポーツで共生できる環境づくりを目指していこうではありませんか。

この度は、大変貴重な機会をいただき心より感謝いたします。ありがとうございました。



サウンド卓球



車いすバスケット



研修会の様子

# 第4 分科会

[ テーマ ]

## 「スポーツで輝く未来を明るく！」

～スポーツと観光が結びついた地域の活性化を目指して～

[ コーディネーター ]

拓殖大学 商学部  
准教授

**松橋 崇史**

[ 発表者 ]

愛媛県：企画振興部政策企画局  
サイクリング普及調整監

**坂本 大蔵**

山口県：宇部市スポーツコミッション事務局

**森 朋子**

鹿児島県：いぶすき菜の花マラソン大会実行委員会  
副実行委員長

**別府 竜人**

# 自転車新文化の推進について

～自転車による観光振興，地域の活性化を目指して～

愛媛県企画振興部政策企画局 サイクリング普及調整監 **坂本 大蔵**

## 1 愛媛県の紹介

愛媛県は、四国の北西部（左上）に位置し、北は瀬戸内海をはさみ、「しまなみ海道」で結ばれた広島県、西は宇和海を隔てて大分県と向かいあっている。温暖で雨が少なく、冬季は、平野部での積雪はほとんどないが、山間部では積雪も多く、標高の高いところでウィンタースポーツが楽しめるなど、四季を通じて多様な気候に富んでいる。

東洋の地中海と呼ばれている瀬戸内海には、大小多くの島々が点在し、リアス式海岸が続く宇和海は、美しい景観を形成している。また、中央部には、西日本最高峰の石鎚山とそれに連なる山々や四国カルストが広がり、雄大な眺めとなっており、バラエティに富んだ豊かな自然に恵まれている。

野球をはじめ、スポーツが盛んな土地柄で、昨年（平成29年）は「愛顔（えがお）つなぐえひめ国体・えひめ大会」が開催され、県民のスポーツへの関心の高まりや、競技力の向上、運営スタッフ・ボランティアの確保・育成などが図られ、今後は、こうした両大会のレガシー（遺産）を最大限に生かして、「スポーツ立県えひめ」の実現を目指している。



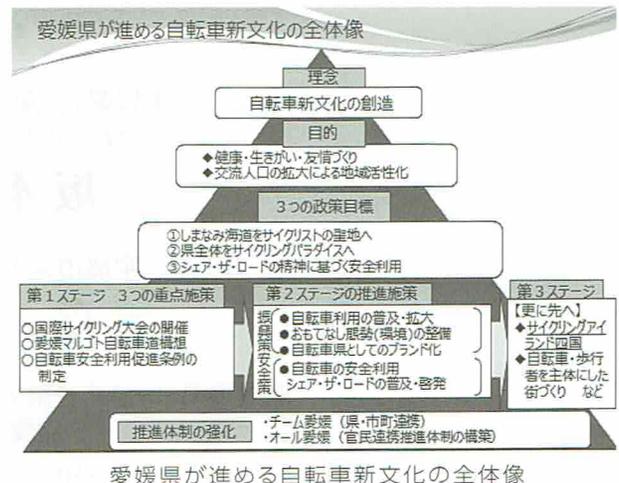
愛媛県イメージアップキャラクター みきゃん

## 2 自転車新文化とは

愛媛県における自転車新文化の取組は、平成23年度にスタートし、平成27年度には、県庁内に自転車新文化推進室が創設され、平成30年度には自転車新文化推進課となって、様々な自転車施策を推進している。

愛媛県では、これまで自転車は、買い物、通学、通勤といった移動手段として主に使われてきたが、自転車は、「健康」と「生きがい」と「友情」をもたらすものであるという「自転車新文化」を提唱し、自転車を取り入れたライフスタイルを提案することで、その拡大や定着を目指している。

こうしたサイクリングを核とした取組を進めることで、健康増進や友情を育み、交流人口の拡大によって、観光振興や地域の活性化に繋げていこうとしており、将来的には関連産業の創出、雇用の拡大にまで拡がることを期待している。



### 3 地域づくりにおける振興と安全

平成29年4月に「日本トイザラス」が発表した20歳～59歳の男女1,638名を対象にアンケート調査した結果によると、「98.6%の人が自転車に乗ることができる」となっている。全年齢においても、自転車に乗ることができる人が約8割と言われており、これは、他国に比べると格段に高い割合である。

自転車は、誰もが利用できる便利で快適な乗り物で、買い物、通学、通勤といった移動手段、競輪やトラックレース、ロードレースのようなスポーツ、レジャーとしてのサイクリングなど、さまざまな側面を持っている。このうちサイクリングは、愛媛県には海峡を自転車で渡ることができる、世界に誇る「しまなみ海道」がある。何より、サイクリングは、特別な会場やスタジアムを必要とせず、みんなが日常で通行する道路を使って楽しむことができる。

このため、県民の日常生活や車の通行と密接に関係することとなり、サイクリングの振興と併せて、県民に危険な思いをさせることなく、安心して通行できるよう、「振興策」と「安全策」を両輪として進めていくことが重要である。県民が自転車に親しみ、安全に楽しむ環境が整っていれば、県外や海外のサイクリストにとっては、走りやすい、愛媛県をサイクリングしてみたいという受け入れ環境になっていることとなり、そのためにも、県民に向けての施策の展開が重要であると考えている。

実際に、平成30年度の事業執行では、県庁の12課と県警が施策に取り組んでおり、自転車の「振興策」としては、その利用の多様性から、子どもからお年寄りまで、初級者から上級者まで、親しむ程度の近距離から旅としての長距離まで、さまざまな層の方にアプローチする多様な施策が必要で、「情報発信や受け入れ環境の整備」「四国一周サイクリングの推進」などのソフト事業と、「自転車走行環境整備」などのハード事業を実施している。

一方、「安全策」としては、平成25年7月に、都道府県として全国で3番目となる自転車安全利用条例を定めて、シェア・ザ・ロードの普及啓発を進め、高校生へのヘルメット着用や思いやり1.5m運動などの「自転車安全利用促進」施策を積極的に進めている。



思いやり1.5m運動

### 4 自転車新文化の方向性



しまなみ海道サイクリング(来島海峡大橋)

愛媛県では最初に、絶景を堪能できるコースであるしまなみ海道を、「サイクリストの聖地に」という目標を掲げ、乗り捨て可能なレンタサイクルに加えて、ブルーライン※の敷設やサイクルオアシス、サイクルレスキューの整備、えひめFree Wi-Fiの設置などの受け入れ環境整備を行ってきた。

さらに、日本で初めて供用中の高速道路を一部通行規制してサイクリングする『瀬戸内しまなみ海道・

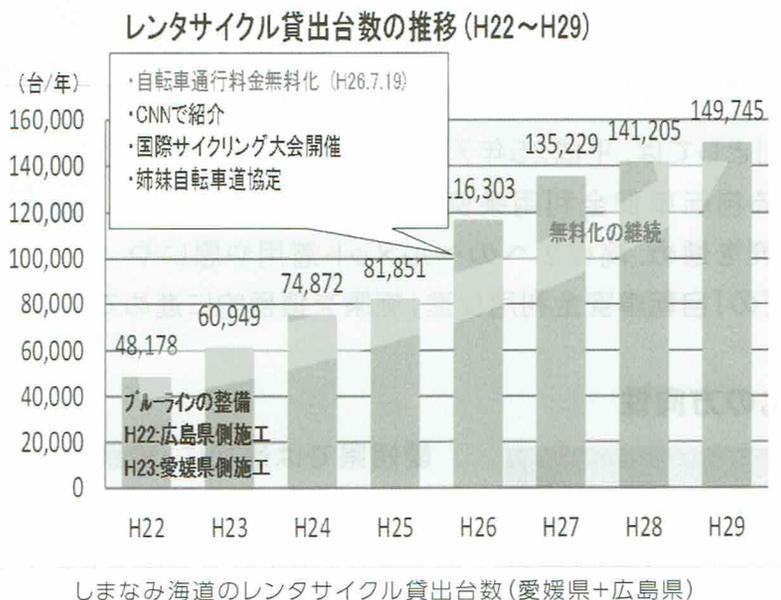
国際サイクリング大会』を、平成26年、28年に開催し、しまなみ海道の知名度は飛躍的に向上してきた。

※ ブルーラインは、車道の左側に推奨ルートを明示するブルーライン及び距離標示を敷設したもので、これにより、サイクリストが迷わずしまなみ海道を楽しめるようになった。当初は、JR今治駅からJR尾道駅まで約70キロを、愛媛県側と広島県側で統一したブルーラインで案内した。

また、海外においてもアメリカCNNテレビのWEBサイトで、世界7大サイクリングコースの一つとして紹介され、オーストラリアのロンリープラネット社による世界の魅力的な50のサイクリングコースに日本で唯一紹介されるなど、外国人のサイクリストが数多く訪れるようになった。

しまなみ海道のレンタサイクル貸し出し実績は、愛媛県と広島県の両県を合わせて平成22年度(48,178台)以降、右肩上がりとなり、平成29年度は149,745台で約3倍となっている。しまなみ海道の自転車走行者の約4割がレンタルとされており、マイ自転車を含めると、約37万人が利用していると推計される。また、今治市の外国人宿泊者数も平成27年からの2年間で1.3倍となった。

これにより、約70キロのサイクリングコース沿線には、新しいカフェやレストラン、ゲストハウスなどのほか、各島々にも魅力的な店舗や施設が次々とできて、IターンやUターンの移住者も増加しており、サイクリングとともに地域が活性化している好例となっている。



## 5 サイクリングパラダイスえひめ

次のステップとして、愛媛県の良さを発信し、効果を全県に拡大しようとしているのが、県全体をサイクリングパラダイスにするという「愛媛マルゴト自転車道構想」である。0.6キロ

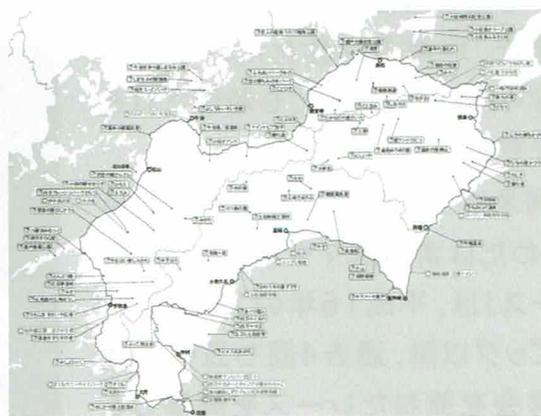
から146.6キロまで、ファミリー向け17コース、中上級者向け11コースを全県に設定し、情報発信や受け入れ環境の整備を進めている。

特に、サイクルオアシスは県内への展開に向けて毎年施設を増やし、さらにサイクリトレインやサイクルバスといった、より多くの方にサイクリングを楽しんでいただくための二次交通の整備にも力を入れてきた。合計で1,100キロを超えるコースにブルーラインを敷設することにより、県内のサイクリストが日頃から楽しめるようになり、国内外のサイクリストも集まるようになってきた。

自転車で地域が盛り上がっている事例をいくつか紹介すると、上島町は、しまなみ海道のリピーターの方を中心に、三つの島を巡るサイクリングや離島ならではの魅力が注目され始めた。久万高原町で平成23年に始められた石鎚山ヒルクライムは、大会前には多くのサイクリストが試走やトレーニングに訪れ、地域が賑わうようになってきた。松野町では、平成28年から林道などの未舗装の道路を活用したマウンテンバイクのオフロードイベントを開催し、自然の山々を駆け巡るサイクリングとキャニオニングとの組み合わせや四万十川へのサイクリングとの連携により、新たな展開が期待されるようになっている。



愛媛マルゴト自転車道コース図



四国一周1000キロのマップ

## 6 サイクリングアイランド四国へ

ここに来て課題も見えてきた。サイクリストは1日で軽く100キロを走り、県境を越えていく。愛媛県だけでいいのか、もう一度サイクリストの目線になって考えてみる必要が出てきた。

そこで、平成28年から、四国にサイクリストを呼び込もうと愛媛発着の四国一周約1,000キロルートを発表し、サイクリングアイランド四国の構想をスタートさせた。四国4県の特色ある自然景観や海、文化、食を体感してもらうとともに、1200年の歴史がある四国遍路のおせったい文化やおもてなしの心に触れてもらうことで、一周するという達成感とともに、魅力的なコンテンツを提供しようとしている。

そして、サイクリング先進地である台湾では「環島(ホアングオ)」として、一周約900キロのサイクリングが人気となっており、既に台湾からのサイクリングツアー客が四国一周にチャレンジするなど、四国一周と台湾一周でサイクリング交流の促進も視野に入れている。

確かに、四国にエリアを拡大したことで、効果の分散も指摘されているが、インバウンドの

伸びや、欧米豪では長期休暇を利用してバカンスを楽しむ人が多く、買い物を楽しむ「モノ」消費から、体験型の「コト」消費に移行しつつある現状を考慮すれば、自転車と四国の親和性に加えて、四国遍路との連携も考えられ、それが相乗効果となって 魅力が高まり、インバウンドの拡大に繋がるものと期待される。

## 7 サイクリングの発展性、可能性

サイクリングの魅力は、幅広い年齢層の方が、一人でも自分のペースで家を一步出ればすぐに楽しめることができる。それは程良いスピード感・距離感で、走っているルート全部を「線」で楽しむことができるもので、ちょっと止まればすぐに地域に溶け込むことができるのも大きな利点の一つである。それがSNSの普及により、個人による口コミが拡散していくことで情報発信がなされ、行ってみたいと思わせる情報が、誘客に結び付くという流れを見ることができる。

このように、国内外での認知度が高まる中で、地域の魅力は何か、受け入れ環境をどのように整えていったらいいかをしっかり体制整備する必要がある。いわばサイクリングで育ってきた地域活性化という果実を、いかに刈り取るかという仕組みが求められている。

また、地域の活性化だけが成果でなく、幅広い効能にも着目されるべきである。

例えば、八幡浜市で開催される「やわたはま国際マウンテンバイクレース」は、平成16年のアテネオリンピック以降、過去4回も五輪代表選考会を兼ねたレースを開催しており、子どもたちが身近なところで国内のトップ選手による走りを見る機会となっている。



「やわたはま国際マウンテンバイクレース」のスタート

そして、60歳以上の方を対象にした「アクティブシニアスポーツサイクル体験会」は、元気な高齢者の方にスポーツサイクルに乗っていただき、自転車に触れることで健康寿命の延伸や将来の医療費削減、介護予防の一助になればと期待されている。

また、タンデム自転車のサイクリングは、健常者と共に障がい者の方が一緒に楽しめる貴重な機会となっている。

## 8 地域活性化への拡大、定着にむけて

愛媛県では、自転車新文化を推進するにあたり官民連携の推進体制として、平成28年3月に自転車新文化推進協会を設立し、県、市町、企業、団体等が一体となって自転車新文化の普及・拡大に取り組むこととなった。

さらに、四国一周サイクリングにおいても、2020年に開催する東京オリンピック・パラリ

ンピックという我が国に世界中の注目が集まる絶好の機会を逃すことなく、国内外からの誘客を図るため、官民連携の枠組みを活用しながら「オール四国」の体制で、道路環境等のインフラ整備をはじめ、受け入れ環境の整備・充実に取り組んでいきたいと考えている。

愛媛県の地方に目を移せば、「車文化」が主流となり、都市計画や道路整備も車中心に進められてきた。それを自転車で安全に楽しめる環境に変えていくには、自転車の立場の位置づけや通行環境のハード整備など、色々な課題があるのも事実である。これを将来的に自転車が生活の中に定着させることで、新たな文化として根付かせることが重要である。こうした愛媛県の取組が、中国、九州、環瀬戸内と拡大し、全国に普及すればと願うところである。

# スポーツを楽しむ元気なひとの元気なまち・ 宇部市の実現を目指して

山口県宇部市スポーツコミッション事務局 森 朋子

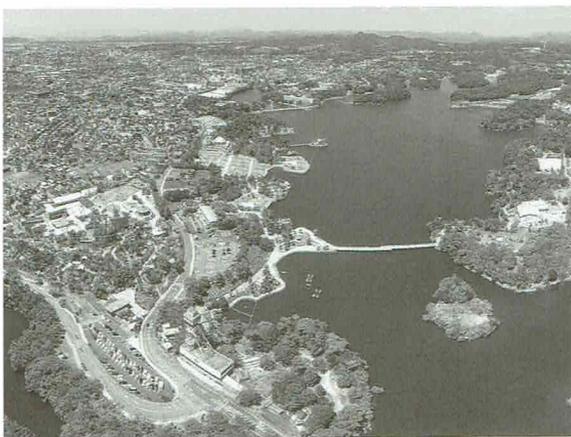
## 1 宇部市はこんなまち

宇部市は、山口県の南西部に位置し、瀬戸内海に面している。明治から大正にかけて、石炭産業の発展とともに急激に人口が増加したことにより、1921年(大正10年)11月、全国でも例の少ない「村」から「市」への移行を遂げ、2021年に市制施行100周年を迎える。

明治以降、「炭鉱のまち」として栄え、戦災復興後は化学工業を中心とした近代的工業都市として発展したが、その急速な発展は、ばいじん公害を引き起こしてしまった。そこで、「緑化運動」「花いっぱい運動」「まちを彫刻で飾る運動」が市民運動として広がり、官民協働による「緑と花と彫刻のまち」として生まれかわった。

「緑と花と彫刻のまち・宇部市」を代表する観光スポットである「ときわ公園」は、「日本の都市公園100選」「美しい日本の歩きたくなるみち500選」等にも選ばれており、「世界かんがい施設遺産」に登録されている常盤湖を中心とする189ha(東京ドーム40個分)の広大な都市公園である。

ときわ公園のUBEビエンナーレ彫刻の丘では、1961年(昭和36年)以来、大規模な野外彫刻の公募展「UBEビエンナーレ(現代日本彫刻展)」を2年に一度開催しており、約100点の彫刻作品が自然と融合して展示されている。また、動物本来の行動を発揮させる「生息環境展示」が特徴の「ときわ動物園」、世界中の植物を楽しむことができる「ときわミュージアム世界を旅する植物館」など、現在も宇部市の誇れる観光地としてその魅力が拡大し続けている。



ときわ公園全景



花いっぱい運動記念ガーデン

## 2 スポーツを楽しむ元気なひとの元気なまち

宇部市では、競技スポーツに限らず、市民の「だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも」、それぞれの体力や年齢、興味、目的などに応じて、身近な地域でスポーツに親しめる生

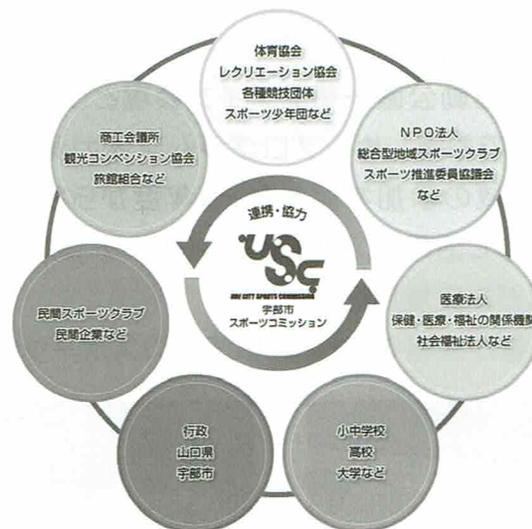
涯スポーツ社会を推進するとともに、2011年(平成23年)に開催された「おいでませ!山口国体」の会場ともなった、宇部マテ“フレッセラ”テニスコートやユープールスタジアムへの全国大会誘致などにより交流人口を拡大し、地域活性化を進めることで、「スポーツを楽しむ元気なひとの元気なまち・宇部市」の実現を目指している。

### 3 宇部市スポーツコミッションの発足

2011年(平成23年)に策定した、「宇部市スポーツ振興計画」(現在は、宇部市スポーツ推進計画)では、市民の多様なニーズに対応した健康長寿のまちづくりを推進するとともに、「スポーツを楽しむ元気なひとの元気なまち・宇部市」の実現を目指すため、スポーツに関する情報・人材・組織をネットワークでつなぐスポーツコミッションの構築を掲げた。

2014年(平成26年)10月に、スポーツ、医療・福祉、観光等の各分野の関係団体と民間事業者及び行政機関からなる官民協働の組織として、県内では初となるスポーツコミッションを設立し、スポーツによるまちづくり、官民を合わせた施設と専門指導者の活用、スポーツツーリズム、各種大会の誘致など、宇部市の元気づくり・活性化を推進している。

2018年(平成30年)11月には、これまでの事業の幅を広げ、持続的な運営が行えるよう、「一般社団法人宇部市スポーツコミッション」として、新たにスタートしたところである。



宇部市スポーツコミッション組織イメージ図

### 4 チャレンジデーの開催

チャレンジデーは、人口規模がほぼ同じ自治体間で、15分以上継続して運動やスポーツを行った住民の数を参加率で競う、住民総参加型のスポーツイベントである。1983年にカナダで始まり、日本では1993年(平成5年)から公益財団法人笹川スポーツ財団がコーディネーターを務め、毎年5月の最終水曜日に開催されている。

宇部市スポーツコミッションでは、参加団体と連携・協力し、チャレンジデー当日のイベントプログラムを市内各所で実施するなど、日常的なスポーツの習慣化や住民の健康増進、地域の活性化に向けたきっかけづくりを目的に、2015年(平成27年)よりシンボルイベン

トとしてチャレンジデーを開催している。今年で4回目となるチャレンジデー2018の参加率は54.9% (91,520人)で、初めて参加率50%超えを果たし、2回目の勝利を取めた。また、積極的なPR活動の結果、地元紙をはじめとする新聞、テレビのニュースなど、合計39件の報道実績が評価され、全実施121自治体の中で最も多く報道機関に取り上げられた自治体に贈られるベストPR賞を3年連続で受賞した。



オープニングイベント「やまぐち元気ラジオ体操」



ファイナルイベント「ロープジャンプX」集合写真

## 5 スポーツコミッションフェスタ～健康とスポーツの祭典～の開催

スポーツコミッションフェスタは、毎年10月体育の日に開催し、スポーツの楽しさや面白さを発信し、誰もができるスポーツや健康づくりのプログラムを多数実施するスポーツイベントである。

宇部市中心部にある恩田運動公園一帯をメイン会場として活用し、普段スポーツをしない人やスポーツが苦手な方でも楽しめるプログラムや体力測定会、ニュースポーツ体験会などを実施する。また、市全域の参加を促す為、今年度から宇部市北部にあるアクトビレッジおのをサテライト会場として活用し、小野湖でのEボート体験やその周辺の自然環境を活用した体験型のイベントなどを実施した。

毎年、約2,000名の来場者が会場を訪れ、思い思いのスポーツを楽しむ姿が見られている。



バブルボールを使って遊ぶ参加者の様子



小野湖を活用したEボート体験

## 6 トップアスリート招致によるイベント開催

世界のトップレベルで戦う現役アスリートやオリンピック出場経験者から、体験談を交えた講話や専門的な指導を直接受ける機会などを設け、子どもたちに夢を抱かせ、チャレンジ

することの素晴らしさを伝えていく活動として、オリンピック交流事業を開催している。

また、すべての人がスポーツに親しむ機会をつくとともに、障がい者と健常者がスポーツを通して交わることで、共生社会の実現を目指すプログラムとしてパラリンピアン交流事業を開催している。

これまでに4名のオリンピックと6名のパラリンピアン・パラアスリートを招致し、講演会やふれあいスポーツ教室などを実施し、約2,200名が参加している。



ラリーを通して石川佳純選手が直接指導



官野一彦選手からウィルチェアラグビーについて学ぶ

## 7 スポーツスタートプログラムの開催

子どもたちがスポーツを始めるきっかけをつくり、スポーツが好きな子どもたちを増やしていくため、主に夏休み期間を活用し、子どもや親子向けの体験プログラム、学童保育クラブ向けの運動プログラムを、参加団体や人財バンク登録者と連携・協力しながら実施している。内容は、サッカー、バスケットボール、ゴルフ、体幹トレーニング、ダンス、ヨガ等と多岐に渡り、市内のスポーツ施設や学童保育クラブ等で実施している。

これまでに延べ約50プログラム、約2,300名が参加している。(平成30年9月現在)



サッカーボールを使った運動遊び教室

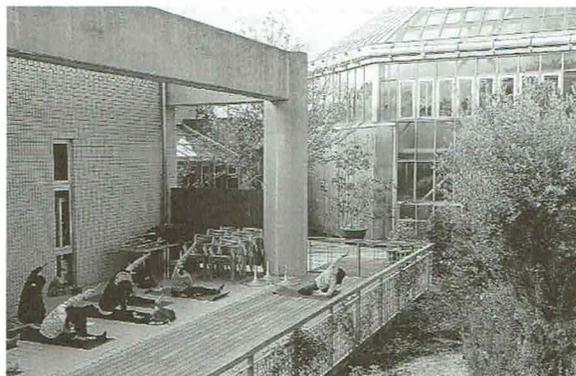


ゴルフを楽しく、正しく学ぶスナッグゴルフ教室

## 8 市内の観光資源を活用したスポーツヘルスツーリズムの開催

市内の観光資源などを活用し、スポーツを楽しみながら、宇部の新たな魅力を発見し、まちとスポーツ両方を好きになる企画をスポーツヘルスツーリズムとして開催している。

主に、宇部市の観光拠点であるときわ公園、田舎の原風景が残る北部地域を活用し、地元の食や見どころのある場所でウォーキング、ジョギング、ヨガなどの運動要素と組み合わせる実施することが特徴である。これまでに23プログラムを開催し、337名が参加している。(平成30年9月現在)



ときわ公園「世界を旅する植物館」でヨガ体験



北部地域「吉部」で開催した棚田ウォーク

# 「地元住民とのふれあいを大切に 『おもてなし日本一』の大会を目指して」

いぶすき菜の花マラソン大会実行委員会 副実行委員長 別府 竜人

## 1 指宿市はこんな街

指宿市は本土南端に位置し、一年を通して温暖な気候に恵まれ、年間平均気温は、暖流の影響により約18度と高く、亜熱帯的な気候のため市内にはソテツが自生し、幸せを呼ぶ熱帯蝶の「ツマベニチョウ」が乱舞する北限の地とも言われている。市の中央部には、九州一の大きさを誇る「池田湖」、南西部には標高924mの薩摩富士の別名で呼ばれる秀峰「開聞岳」、南部には南国ムード漂う「長崎鼻」、東部には潮の干満で陸続きになる、環境省のかおり風景百選に認定された「知林ヶ島」を有している。市の全域を霧島火山脈が縦断しており、豊富に湧出する温泉に恵まれ、世界に類を見ない「天然砂むし温泉」は有名である。また、1日に10万トンも湧き出る清水に代表され、豊かな水環境を有するそうめん流しで有名な「唐船峡」の周辺地域は、国土交通省の「水の郷百選」に認定されている。

## 2 きっかけ

昭和30年から40年代の高度成長期には、宮崎・霧島・指宿というルートは、ゴールデンコースとして人気を博し、言うまでもなく指宿温泉は「東洋のハワイ」を標榜し、新婚旅行のメッカとして知名度を上げた。ところが、50年代に入り、グアムやハワイなど海外へのハネムーンが一般的となり、45年末のオイルショックが追い打ちをかけ、潮が引くように新婚客がいなくなり、観光客が激減し旅行需要は大幅に冷え込み、大手ホテルが次々と姿を消していった。

そのような中、大手旅行会社の二人が指宿を訪れ、温暖な気候と温泉、充実した宿泊施設、豊富な観光資源に着目した。ランナーでもあった二人は「池田湖」・「開聞岳」・「長崎鼻」の美しい自然が適度な間隔で位置しており、これらを一周すれば42kmぐらいと感じとった。これらの条件と、当時正月三が日を過ぎると宿泊客が極端に少なく、どのホテルもがら空き状態だった状況を見て、「新年早々のマラソン大会を開催しては」と提案し、かくして第1回大会が、昭和57年に「指宿温泉マラソン大会」として、参加者306名により開催されたのである。



「第2回指宿温泉マラソン大会」宗茂・猛兄弟参加

## 3 地域活性化への道筋

今から36年前(1982年)、5km・10km・フルマラソンの3種目306名の参加者で始まった「いぶすき菜の花マラソン」が、今や前回37回大会では、フルマラソンのみの参加者13,235名

の大会となった。こんなにも大きく成長した理由に、いろいろな要素が考えられる。それは、「天の時」「地の利」「人の和」。まさに「天地人」、この3つに恵まれた大会だと思う。

### (1) 「天の時」

開催日が、1月の第2日曜日ということが挙げられる。参加者は、「新しい年をいち早く走り良い年にしたい。」「この1年健康でありたい。」という願い思いで走る最高のタイミングではないだろうか。

当時は、年末年始を過ぎると宿泊客は減り、そのような状況を打破する意味で、正月過ぎの第2日曜日に開催日を設定した。

当初から年を追うごとに、参加者は倍々に増え、11回大会(11,185名)では、待望の1万人超え。15回大会から26回大会まで1万3千~1万4千人を推移し、20回記念大会では、21世紀がスタートした2001年と重なり、更にハッピーマンデーで、1月の第2日曜が「成人の日」となり、三連休の中日に大会を実施できるようになった。それに加え、26回大会に東京マラソンが開催され、マラソンブームに火が付き、29回大会では2万人を超え、2011年節目の30回大会では、2万1千人を超えた。また、同年に九州新幹線全線開業と重なっていたため、開催年・日が恵まれた年であった。これもまさに「天の時」に恵まれたと言える。

当初はまだ参加者数も伸び悩み、如何にして増やそうかと考える中、まず初めに行ったのが名称の変更だった。2回大会まで「指宿温泉マラソン大会」であったが、3回大会から「指宿菜の花マラソン大会」に変更し、耳当たりの良い・親しみやすさを打ち出した。しかし、指宿と言う漢字が「ししゅく・ゆびやど」と読まれ、分かりにくいということもあり、16回大会からはひらがなの「いぶすき」になり、より親近感のある大会に成長した。さらに、市町村合併以前は、1市2町、旧指宿市・旧開聞・山川町で、旧の町は揖宿郡〇〇町で表記されており、指と揖の違いをひらがなにすることで、地域住民・ボランティアの一体化に功を奏した結果となった。

### (2) 「地の利」

高低差が大きく大変ではあるが、全国でもまれな周回コースも本大会の特徴である。指宿の観光地である九州最大の湖「池田湖」や薩摩富士と呼ばれている「開聞岳」がランナーを出迎える。そして、「フラワーパークかごしま」から東シナ海を望む「竹山」へと繋がり、かつお節で有名な「山川港」へとかけ降り、湾を回ると指宿名物の「天然砂むし温泉」がある温泉街を通過しゴールとなる。まさに「地の利」を活かし変化に富んだ素晴らしいコースである。

### (3) 「人の和」

4回大会から地元鹿児島県のテレビ局が、共催につきマスコミを通じてPRを始め、5回大会から九州管内のキャンペーンを実施。太陽が昇る前の早朝に、福岡の大濠公園、熊

本の熊本城、長崎の長崎陸上競技場、宮崎の大淀川河畔などで、多くのジョギング愛好者に菜の花マラソンへの参加を呼びかける取り組みもした。さらに、地域住民による心のこもったおもてなしが大変好評となり、コース上にはありとあらゆるサービス、まるで祭りに出される食べ物が殆どとっていいほど提供される。そして、このサービスは年々大規模となり、実行委員会から依頼をしていないにもかかわらず、自前で提供してくれる郷土愛に大会を運営する我々も感動するほどである。

それに加え、各種団体の協力は外せない。女性連絡協議会は給水ポイント、交通安全協会は立哨、建設業組合は交通規制看板の設置、陸上競技協会と市職員は競技関係、青年振興連絡協議会（青年団体）等は駐車場整理等など色々な団体が実行委員会のメンバーに加わり大会を支えており、地元の大会は自分達で担うと言う機運になっている。

以前、他マラソン大会に出向き、参加を呼びかける中、ある参加者から、「おたくの大会に参加すると肥えるからな〜。」と言われ、最初は何を言っているのか分からずびっくりしたことがあった。

内容から推察するに住民の方々の提供が凄すぎて、思わず手が出てしまうということであった。思わず熱い気持ちがこみ上げ、同時に感謝でいっぱいになる。その様な善意、思いやりがリピーターを生み、地元との交流を深め、この活動が多くの参加を生み、飛躍的に伸びた要因ではないかと思う。



「沿道でもてなす地元住民」

#### 4 今後に向けて

東京マラソン開催を皮切りに、各県庁所在地のマラソン大会が開催され、いわゆる都市型マラソンが勃発し、九州管内でも5つの大会が開催されている。そのため、地方での開催が危ぶまれ、当大会も然りである。鹿児島マラソンが35回大会が開催されてからは、毎年2千人ずつ減り現在（1万3千人）にいたっている。

減少の要因として考えられるのが、都市型マラソンの影響を受けているだけではない。若年層の興味離れ・趣向の変化・少子化などにより、20代・30代の参加者離れが進んでおり、ピーク時の約半数に激減したのも要因の1つに考えられる。ただ、10数年前までは10kmコースのエントリーを含む、1万3千人以上の参加を10数年も続いた頃と比較すれば、フルマラソンのみでこの参加者数を維持できていることは誠に有難く、感謝するところである。

日本最南端のこの地にこれだけの参加があり、開催数も歴史を重ねていることで、全国各地から視察に来られた方から菜の花マラソンの経済効果などの質問を受けるが、誰もそのような計算をしたことがない。「菜の花マラソン」が、私達の故郷・指宿の活性化の手段として、地域ぐるみの観光浮揚とまちおこし、それに「指宿」の知名度のアップにつながるのである。確立した大会になれば人が人を呼び、ボランティアがボランティアを呼び、それに、大会翌日の新聞各紙では、菜の花満開の指宿路を駆けるランナーの姿が、一面カラーで大きく掲載され、全国にも報道される。

これもまた、ごく自然に知名度アップに繋がっており、長期的な視野で見れば観光のPRにも役立ち、敷いては地域おこしに大きな割合を占めていることは否めない。

## 5 おわりに

今や、菜の花マラソン大会は新春のマラソン大会として認められつつある。指宿と言えば、「砂むし温泉」であったが、「菜の花マラソン」に変わりつつある。地域における貢献度は計り知れないし、親しみやすさが浸透してきていると言える。

大会名が「菜の花マラソン」というだけに、コース沿いに菜の花の植栽が始まり、同様に空



「池田湖畔」の菜の花沿いを走るランナー

き地にも、そして、農家の方々からの協力ももらい、畑にも植栽し黄色の絨毯を敷き詰めた1千万本の菜の花畑が広がり、まさに大会に華を添えている。

12月後半から2月半ばまで約2か月間近く咲いており、大会終了後もそれを目当てに観光客が来てくれる。まさに、一石二鳥でスポーツと観光が互いに相乗効果を生んでいる。またボランティアで培った善意、思いやりが観光客を迎えるのに一役買っていると言えるのではないかと。

よく町おこしとか言われるが、「菜の花マラソン」が地域おこしの種になったのかもしれない。マラソンが一種の起爆剤になり、地域活性化、町おこしに繋がったと思う。

市民ひとりひとりが冗談交じりに「おい(私)がおらんとマラソンができんでねー。」と喋ってくれる。魔法のような言葉に感じる。なぜなら、大会自体を愛しているということであり、責任をもって取り組んでいるからこそその言葉だからだと思う。みんな自分が作ったと自負している。それと同時に自分達の町は自分達で造るという機運も高まっていると思う。

これからも、「いぶすき菜の花マラソン」が種となり、地域おこしの手段として花を咲かせてくれることを願うばかりである。



# 鹿児島大会参加者名簿

平成 30 年 10 月 30 日現在

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
北海道		
標津町	加瀬 智則	第 1 分科会
釧路市	板本 猛	第 1 分科会
栗山町	岡山 典弘	第 1 分科会
苫小牧市	久野 利廣	
様似町	桜庭 伸一	第 2 分科会
小樽市	吉田 友美	第 2 分科会
小樽市	发田 恵之介	第 3 分科会
小樽市	池田 道子	第 4 分科会
北海道	上野 靖	第 1 分科会
北海道	坪田 敏男	第 1 分科会
当別町	野口 和之	第 1 分科会
当別町	浜上 高也	第 1 分科会
札幌市	前田 和也	第 1 分科会
札幌市	黒島 隆一	第 4 分科会
札幌市	近藤 裕孝	第 1 分科会
札幌市	橋本 幸弘	第 2 分科会
札幌市	岡田 清文	第 4 分科会
札幌市	小谷 雅彦	第 1 分科会
札幌市	武藤 仙由	第 2 分科会
札幌市	尾野 才み子	第 4 分科会
標茶町	加茂 政志	第 1 分科会
江別市高砂町	小林 照美	第 1 分科会
江別市高砂町	堀内 真知子	第 1 分科会
江別市高砂町	高橋 登貴子	第 1 分科会
津別町	長野 三恵子	第 4 分科会
旭川市	石井 秀幸	第 4 分科会
旭川市	三宅 武夫	第 1 分科会
旭川市	飯田 恵美子	第 2 分科会
旭川市	西田 美知子	第 3 分科会
札幌市	小林 敬子	第 1 分科会
栗山町	永池 英彦	第 1 分科会
	合計 31 名	
青森県		
三沢市	滝本 久美子	第 3 分科会
青森市	渡部 裕介	第 1 分科会
青森市	目澤 伸一	第 1 分科会
藤崎町	三浦 勇悦	第 2 分科会
中泊町	坂田 峰之	第 4 分科会
中泊町	成田 寿美	第 4 分科会
八戸市	小杉 雅永	第 1 分科会
鯉ヶ沢町	長谷川 誠	第 1 分科会
鯉ヶ沢町	須藤 正	第 1 分科会
板柳町	三上 栄治	第 1 分科会
板柳町	太田 義勝	第 1 分科会
板柳町	葛西 公静	第 1 分科会
	合計 12 名	
岩手県		
滝沢市	岡村 勝子	第 2 分科会
滝沢市	藤倉 昌枝	第 2 分科会
久慈市	久保 繁明	第 1 分科会
久慈市	税田 茂代	第 1 分科会
久慈市	根井 雄幹	第 1 分科会
遠野市	佐々木 清美	第 3 分科会
遠野市	倉内 泰彦	第 3 分科会
奥州市	佐藤 幸次	第 2 分科会
釜石市	吉田 千秋	第 2 分科会
釜石市	多田 慶三	第 2 分科会
釜石市	中畑 圭介	第 2 分科会
盛岡市	下田 幸枝	第 2 分科会
盛岡市	吉田 洋子	第 3 分科会
盛岡市	深倉 尚光	第 2 分科会
盛岡市	千葉 喜久	第 2 分科会
盛岡市	加藤 健二	第 3 分科会
盛岡市	吉田 千代子	第 2 分科会
盛岡市	村里 洋子	第 1 分科会
盛岡市	池田 晋一朗	第 1 分科会
大船渡市	新沼 幸夫	第 3 分科会
花巻市	高橋 幸一	第 3 分科会
花巻市	小原 奈帆子	第 1 分科会
花巻市	小原 武文	第 2 分科会
花巻市	森山 和寛	第 4 分科会
花巻市	鈴森 直明	第 4 分科会
花巻市	菅原 大樹	第 1 分科会
岩手県	佐藤 勝士	第 1 分科会
岩手県	吉藤 亨	第 1 分科会
	合計 28 名	
宮城県		
色麻町	伊藤 文信	第 1 分科会
亶理町	平塚 和明	第 2 分科会
亶理町	川村 靖子	第 2 分科会
亶理町	佐々木 隆夫	第 2 分科会
亶理町	木村 けい子	第 2 分科会
亶理町	樋口 一志	第 2 分科会
亶理町	佐藤 和江	第 2 分科会
南三陸町	山内 貞行	第 2 分科会
大和町	高橋 淳	第 2 分科会
栗原市	酒井 洋行	第 1 分科会
栗原市	久我 俊一	第 1 分科会
栗原市	菅野 よし子	第 1 分科会
栗原市	大場 照彦	第 1 分科会
栗原市	中山 千恵子	
仙台市	小峰 大地	第 2 分科会
宮城県	長谷川 瑞江	第 2 分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
宮城県		
宮城県	石川 一美	第 3 分科会
宮城県	小野 勝良	第 3 分科会
宮城県	石井 利江	第 2 分科会
仙台市	土方 久美子	第 1 分科会
仙台市	村上 耕策	第 1 分科会
仙台市	山口 春雄	第 1 分科会
仙台市	松本 かよ子	第 1 分科会
仙台市	濱田 淑美	第 1 分科会
仙台市	菅原 雄二	第 1 分科会
仙台市	阿部 和男	第 1 分科会
白石市	半沢 克美	第 1 分科会
白石市	斎藤 秀	第 1 分科会
丸森町	小野 和則	第 2 分科会
大河原町	今井 徳治	第 2 分科会
気仙沼市	白井 信昭	第 2 分科会
登米市	島陰 久雄	第 4 分科会
登米市	関 壮一	第 4 分科会
柴田町	東山 宗悦	第 1 分科会
川崎町	石井 利江	第 1 分科会
美里町	武田 高誠	第 2 分科会
	合計 36 名	
秋田県		
秋田市	加沢 勉	第 4 分科会
横手市	小原 麻美	第 2 分科会
横手市	岡根 弘幸	第 2 分科会
横手市	佐藤 哲子	第 2 分科会
仙北市	浦山 侑也	第 4 分科会
仙北市	千葉 正志	第 4 分科会
男鹿市	板橋 征男	第 4 分科会
三種町	嶋田 裕介	第 4 分科会
三種町	畠山 篤美	第 4 分科会
三種町	佐藤 圭悟	第 4 分科会
三種町	赤川 秀悦	第 4 分科会
三種町	腰丸 重一	第 4 分科会
三種町	佐々木 文治	第 4 分科会
三種町	渡部 千穂子	第 4 分科会
秋田市	伊藤 達矢	第 2 分科会
秋田市	塚田 敏春	第 2 分科会
秋田市	舟山 幸彦	第 2 分科会
秋田市	金子 一典	第 2 分科会
秋田市	船木 宏俊	第 2 分科会
秋田市	鈴木 崇之	第 2 分科会
男鹿市	佐々木 克広	第 1 分科会
男鹿市	安田 秀子	第 1 分科会
羽後町	藤原 善宏	第 2 分科会
羽後町	猪岡 堅二	第 2 分科会
羽後町	原田 泰雄	第 2 分科会
羽後町	大久保 幸子	第 2 分科会
羽後町	佐藤 真由美	第 2 分科会
羽後町	佐藤 勉	第 2 分科会
潟上市	鈴木 和徳	第 4 分科会
南秋田郡	三留 達也	第 1 分科会
南秋田郡	小野 未来	第 1 分科会
南秋田郡	小野 友義	第 1 分科会
能代市	梶原 芳一	第 2 分科会
能代市	佐藤 恵美子	第 2 分科会
能代市	佐藤 一博	第 2 分科会
能代市	工藤 達美	第 2 分科会
能代市	落合 博文	第 2 分科会
潟上市	菅原 勇夫	第 2 分科会
	合計 38 名	
山形県		
山形市	叶内 公章	第 2 分科会
長井	後藤 一也	第 1 分科会
南陽市	内山 富夫	第 1 分科会
南陽市	落合 敏幸	第 2 分科会
南陽市	松木 広美	第 2 分科会
南陽市	安部 欽也	第 1 分科会
南陽市	佐藤 敬浩	第 2 分科会
酒田市	樋渡 隆	第 3 分科会
酒田市	堀 俊一	第 4 分科会
酒田市	佐藤 和弘	第 4 分科会
酒田市	佐藤 清志	第 1 分科会
高島町	早川 美智子	第 1 分科会
山形市	菊地 伸晃	第 2 分科会
山形市	塩野 悦子	第 2 分科会
山形市	鈴木 義則	第 2 分科会
山形市	田中 絃子	第 2 分科会
山形市	高橋 喜一	第 2 分科会
酒田市	堀 卓	第 3 分科会
酒田市	柿島 久子	第 2 分科会
酒田市	遠田 由美子	第 2 分科会
酒田市	高橋 俊樹	第 1 分科会
酒田市	池田 昌子	第 3 分科会
酒田市	五十嵐 幸二	第 2 分科会
酒田市	佐藤 紀巳雄	第 2 分科会
酒田市	伊賀 あけ美	第 2 分科会
酒田市	佐々木 優心	第 2 分科会
長井市	工藤 秀一	第 1 分科会
長井市	佐藤 勝祐	第 1 分科会
鶴岡市	丸山 春男	第 4 分科会
鶴岡市	上野 義弘	第 4 分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
山形県		
鶴岡市	五十嵐 実	第 4 分科会
鶴岡市	秋野 重弥	第 4 分科会
鶴岡市	黒井 豊	第 4 分科会
鶴岡市	難波 初子	第 4 分科会
鶴岡市	五十嵐 哲夫	第 4 分科会
寒河江市	阿部 憲市	第 2 分科会
寒河江市	佐藤 明信	第 2 分科会
尾花沢市	岸 貴和	第 4 分科会
尾花沢市	高橋 昭子	第 4 分科会
上山市	加藤 政博	
上山市	大場 英俊	
上山市	木村 正臣	
新庄市	大場 和夫	第 1 分科会
金山町	幅野 宏一	
金山町	高橋 章	
	合計 45 名	
福島県		
福島市	田村 高弘	第 2 分科会
福島市	小針 幸雄	第 4 分科会
二本松市	杉内 貞夫	第 1 分科会
白河市	和知 雅之	
白河市	五十嵐 啓介	
伊達市	佐藤 修平	第 4 分科会
伊達市	大塚 美代子	第 4 分科会
伊達市	佐藤 英章	第 4 分科会
西郷村	小松 大介	
西白河郡西郷村	高橋 ひろ子	
西白河郡西郷村	辺見 辰男	
猪苗代町	吉田 一義	
猪苗代町	二瓶 芳雄	
猪苗代町	鈴木 智子	
猪苗代町	齊藤 陽子	
福島市	松田 義	第 1 分科会
いわき市	矢内 拓仁	第 4 分科会
いわき市	会川 新平	第 2 分科会
いわき市	鈴木 武司	第 2 分科会
会津若松市	横木 克宜	
会津若松市	藤藤 仁	
	合計 21 名	
茨城県		
取手市	今井 正人	
取手市	小林 誠	第 3 分科会
取手市	橋本 善隆	第 3 分科会
取手市	黒木 宏	第 3 分科会
取手市	福邑 綱子	第 3 分科会
取手市	広木 麗子	第 3 分科会
桜川市	田辺 勝行	
桜川市	蛭原 正善	
桜川市	仁平 博章	
つくば市	飯塚 一夫	第 1 分科会
つくば市	真鍋 敬二	第 1 分科会
つくば市	穴見 テル子	第 1 分科会
つくば市	小口 恵美子	第 1 分科会
高萩市	関山 敏彦	
高萩市	金成 勝子	第 2 分科会
高萩市	清水 愛子	第 2 分科会
土浦市	赤澤 学	第 4 分科会
土浦市	小野 豊	第 4 分科会
土浦市	宮本 正幸	第 4 分科会
土浦市	鈴木 清	第 4 分科会
土浦市	羽成 幸一	第 4 分科会
土浦市	佐々木 勝雄	第 4 分科会
ひたちなか市	宮本 孝太	第 2 分科会
ひたちなか市	坂本 禮子	第 2 分科会
ひたちなか市	和地 孝康	第 2 分科会
ひたちなか市	鈴木 静	第 2 分科会
ひたちなか市	御橋 正道	第 2 分科会
ひたちなか市	大内 豊晴	第 2 分科会
ひたちなか市	内盛 玲子	第 2 分科会
ひたちなか市	横須賀 照	第 2 分科会
ひたちなか市	長谷川 勝巳	第 2 分科会
ひたちなか市	薄井 京子	第 2 分科会
ひたちなか市	小池 英夫	第 2 分科会
ひたちなか市	川上 篤	第 2 分科会
ひたちなか市	江幡 敦	第 2 分科会
つくばみらい市	菊地 正浩	第 4 分科会
つくばみらい市	石島 邦行	第 4 分科会
常総市	小川 正成	
つくばみらい市	原信田 直	第 4 分科会
常総市	笠倉 不二	
常総市	増田 利一	
つくばみらい市	高橋 浩壽	第 4 分科会
つくばみらい市	横張 敦	第 4 分科会
つくばみらい市	岡本 八重子	第 4 分科会
つくばみらい市	関 正臣	第 4 分科会
鉾田市	高橋 昇夫	
鉾田市	井川 諄市	
鉾田市	山口 尚秀	
鉾田市	中根 ひろみ	
鉾田市	佐藤 崇子	
鉾田市	篠原 直人	
稲敷市	中村 徹	

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
稲敷市	富澤 富生	
稲敷市	木村 立弦	
境町	飯田 直也	第4分科会
境町	林 輝	第4分科会
境町	堤 万次郎	第4分科会
境町	秋山 則彦	第4分科会
境町	森本 安宏	第4分科会
境町	関根 あさ子	第4分科会
境町	川上 理恵	第4分科会
笠間市	小林 葵	第2分科会
笠間市	柴沼 一夫	第2分科会
結城市	藤貫 愛美	第4分科会
結城市	伊勢 誠	第4分科会
結城市	北條 豊之	第4分科会
坂東市	山形 琢哉	第4分科会
坂東市	荻井 公夫	第4分科会
坂東市	中村 比呂代	第4分科会
坂東市	山崎 千鶴子	第4分科会
常陸大宮市	野上 魁洋	第1分科会
常陸大宮市	中村 稔	第1分科会
常陸大宮市	海老根 隆	第1分科会
常陸大宮市	小林 正之	第1分科会
常陸大宮市	小室 廣明	第1分科会
常陸大宮市	富田 弘徳	第1分科会
常陸大宮市	海老根 博	第1分科会
常陸大宮市	宇留野 結美	第1分科会
常陸大宮市	中村 美佐江	第1分科会
常陸大宮市	松浦 安美	第1分科会
常陸大宮市	鈴木 弘子	第1分科会
常陸大宮市	相田 仁史	第1分科会
常陸大宮市	大森 泰典	第1分科会
常陸大宮市	藤田 佳史	第1分科会
常陸大宮市	大高 正徳	第1分科会
古河市	斎藤 實	第2分科会
古河市	黒須 美樹	第2分科会
潮来市	松本 恵美	
潮来市	中野 壽美子	
潮来市	白鳥 悦男	
潮来市	竹内 幸功	
潮来市	鶴田 信夫	
潮来市	松岡 進	
潮来市	高清水 勝	
潮来市	平山 勝恵	
潮来市	岩本 英樹	
行方市	宮内 敏	
行方市	中内 正敏	
行方市	飯田 信雄	
水戸市	安達 薫	第2分科会
水戸市	坪 正文	第2分科会
水戸市	砂川 勝利	第2分科会
水戸市	後藤 清二	第2分科会
水戸市	岩間 秀男	第2分科会
水戸市	高久 たかみ	第2分科会
水戸市	皆川 良子	第2分科会
水戸市	山崎 嘉彦	第2分科会
水戸市	石川 昭	第2分科会
水戸市	菊池 操子	第2分科会
水戸市	菊本 治郎	第2分科会
水戸市	鬼澤 正明	第2分科会
水戸市	川又 要	第2分科会
水戸市	高橋 五志生	第2分科会
水戸市	柏 直樹	第2分科会
石岡市	藤岡 敬	第1分科会
石岡市	藤沼 一夫	第1分科会
石岡市	山口 正男	第1分科会
石岡市	中野 好二	第1分科会
日立市	石井 謙二	第2分科会
常陸太田市	富田 正一	第2分科会
常陸太田市	木村 久男	第2分科会
牛久市	唯根 勉	第1分科会
牛久市	宮下 英彌	第1分科会
神栖市	大高 達也	
神栖市	鈴木 源治	
神栖市	古川 英二三	
神栖市	白鳥 精一	
神栖市	齊藤 幸治	
神栖市	梅田 邦男	
神栖市	松平 繁男	
神栖市	飯田 哲	
合計 131名		
那須塩原市	橋本 菜緒美	第3分科会
真岡市	近藤 彰雨	第1分科会
真岡市	大足 弘巳	第1分科会
下野市	伊沢 高志	第2分科会
那須塩原市	粒来 紀男	第3分科会
矢板市	江連 遥	第1分科会
矢板市	宮崎 博	第1分科会
矢板市	鈴木 幸江	第1分科会
矢板市	渡辺 克子	第1分科会
矢板市	谷口 イキノ	第1分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
矢板市	竹田 裕行	第1分科会
栃木市	栗田 達也	
足利市	吉田 智和	第1分科会
足利市	五代 義仁	第1分科会
足利市	阿部 隆宏	第1分科会
下野市	柳田 利夫	
下野市	西村 貴永	
下野市	野口 俊明	第2分科会
下野市	梁島 耕治	第2分科会
鹿沼市	齋藤 香名芽	第4分科会
鹿沼市	山崎 操	第4分科会
鹿沼市	関口 和枝	第4分科会
鹿沼市	見目 義男	第2分科会
鹿沼市	櫻井 健一	第2分科会
鹿沼市	小川 修一	第2分科会
佐野市	中田 智則	
佐野市	須藤 理雄	
佐野市	小野田 正一	
佐野市	出井 肇	
日光市	吉原 徳人	第2分科会
日光市	若林 伸佳	第2分科会
日光市	新井 明美	第2分科会
日光市	手塚 美津子	第2分科会
日光市	阿部 テル子	第2分科会
日光市	渡辺 ひとみ	第2分科会
日光市	大鳥 サワ	第2分科会
日光市	鍋田 英一	第2分科会
日光市	渡辺 友三郎	第1分科会
宇都宮市	荒井 伸一	第1分科会
宇都宮市	手塚 不二雄	第1分科会
宇都宮市	掛布 張山	第1分科会
宇都宮市	金林 陸	第1分科会
合計 42名		
前橋市	蜂須 聖司	第1分科会
前橋市	植原 真二	第1分科会
伊勢崎市	大谷 武夫	第1分科会
伊勢崎市	中野 健次	第1分科会
伊勢崎市	橋詰 毅	第1分科会
高崎市	細矢 佳稔	第2分科会
高崎市	佐藤 国雄	第2分科会
前橋市	清水 一孝	第4分科会
前橋市	岩上 清美	第4分科会
前橋市	村上 君江	第4分科会
前橋市	齋藤 徳治	第4分科会
草津町	津津 尚喜	第4分科会
草津町	星野 昭	第4分科会
高山村	武藤 茂	第1分科会
高山村	大湖 俊幸	第1分科会
太田市	正田 久美	第2分科会
太田市	中澤 春美	第2分科会
太田市	藤生 悦子	第2分科会
中之条町	関 翔平	
中之条町	蜂須賀 信也	
中之条町	山口 新作	
中之条町	宮崎 美佐夫	
中之条町	小林 博行	
中之条町	今泉 弘行	
中之条町	中澤 伸一	
中之条町	茂木 晴子	
中之条町	鎌田 利美	
中之条町	東吾妻町 宮崎 忠明	
中之条町	東吾妻町 加部 敏通	
中之条町	東吾妻町 丸山 恵一	
合計 30名		
白岡市	甲田 侃	第1分科会
白岡市	村岡 彰	第1分科会
三郷市	湯浅 和行	第2分科会
東松山市	那須 隆史	第4分科会
東松山市	関口 房雄	第4分科会
東松山市	相場 博子	第4分科会
東松山市	梅澤 行子	第4分科会
川島町	鈴木 正樹	第1分科会
川島町	阿部 洋行	第1分科会
川島町	林 博之	第1分科会
川島町	野口 正東	第1分科会
川島町	柴崎 孝志	第1分科会
ふじみの市	山崎 さつき	第2分科会
三郷市	遠井 和子	第2分科会
三郷市	大重 洋子	第2分科会
三郷市	太田 眞智子	第2分科会
三郷市	村井 晃二郎	第2分科会
小川町	新井 貴	
小川町	島田 勇子	
小川町	岩木 賢一	
小川町	内田 兼造	
小川町	原川 功	
上尾市	浪江 好治	第3分科会
上尾市	松島 良一	第1分科会
上尾市	内田 宜宏	第4分科会
小鹿野町	茂木 延夫	第4分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
小鹿野町	黒沢 義則	第4分科会
川越市	山田 上	第2分科会
川越市	鈴畑 尚光	第2分科会
川越市	石堂 悦子	第2分科会
さいたま市	三枝 英明	第4分科会
川口市	古挽 達夫	第2分科会
川口市	平林 仁	第2分科会
川口市	遠藤 喜三男	第2分科会
川口市	大瀧 栄美	第2分科会
桶川市	田坂 めぐみ	第1分科会
鴻巣市	浅見 栄子	第4分科会
北本市	飯塚 忠史	第1分科会
北本市	宮崎 まゆみ	第1分科会
北本市	岡田 哲雄	第1分科会
坂戸市	井山 香代子	第3分科会
坂戸市	山崎 孝	第1分科会
坂戸市	藤巻 裕美子	第2分科会
吉見町	宮崎 智	
吉見町	水野 忍	
吉見町	作山 徳子	
吉見町	有川 あけみ	
吉見町	岡野 絵梨子	
上尾市	栗田 尚	
上尾市	萩原 康彦	
上尾市	山浦 節子	
越谷市	池ノ谷 一郎	第1分科会
越谷市	河辺 和男	第1分科会
越谷市	鈴木 美彌子	第1分科会
行田市	田中 智弘	第2分科会
行田市	玉木 民雄	第2分科会
行田市	伊藤 佳代子	第2分科会
行田市	堀田 勇次	第2分科会
行田市	篠崎 貴枝子	第2分科会
行田市	金子 裕	第2分科会
行田市	小松 裕幸	第2分科会
行田市	茂手木 伸幸	第2分科会
行田市	松田 芳明	第2分科会
久喜市	真田 賢市	第2分科会
久喜市	影山 悦夫	第2分科会
久喜市	瀬島 敦美	第2分科会
朝霞市	下田 英吾	第1分科会
朝霞市	馬場 典成	第1分科会
朝霞市	椎橋 成美	第1分科会
朝霞市	上田 秀子	第1分科会
朝霞市	鈴木 仁美	第1分科会
所沢市	宮寺 敏雄	第1分科会
所沢市	当麻 浄	第1分科会
三芳町	西内 利夫	第2分科会
三芳町	室山 陽子	第2分科会
三芳町	高橋 すみ子	第2分科会
三芳町	松本 富美子	第2分科会
三芳町	澤 久美子	第2分科会
三芳町	佐々木 正廣	第2分科会
羽生市	阿部 力也	
羽生市	田村 和代	
羽生市	鈴木 政幸	
羽生市	清水 浩美	
羽生市	金子 孝	
羽生市	根岸 一文	
羽生市	原田 誠	
東秩父村	鈴木 京吾	
東秩父村	宮崎 登	
東秩父村	青木 登	
東秩父村	峯岸 正明	
入間市	中林 誠一	第3分科会
入間市	高野 亨	第3分科会
入間市	星野 幸子	第3分科会
鶴ヶ島市	山岡 達夫	第3分科会
鶴ヶ島市	武田 和子	第3分科会
鶴ヶ島市	小野田 眞久	第3分科会
鶴ヶ島市	北田 豊	第3分科会
加須市	岩崎 修一	第1分科会
加須市	五十嵐 恵美子	第1分科会
加須市	横山 しづ子	第1分科会
加須市	渡邊 洋子	第1分科会
加須市	青鹿 要子	第1分科会
さいたま市	宮本 勉	第4分科会
さいたま市	牧野 奈津子	第4分科会
さいたま市	長島 孝	第4分科会
さいたま市	神村 久	第4分科会
さいたま市	村田 正二	第4分科会
さいたま市	服部 博子	第4分科会
さいたま市	古屋 静香	第4分科会
さいたま市	山崎 雄二	第4分科会
さいたま市	石田 吉伸	第4分科会
さいたま市	柳 満	第4分科会
春日部市	樺田 正俊	第1分科会
春日部市	荒井 秀雄	第1分科会
合計 114名		

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
市川市	竹田 照子	第3分科会
市川市	高来 千代	第3分科会
市川市	森本 真木子	第3分科会
市川市	高橋 勲	第3分科会
市川市	横浜 孝雄	第3分科会
市川市	山口 美佐子	第3分科会
市川市	阿部 とみ子	第3分科会
市川市	藤原 博文	第3分科会
市川市	石川 守也	第3分科会
富津市	渡邊 まさ子	
富津市	伊藤 千代子	
富津市	荒井 潮美	
富津市	今井 せつ子	
富津市	立石 友二	
浦安市	川上 元大	第3分科会
浦安市	長島 康晴	第3分科会
浦安市	和田 優子	第3分科会
浦安市	岡本 恵美子	第3分科会
成田市	菅沢 くみ子	第1分科会
成田市	藤崎 勇治	第1分科会
成田市	香澤 康之	第1分科会
成田市	藤崎 和江	第1分科会
成田市	佐々木 順子	第1分科会
成田市	笹岡 一男	第1分科会
成田市	川村 広美	第1分科会
横芝光町	笹名 重基	第1分科会
千葉市	権本 亘澄	第3分科会
千葉市	本澤 英雄	第3分科会
千葉市	宇留間 又衛門	第3分科会
千葉市	朝橋 忠三	第3分科会
千葉市	山下 孝一	第3分科会
千葉市	大木 精三	第3分科会
千葉市	鈴木 孝子	第3分科会
千葉市	木村 ひろ子	第3分科会
千葉市	長島 勝平	第3分科会
千葉市	牛原 三雄	第3分科会
千葉市	眞治 裕	第3分科会
千葉市	布施 靖生	第3分科会
千葉市	鈴木 みき子	第3分科会
千葉市	國吉 俊和	第3分科会
千葉市	田中 康雄	第4分科会
いすみ市	松本 正	第2分科会
流山市	多田 雅人	第3分科会
船橋市	野口 俊光	第3分科会
船橋市	青嶋 元治	第3分科会
船橋市	吉田 光一	第3分科会
船橋市	高橋 忠雄	第3分科会
船橋市	及川 諒	第3分科会
千葉市	田代 純一	第1分科会
千葉市	浜田 穂積	第1分科会
袖ヶ浦市	大久保 治彦	第1分科会
袖ヶ浦市	上村 篤	第1分科会
袖ヶ浦市	田村 勲	第1分科会
袖ヶ浦市	岡上 敦子	第1分科会
袖ヶ浦市	田中 洋一	第1分科会
袖ヶ浦市	良本 ユリ子	第1分科会
袖ヶ浦市	天野 恵子	第1分科会
千葉市中央区市場町	石塚 由之	
千葉県	五木田 弘之	
木更津市	浦邊 利久	第4分科会
木更津市	石井 典子	第3分科会
木更津市	椎津 昭	第4分科会
木更津市	平野 進	第1分科会
木更津市	藤浪 孝	第1分科会
市原市	廣中 芳孝	第1分科会
市原市	浅野 英美	第1分科会
市原市	安倍 保男	第1分科会
市原市	松尾 良輔	第1分科会
香取郡東庄町	加瀬 博子	
匝瑳市	熱田 誠寛	第4分科会
匝瑳市	熱田 幸子	第4分科会
香取郡東庄町	高木 一男	
香取郡東庄町	高木 裕行	
香取郡東庄町	山本 敏明	
匝瑳市	布施 隆	第4分科会
香取郡東庄町	星野 康之	
野田市	木村 智幸	第1分科会
野田市	飯塚 正夫	第1分科会
野田市	松坂 千恵子	第1分科会
野田市	山崎 義二	第1分科会
野田市	畑 和子	第1分科会
八千代市	村松 泰子	第1分科会
八千代市	石上 明美	第1分科会
八千代市	八幡 和子	第1分科会
酒々井町	中山 聡	第2分科会
酒々井町	松元 健一	第2分科会
酒々井町	土橋 繁明	第2分科会
酒々井町	嶋澤 勝己	第2分科会
我孫子市	入野 勝見	第2分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
南房総市	山口 友二	第1分科会
南房総市	渡辺 光伸	第1分科会
南房総市	八代 弘樹	第1分科会
南房総市	高橋 嘉弘	第1分科会
南房総市	小沢 正順	第1分科会
南房総市	鈴木 由美子	第1分科会
南房総市	早川 光樹	第1分科会
南房総市	佐藤 史博	第1分科会
南房総市	遠藤 久美子	第1分科会
南房総市	間宮 幸恵	第1分科会
習志野市	湯浅 誠	
習志野市	井上 孝美	
習志野市	廣瀬 博	
習志野市	玉川 秋雄	
習志野市	岡田 弘	
習志野市	高橋 利悦	
習志野市	高橋 保雄	
習志野市	豊田 八重子	
習志野市	田尻 正代	
習志野市	滝沢 涼子	
習志野市	中島 洋史	
習志野市	越智 晃	
君津市	野口 航	第4分科会
君津市	鶴岡 孜	第1分科会
君津市	前川 春道	第1分科会
君津市	小倉 満	第1分科会
君津市	稲田 久武	第2分科会
君津市	鈴木 恵二	第2分科会
君津市	田村 晴美	第2分科会
君津市	須田 みつ子	第4分科会
君津市	朝生 千恵子	第1分科会
君津市	鈴木 まゆみ	第4分科会
勝浦市	細矢 光男	第4分科会
香取市	平山 正樹	第1分科会
香取市	片野 富夫	第1分科会
香取市	古林 久明	第1分科会
館山市	松坂 誠一	第1分科会
館山市	佐々木 義将	第1分科会
館山市	池田 邦子	第1分科会
館山市	長谷川 みゆき	第1分科会
館山市	鈴木 正一	第1分科会
松戸市	平出 淳	第1分科会
松戸市	山川 武	第1分科会
合計 133名		
東京都	新島 二三彦	第2分科会
目黒区	福地 悦子	第2分科会
目黒区	村松 美弥子	第2分科会
目黒区	佐瀬 陽子	第2分科会
武蔵野市	伊藤 彩香	第3分科会
武蔵野市	櫻井 昭	第3分科会
武蔵野市	井上 啓子	第4分科会
武蔵野市	小林 宏	第2分科会
武蔵野市	大谷 壽子	第4分科会
武蔵村山市	川島 良夫	第1分科会
武蔵村山市	木村 信一	第1分科会
渋谷区	天野 長光	第2分科会
練馬区	栗原 裕子	第3分科会
三鷹市	岡田 眞由美	第2分科会
三鷹市	青山 尋子	第2分科会
三鷹市	若口 祐子	第2分科会
三鷹市	佐伯 友	第2分科会
三鷹市	渡部 実知子	第2分科会
品川区	鈴木 公子	第1分科会
品川区	倉田 明子	第3分科会
品川区	増田 智恵	第2分科会
品川区	鈴木 はるみ	第3分科会
品川区	廣澤 晴子	第4分科会
品川区	北野 裕子	第1分科会
千代田区	金子 隼也	第3分科会
千代田区	植田 浩敏	第3分科会
千代田区	五島 愁子	第3分科会
千代田区	堀川 智子	第3分科会
千代田区	小林 とし子	第3分科会
千代田区	北島 敦子	第3分科会
千代田区	品川 由紀子	第3分科会
千代田区	竹葉 知彦	第3分科会
墨田区	島田 泰三	第2分科会
墨田区	清水 裕三	第3分科会
墨田区	金井 利奈	第2分科会
墨田区	五月女 晴美	第4分科会
墨田区	小栗 早苗	第4分科会
台東区	仲 豊子	第3分科会
台東区	中野 佐智	第3分科会
台東区	小林 千春	第3分科会
港区	新海 光洋	第1分科会
港区	小内 清子	第1分科会
港区	小堀 章	第1分科会
港区	奈良 信一	第1分科会
港区	森田 眞理	第1分科会
中野区	稲垣 美保	第1分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
中野区	西村 文孝	第1分科会
足立区	羽住 敏久	第2分科会
足立区	飯ヶ谷 美恵	第2分科会
足立区	黒沢 信子	第2分科会
足立区	西方 雅良	第2分科会
足立区	神谷 秀行	第2分科会
足立区	瀬口 広子	第2分科会
荒川区	宮島 豊一	第3分科会
荒川区	森 武どり	第3分科会
荒川区	永野 栄子	第2分科会
荒川区	大和田 昌宏	第2分科会
府中市	石田 宣久	第4分科会
八王子市	石塚 敏朗	第2分科会
八王子市	川上 博士	第2分科会
葛飾区	國崎 由実子	第1分科会
葛飾区	鈴木 奈保美	第1分科会
北区	二村 正徳	第2分科会
北区	白鳥 敏子	第4分科会
北区	伊藤 誠至	第1分科会
北区	井上 一眞	第3分科会
北区	竹村 五郎	第1分科会
西東京市	田村 眞理子	第2分科会
西多摩郡瑞穂町	土橋 賢一	
西多摩郡瑞穂町	桶田 潔	
豊島区	寺門 孝史	第1分科会
豊島区	松田 文子	第1分科会
豊島区	鎌田 佳子	第1分科会
豊島区	久保 貴恵	第1分科会
豊島区	櫻井 晴菜	第1分科会
豊島区	豊田 直也	第1分科会
豊島区	村本 宗太郎	第1分科会
世田谷区	濱谷 佳彦	第2分科会
世田谷区	廣川 哲	第1分科会
世田谷区	松浦 陽子	第2分科会
世田谷区	小田 憲子	第2分科会
中央区	百瀬 修至	第2分科会
中央区	小林 敦子	第2分科会
中央区	羽田 芳子	第2分科会
東京都	中川 義英	第4分科会
東大和市	才野 正次	第1分科会
東大和市	三神 敏夫	第1分科会
大田区	荒木 弘子	第3分科会
昭島市	小峰 隆	第2分科会
新宿区	小坂田 みゆ	第2分科会
新宿区	松下 典子	第1分科会
板橋区	藤田 保代	第4分科会
板橋区	白鳥 美智子	第4分科会
江戸川区	平野 秀夫	第4分科会
江東区	朝香 茂	第2分科会
江戸川区	花島 誠一	第4分科会
江東区	山崎 積	第2分科会
江東区	伊藤 まゆみ	第2分科会
江東区	五十嵐 義臣	第2分科会
江東区	吉田 順	第2分科会
新宿区	中山 順子	第1分科会
新宿区	玉置 孝子	第1分科会
新宿区	奈良 和子	第4分科会
新宿区	南雲 千恵	第4分科会
新宿区	吉田 豊宏	第2分科会
新宿区	青木 しおり	第2分科会
新宿区	内田 雅文	第2分科会
新宿区	橋本 純	第2分科会
調布市	川口 眞也	第2分科会
文京区	井上 充代	第2分科会
合計 110名		
横浜市	村山 明夫	第1分科会
大和市	山本 武史	第1分科会
平塚市	首藤 幸子	
平塚市	傳田 實	
平塚市	田中 壽美栄	
平塚市	石川 行子	
平塚市	山田 和子	
平塚市	前田 俊隆	
平塚市	上利 一枝	
厚木市	曾我部 恵二郎	第2分科会
厚木市	莊町 徳行	第2分科会
厚木市	三橋 徳行	第2分科会
厚木市	西田 保	第2分科会
厚木市	齋藤 峯代	第2分科会
厚木市	横溝 和成	第2分科会
厚木市	千葉 トミイ	第2分科会
厚木市	新藤 容子	第2分科会
厚木市	山田 郁夫	第2分科会
厚木市	工藤 幸江	第2分科会
厚木市	原 眞美子	第2分科会
厚木市	市川 稔幸	第2分科会
三浦市	田中 光子	第1分科会
横浜市	常山 正樹	第1分科会
横浜市	栗田 優	第1分科会
横浜市	山下 博	第1分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
横浜市	木村 保雄	第1分科会
横浜市	伊藤 豊	第1分科会
泰野市	石田 信夫	第2分科会
泰野市	友清 幸介	第2分科会
泰野市	山崎 晴美	第2分科会
泰野市	近藤 良	第2分科会
横浜市	川口 勇喜夫	第1分科会
横須賀市	才竹 健太郎	第4分科会
横須賀市	武 雅兄	第4分科会
横須賀市	鈴木 貞男	第4分科会
横須賀市	滝瀬 絹子	第4分科会
横須賀市	石川 輝雄	第4分科会
横須賀市	林 但	第4分科会
綾瀬市	齋藤 米夫	第1分科会
綾瀬市	鎌田 隆夫	第1分科会
中井町	野田 良広	第1分科会
中井町	高橋 利夫	第1分科会
中井町	曾我 美智子	第1分科会
大和市	古市 謙二	第1分科会
大和市	山本 政徳	第1分科会
大和市	岩井 澄子	第1分科会
大和市	松島 信行	第1分科会
大和市	鳥淵 優	第1分科会
大和市	山本 芳和	第1分科会
大和市	宮田 恵津子	第1分科会
逗子市	相川 時雄	第3分科会
逗子市	岩下 晃	第3分科会
逗子市	上坪 靖子	第3分科会
逗子市	高木 彰	第3分科会
逗子市	山上 和子	第3分科会
寒川町	中村 誉朗	第1分科会
寒川町	平野 清文	第1分科会
寒川町	高嶋 晋恵	第1分科会
伊勢原市	平田 順子	第1分科会
伊勢原市	佐藤 恵子	第1分科会
伊勢原市	齋藤 光雄	第1分科会
横浜市	武田 勇蔵	第1分科会
横浜市	鈴木 昭三	第1分科会
横浜市	荒木 要	第1分科会
横浜市	高柳 和弘	第1分科会
藤沢市	小野寺 礼子	第2分科会
藤沢市	石井 昇	第2分科会
藤沢市	渡邊 久美子	第2分科会
藤沢市	山口 勝夫	第2分科会
横浜市	白井 勇次	第1分科会
山北町	諸岡 久美子	第1分科会
山北町	佐藤 博美	第1分科会
山北町	浅倉 圭子	第1分科会
川崎市	遠藤 良穂	第1分科会
川崎市	浦野 一吉	第1分科会
川崎市	都築 明	第1分科会
川崎市	布施 良雄	第1分科会
川崎市	佐藤 好正	第1分科会
川崎市	竹内 俊二	第1分科会
川崎市	井上 隆	第1分科会
川崎市	虎岩 清	第1分科会
川崎市	今 清文	第1分科会
川崎市	平口 和宏	第1分科会
川崎市	北野 隆生	第1分科会
川崎市	江口 勇次	第1分科会
川崎市	新藤 敏夫	第1分科会
川崎市	小木 弘子	第1分科会
川崎市	上西園 紀年	第1分科会
川崎市	山田 勝彦	第1分科会
川崎市	谷地 昭子	第1分科会
川崎市	谷中 恭子	第1分科会
川崎市	鈴木 勝	第1分科会
川崎市	中田 壽子	第1分科会
小田原市	関 優輝	第1分科会
小田原市	設楽 正義	第1分科会
小田原市	石川 和子	第2分科会
小田原市	吉田 和枝	第3分科会
小田原市	勝俣 景子	第4分科会
小田原市	長谷川 恵子	第1分科会
小田原市	神保 由美子	第2分科会
小田原市	松本 健一	第3分科会
座間市	大矢 秀子	第1分科会
座間市	波多野 啓子	第1分科会
座間市	河原 信子	第1分科会
座間市	藤原 京子	第1分科会
座間市	倉前 玲子	第1分科会
座間市	飯田 京子	第1分科会
湯河原町	富士川 貢	第1分科会
湯河原町	島光 弘孝	第1分科会
茅ヶ崎市	五反田 敏明	第1分科会
海老名市	齊藤 賞一	第2分科会
海老名市	山崎 圭三	第2分科会
海老名市	川田 米子	第2分科会
海老名市	竹田 宗一郎	第2分科会
相模原市	大山 孝	第2分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
相模原市	伊藤 孝久	第2分科会
相模原市	上條 利夫	第2分科会
相模原市	佐伯 美鈴	第2分科会
相模原市	佐藤 直子	第2分科会
相模原市	溝口 健次	第2分科会
箱根町	樋口 大樹	
箱根町	清野 正子	
合計 122名		
長岡市	堤 国靖	第1分科会
長岡市	平澤 勝司	第1分科会
長岡市	坂井 知恵子	第1分科会
新潟市	田代 剛	第2分科会
新潟市	高橋 由紀子	第2分科会
新潟市	斉藤 重直	第2分科会
新潟市	有田 一彦	第2分科会
新潟市	高岡 美代子	第2分科会
新潟市	高橋 一栄	第2分科会
新潟市	長谷部 幸雄	第2分科会
新潟市	及川 幸子	第2分科会
新潟市	佐野 貞幸	第2分科会
新潟市	高野 豊	第2分科会
新潟市	小見 健雄	第2分科会
新潟市	飯野 雅寛	第2分科会
新潟市	鈴木 房子	第2分科会
加茂市	坪谷 哲志	第2分科会
加茂市	吉田 正明	第2分科会
加茂市	京野 秀幸	第2分科会
加茂市	中山 佐和子	第2分科会
三条市	名古屋 利夫	第2分科会
新潟県	山下 舞	第2分科会
新潟県	久住 裕一	第2分科会
阿賀町	遠藤 雄樹	
阿賀町	遠藤 裕	
柏崎市	中村 英雄	第2分科会
合計 26名		
上市町	安川 夏樹	第2分科会
上市町	青木 敏光	第2分科会
上市町	酒井 妙子	第2分科会
上市町	高林 誠	第2分科会
射水市	谷井 貫征	第3分科会
射水市	高橋 清	第3分科会
射水市	棚元 久美子	第3分科会
射水市	宮本 相生	第3分科会
射水市	清水 正美	第3分科会
射水市	表 隆夫	第3分科会
射水市	岡野 恵津子	第3分科会
射水市	折橋 智美	第3分科会
射水市	長谷川 照男	第3分科会
射水市	金井 直美	第3分科会
魚津市	岡本 安一	第2分科会
高岡市	酒井 孝治	第2分科会
高岡市	金森 一郎	第2分科会
高岡市	横田 安弘	第2分科会
高岡市	竹田 雅子	第2分科会
高岡市	中村 清志	第2分科会
高岡市	越生 百合子	第2分科会
高岡市	芝山 和夫	第2分科会
高岡市	北田 悦子	第2分科会
高岡市	田嶋 清	第2分科会
高岡市	中井 由美子	第2分科会
高岡市	森田 勲	第2分科会
南砺市	赤池 伸彦	第4分科会
南砺市	宮塚 功	第2分科会
南砺市	水戸 明美	第3分科会
入善町	飯作 幹子	第2分科会
入善町	池原 純一	第2分科会
入善町	村中 幸志	第2分科会
入善町	中野 悦子	第2分科会
滑川市	野澤 繁成	第1分科会
滑川市	齊木 寿美男	第1分科会
滑川市	五十嵐 淳子	第1分科会
滑川市	黒田 雅英	第1分科会
滑川市	泉 眞佐子	第1分科会
滑川市	川崎 清江	第1分科会
滑川市	能登 三紀子	第1分科会
滑川市	石倉 佳奈子	第1分科会
小矢部市	山本 和史	第2分科会
小矢部市	中山 賢一	第2分科会
小矢部市	福江 清美	第2分科会
小矢部市	唐島 ひとみ	第2分科会
水見市	西村 良三	第1分科会
水見市	小曲 郁子	第1分科会
水見市	原田 悦子	第1分科会
水見市	林 茂之	第2分科会
水見市	松木 一成	第4分科会
舟橋村	酒井 英登	第4分科会
舟橋村	高見 要宇子	第1分科会
水見市	田中 久年	第4分科会
魚津市	宮崎 稔	第2分科会
魚津市	宮口 隆志	第2分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
魚津市	米田 吉博	第2分科会
魚津市	西浦 富幸	第2分科会
魚津市	島津 豊	第2分科会
魚津市	飛世 一美	第2分科会
魚津市	清水 美紀	第2分科会
魚津市	青木 々子	第2分科会
魚津市	石原 夫砂子	第2分科会
立山町	村井 直人	第1分科会
朝日町	山田 園美	第4分科会
朝日町	水嶋 美津子	第2分科会
朝日町	新田 敏雄	第2分科会
砺波市	石田 純一	第1分科会
砺波市	山田 智久	第1分科会
砺波市	南 和江	第1分科会
砺波市	永田 義則	第1分科会
富山市	加藤 正倫	第1分科会
黒部市	森岡 佑太	第2分科会
黒部市	白川 正秋	第2分科会
黒部市	浄土 節子	第2分科会
黒部市	山本 正明	第2分科会
黒部市	澤田 志津子	第2分科会
黒部市	紙谷 孝之	第2分科会
黒部市	中谷 京子	第2分科会
黒部市	浜屋 政幸	第2分科会
黒部市	中山 志郎	第2分科会
黒部市	滝屋 真津代	第2分科会
黒部市	谷 庄作	第2分科会
富山市	八倉 里絵	第4分科会
富山市	廣瀬 孝作	第2分科会
富山市	長谷 哲男	第2分科会
富山市	角崎 由紀子	第2分科会
富山市	渡邊 純一	第2分科会
富山市	橋本 美津枝	第1分科会
富山市	坂石 富美子	第2分科会
富山市	今井 聖二	第2分科会
富山市	中井 康恵	第2分科会
富山市	北村 秀津子	第2分科会
富山市	村田 秀幸	第1分科会
合計 93名		
七尾市	宮下 淳	第2分科会
七尾市	橋向 喜久枝	第2分科会
七尾市	羽左間 伸一	第2分科会
七尾市	大崎 ゆかり	第2分科会
七尾市	白山 小太郎	第2分科会
七尾市	山本 正秋	第2分科会
白山市	山岸 卓郎	第2分科会
白山市	池田 泉	第2分科会
白山市	木田 慎	第2分科会
白山市	小林 静子	第2分科会
白山市	佐々木 清美	第2分科会
白山市	高野 史朗	第2分科会
白山市	中嶋 淳子	第2分科会
白山市	中出 真司	第2分科会
白山市	中巴出 和美	第2分科会
白山市	西野 由美子	第2分科会
白山市	浜本 英一	第2分科会
白山市	平田 和伸	第2分科会
白山市	宮岸 健一	第2分科会
白山市	本井 照美	第2分科会
白山市	森山 美恵子	第2分科会
白山市	山崎 茂	第2分科会
中能登町	横山 隆信	第1分科会
中能登町	大森 定良	第1分科会
川北町	原田 勇太	第2分科会
津幡町	北嶋 由紀子	第2分科会
金沢市	瀧下 実	第1分科会
金沢市	米澤 聡	第4分科会
金沢市	松本 章弥	第1分科会
金沢市	卯野 眞司	第2分科会
金沢市	和田 孝	第1分科会
金沢市	青木 忠弘	第1分科会
金沢市	村山 利秋	第3分科会
金沢市	宮川 幸善	第1分科会
金沢市	下地 はつえ	第2分科会
金沢市	前多 まゆみ	第1分科会
金沢市	細川 恵子	第2分科会
金沢市	前川 明美	第2分科会
金沢市	佐々木 雅美	第3分科会
小松市	木村 隆利	
小松市	牧野 健夫	第2分科会
小松市	多井 英一	
小松市	小田 直人	
小松市	関戸 美恵子	
小松市	酒井 康光	
小松市	永田 博幸	
小松市	山口 智基	
小松市	北村 敏博	第1分科会
小松市	西野 満田	第2分科会
小松市	山岸 徹	第3分科会
小松市	檜山 大史	第4分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
小松市	面 浩司	
かほく市	森田 弘樹	第2分科会
かほく市	森 茂信	第2分科会
かほく市	塩谷 治美	第2分科会
能美市	関原 英明	第4分科会
能美市	小路 雅広	第4分科会
能美市	出村 美智子	第4分科会
能美市	丹羽 かおる	第4分科会
能美市	三輪 達也	第4分科会
能美市	西野 公恵	第4分科会
能美市	瀬戸 淳子	第4分科会
能美市	土田 真喜子	第4分科会
能美市	松山 真奈美	第4分科会
能美市	加戸 裕也	第4分科会
川北町	東 俊幸	第2分科会
志賀町	平井 忠司	第4分科会
志賀町	岡田 信尚	第4分科会
志賀町	舟山 慎吾	第4分科会
志賀町	福田 むつ美	第4分科会
志賀町	松井 直子	第4分科会
志賀町	泉 貴大	第4分科会
内灘町	池端 入美	第2分科会
加賀市	田中 由季	第2分科会
加賀市	上口 孝之	第2分科会
加賀市	紋谷 友幸	第2分科会
加賀市	村井 六郎	第2分科会
加賀市	三谷 健治	第2分科会
加賀市	酒井 耕蔵	第2分科会
加賀市	山村 作造	第2分科会
合計 80名		
鯖江市	大久保 邦夫	第4分科会
小浜市	高島 耕一	
小浜市	千 義彦	
小浜市	津田 幸次	
坂井市	平田 善幸	第3分科会
坂井市	浜田 悟	第3分科会
坂井市	田中 祐子	第3分科会
坂井市	海道 清美	第3分科会
鯖江市	佐々木 品子	第3分科会
鯖江市	藤井 民子	第4分科会
鯖江市	濱 章江	第2分科会
鯖江市	川口 直樹	第2分科会
鯖江市	伊藤 恵理	第2分科会
鯖江市	辻本 しげ子	第2分科会
大野市	木下 正義	第1分科会
大野市	内田 啓二	第1分科会
大野市	多田 勝己	第1分科会
三方郡美浜町	竹内 正雄	第1分科会
三方郡美浜町	松井 多栄子	第1分科会
三方郡美浜町	片板 正	第1分科会
三方郡美浜町	高木 伊佐男	第1分科会
三方郡美浜町	今安 沙都子	第1分科会
福井市	畑 透仁	第2分科会
福井市	坂上 京子	第2分科会
福井市	三反崎 康子	第2分科会
福井市	山崎 孝一	第3分科会
福井市	谷口 義昭	第3分科会
福井市	酒井 信幸	第2分科会
福井市	徳山 和美	第2分科会
福井市	山本 光慶	第3分科会
福井市	橋本 加代子	第3分科会
福井市	岩佐 良子	第2分科会
福井市	前川 紀美枝	第1分科会
福井市	山崎 美幸	第1分科会
福井市	小畑 博紀	第2分科会
おおい町	森口 祐督	
おおい町	足立 信二	
おおい町	村松 洋樹	
おおい町	森内 陽平	
おおい町	山下 定治	
おおい町	山口 将史	
敦賀市	山内 沙月	第1分科会
敦賀市	植本 太郎	第1分科会
敦賀市	野田 栄一郎	第2分科会
敦賀市	中島 良枝	第2分科会
敦賀市	幸田 弘	第1分科会
敦賀市	奥村 よし子	第1分科会
敦賀市	井美 真奈美	第1分科会
福井県	田村 文和	第4分科会
福井県	杉山 弘行	第2分科会
福井県	渡辺 真奈美	第1分科会
越前町	佐々木 正純	第1分科会
越前市	山口 一法	第2分科会
越前市	釜島 正彦	第2分科会
越前市	丹羽 弘明	第2分科会
越前市	山本 智江	第2分科会
越前市	片山 伸一	第2分科会
越前市	飛田 里美	第2分科会
越前市	長谷川 孝幸	第2分科会
越前市	吉田 康雄	第2分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
越前市	岸本 広喜	第2分科会
越前市	佐川 忠春	第2分科会
越前市	佐野 智栄	第2分科会
越前市	石橋 誠	第2分科会
越前市	近藤 輝子	第2分科会
合計 65名		
県事務局	増坪 広夫	第1分科会
山梨県	樋川 君子	第1分科会
山中湖村	佐藤 友香	第3分科会
北杜市	小林 貴世	第1分科会
北杜市	飯田 忠子	第1分科会
北杜市	吉田 恵美子	第1分科会
北杜市	小林 栄一	第1分科会
北杜市	岩波 光代	第1分科会
上野原市	岡部 桂太郎	第3分科会
上野原市	浅井 文隆	第3分科会
上野原市	内藤 あや子	第3分科会
上野原市	中満 武士	第3分科会
上野原市	杉本 明美	第3分科会
南アルプス市	塚原 仁志	第2分科会
南アルプス市	山口 典夫	第2分科会
南アルプス市	望月 淳一郎	第2分科会
南アルプス市	向山 美智子	第2分科会
南アルプス市	田中 剛	第2分科会
都留市	田辺 里美	第4分科会
都留市	程原 久美子	第4分科会
甲斐市	三井 信由	第2分科会
甲斐市	金丸 良雄	第2分科会
甲斐市	山本 偲	第2分科会
甲斐市	金丸 光太郎	第1分科会
甲斐市	牛山 二美子	第1分科会
甲斐市	飯野 松子	第1分科会
甲斐市	吉川 洋	第1分科会
甲斐市	山本 佐恵子	第1分科会
中巨摩郡昭和町	深川 慶太	第2分科会
中巨摩郡昭和町	込山 正一	第2分科会
笛吹市	清水 栄治	第4分科会
笛吹市	古屋 速人	第4分科会
笛吹市	岩下 和也	第4分科会
笛吹市	武井 美津江	第4分科会
南部町	遠藤 岳英	
南部町	田村 昂一	
南部町	望月 安樹	
南部町	望月 憲之	
南部町	若尾 明彦	
山中湖村	高村 竜司	第3分科会
山中湖村	長田 邦善	第3分科会
南巨摩郡身延町	佐野 和雄	第4分科会
南巨摩郡身延町	渡辺 三恵	第4分科会
南巨摩郡身延町	若林 一彦	第4分科会
南巨摩郡身延町	望月 ひろ子	第4分科会
南巨摩郡身延町	片田 悠貴	第4分科会
甲府市	雨宮 喜光	第1分科会
甲府市	佐野 まゆ美	第1分科会
甲府市	味藤 哲雄	第1分科会
甲府市	神戸 康雄	第1分科会
甲府市	鈴木 一夫	第1分科会
甲府市	齊藤 智夏子	第1分科会
甲府市	小笠原 利広	第1分科会
中央市	渡邊 正明	
中央市	清水 洋	
中央市	鮎澤 信幸	
合計 56名		
軽井沢町	佐藤 勇太	第3分科会
諏訪郡原村	芳澤 睦茂	第1分科会
諏訪郡原村	小池 保寛	第1分科会
松本市	西村 健太郎	第1分科会
安曇野市	布山 幸子	第2分科会
安曇野市	望月 健保	第2分科会
安曇野市	白井 良臣	第2分科会
駒ヶ根市	梅澤 正春	
佐久穂町	小林 孝	
軽井沢町	大町 哲也	第3分科会
軽井沢町	佐藤 一郎	第4分科会
軽井沢町	清水 淳一郎	第4分科会
軽井沢町	堀川 恵誉	第4分科会
軽井沢町	白井 久仁子	第2分科会
軽井沢町	行田 正子	第2分科会
長野市	市岡 茂	第1分科会
長野市	松井 元	第1分科会
青木村	坂巻 有季子	
青木村	清水 正夫	
青木村	北村 尚久	
小県郡長和町	中山 勇二	第2分科会
小県郡長和町	清水 聡美	第2分科会
塩尻市	御子柴 浩子	第3分科会
塩尻市	酒井 千登世	第3分科会
塩尻市	瀧澤 広美	第2分科会
塩尻市	竹下 美奈子	第2分科会
小諸市	清水 和正	第4分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
上田市	矢島 浩一	第3分科会
上田市	金子 和夫	第3分科会
上田市	佐藤 暁	第4分科会
上田市	後藤 キミ	第4分科会
上田市	矢嶋 邦子	第4分科会
上田市	佐藤 久夫	第3分科会
上田市	矢島 孝浩	第1分科会
上田市	市川 光太	第1分科会
小布施町	小林 潔	第2分科会
飯田市	米山 祐貴	第1分科会
飯田市	田中 利治	第1分科会
御代田町	大高 博子	
東御市	清水 正博	第1分科会
東御市	三浦 和子	第1分科会
東御市	依田 恵子	第1分科会
千曲市	野本 百合子	第2分科会
千曲市	小林 京子	第1分科会
千曲市	橋田 千比路	第1分科会
千曲市	小林 高洗	第2分科会
長野市	宮澤 俊弘	第2分科会
長野市	井上 孝	第2分科会
長野市	高島 陽子	第2分科会
長野市	市川 隆	第2分科会
合計 50名		
大野町	白木 慎治	第2分科会
大野町	小森 美智子	第2分科会
大野町	藤原 康美	第2分科会
海津市	奥村 孝司	第1分科会
海津市	渡邊 義仁	第1分科会
海津市	近藤 好之	第1分科会
本巣郡北方町	石崎 啓明	
北方町	筑間 英重	第1分科会
北方町	野原 滋子	第1分科会
北方町	白井 夕子	第1分科会
八百津町	林 誠	
八百津町	水野 由里美	
八百津町	各務 清	
八百津町	林 登	
八百津町	三浦 正義	
八百津町	梅田 好子	
美濃市	山口 香	第2分科会
岐阜市	安藤 宏	第2分科会
岐阜市	堤 卓雄	第2分科会
美濃市	日置 美保子	第2分科会
土岐市	金子 文彦	第1分科会
岐阜市	米田 悠莉	第2分科会
岐阜市	福井 雅一	第2分科会
岐阜市	藤井 実	第2分科会
岐阜市	杉山 美生	第2分科会
岐阜市	大野 真琴	第2分科会
岐阜市	川尻 美紀	第2分科会
岐阜市	松波 鈴子	第2分科会
岐阜市	井上 美恵子	第2分科会
岐阜市	柿岡 賢子	第2分科会
岐阜市	江間 千恵子	第2分科会
岐阜市	伊藤 君代	第2分科会
岐阜市	安藤 奈保子	第2分科会
岐阜市	伊藤 将隆	第2分科会
岐阜市	水野 伸一	第2分科会
岐阜市	堀 光雄	第2分科会
八百津町	海老 あや子	
羽島市	小森 博昭	第3分科会
羽島市	平田 静夫	
瑞穂市	芦本 博	第2分科会
瑞穂市	松尾 康史	第2分科会
瑞穂市	大友 みゆき	第2分科会
瑞穂市	妻島 はつ美	第2分科会
本巣市	安藤 貴広	第4分科会
本巣市	古田 南海男	第2分科会
本巣市	幸恵 幸恵	第4分科会
関市	村井 峰男	第2分科会
関市	山田 俊之	第4分科会
関市	酒向 よしたか	第2分科会
関市	大澤 幸士	第3分科会
下呂市	神戸 俊明	第2分科会
下呂市	星屋 和明	第2分科会
土岐市	西尾 咲子	第1分科会
岐阜市	安中 裕勝	第3分科会
岐阜市	安藤 嘉章	第1分科会
岐阜市	小林 久範	第4分科会
七宗町	前島 典夫	第1分科会
七宗町	上野 英敏	第1分科会
七宗町	渡辺 重子	第1分科会
合計 59名		
掛川市	加々美 詳	第1分科会
静岡市	水越 しのぶ	第1分科会
静岡市	村井 雅人	第1分科会
富士宮市	石合 正七	
富士宮市	松原 きよ美	
富士宮市	森 潔	

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
富士宮市	多賀 正己	
掛川市	中山 武弘	第1分科会
掛川市	米澤 明美	第1分科会
掛川市	渡辺 哲哉	第1分科会
掛川市	樋口 京一	第1分科会
掛川市	田宮 静江	第1分科会
掛川市	桑野 稔	第1分科会
富士宮市	小畑 孝男	
御殿場市	土屋 恵司	第4分科会
御殿場市	土谷 英美子	第4分科会
御殿場市	勝岡 京子	第4分科会
御殿場市	城澤 たつ江	第4分科会
御殿場市	高橋 和之	第4分科会
御殿場市	森田 譲	第4分科会
御殿場市	渡邊 直美	第4分科会
御殿場市	伊頭 剛	第4分科会
御殿場市	中村 ひとみ	第4分科会
御殿場市	滝口 美保	第4分科会
御殿場市	福島 一弘	第4分科会
御殿場市	杉山 裕紀	第4分科会
浜松市	北村 宏樹	第3分科会
浜松市	田畑 勝次	第3分科会
浜松市	鈴木 隆幸	第3分科会
浜松市	鈴木 幸多子	第3分科会
浜松市	鈴木 真佐雄	第3分科会
浜松市	水野 正義	第3分科会
浜松市	原野 俊郎	第3分科会
浜松市	川合 英敏	第3分科会
沼津市	大川 芳子	第1分科会
静岡市	野末 慶太	第2分科会
静岡市	奥山 賢司	第2分科会
静岡市	入澤 達也	第2分科会
静岡市	岡本 光弘	第2分科会
静岡市	見城 弘	第2分科会
静岡市	青山 勇	第2分科会
静岡市	富山 茂之	第2分科会
磐田市	岡村 美也子	第2分科会
磐田市	金原 元司	第2分科会
焼津市	青野 覚朗	第2分科会
焼津市	小林 敏之	第3分科会
焼津市	小長谷 朝男	第4分科会
合計 47名		
愛知県	兵藤 輝徳	第4分科会
愛知県	仙田 逸二	第4分科会
名古屋	原田 保	第1分科会
あま市	藤井 昭彦	第1分科会
あま市	笹山 春男	第1分科会
名古屋	加藤 富江	第1分科会
名古屋	岡田 芳雄	第1分科会
名古屋	小田 智栄子	第1分科会
名古屋	真木 謙一	第1分科会
名古屋	田辺 正樹	第1分科会
名古屋	加藤 博司	第1分科会
名古屋	廣瀬 英夫	第1分科会
名古屋	森川 金一	第1分科会
名古屋	櫻井 義和	第1分科会
名古屋	河田 正巳	第1分科会
名古屋	藤原 良二	第1分科会
名古屋	近藤 アサ子	第1分科会
名古屋	増田 正	第1分科会
名古屋	斉藤 利夫	第1分科会
名古屋	荒川 貴之	第1分科会
一宮市	福井 万寿夫	第1分科会
一宮市	佐藤 博	第1分科会
一宮市	小原 正直	第1分科会
一宮市	眞野 良博	第1分科会
一宮市	江崎 知世子	第1分科会
一宮市	高木 愛子	第1分科会
一宮市	越野 さとみ	第1分科会
一宮市	木村 彰良	第1分科会
一宮市	嶋飼 ゆき江	第1分科会
一宮市	西村 嘉二	第1分科会
一宮市	松江 博美	第1分科会
一宮市	谷田 昇子	第1分科会
一宮市	白石 勝則	第1分科会
一宮市	萩原 基一	第1分科会
一宮市	水野 愛美	第1分科会
一宮市	小山 陽子	第1分科会
一宮市	加藤 克	第1分科会
犬山市	原 正男	第4分科会
犬山市	小島 久美子	第4分科会
犬山市	戸崎 裕美子	第4分科会
犬山市	武内 名古	第4分科会
犬山市	上原 敬正	第4分科会
稲沢市	宇佐美 英岳	第1分科会
稲沢市	荒木 良治	第1分科会
稲沢市	石原 和樹	第1分科会
大口町	山下 吉市	第1分科会
大口町	中野 金弘	第1分科会
大口町	丹羽 武弘	第1分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
津島市	宇藤 久子	第3分科会
愛西市	野口 悟	第1分科会
愛西市	加藤 壽捷	第1分科会
愛西市	山田 あゆみ	第1分科会
弥富市	青木 明美	第1分科会
弥富市	浅野 小百合	第1分科会
弥富市	坂本 より子	第1分科会
弥富市	山田 輝美	第1分科会
海部郡蟹江町	金井 隆	第2分科会
海部郡蟹江町	鈴木 久美子	第2分科会
海部郡蟹江町	加藤 孝隆	第2分科会
海部郡蟹江町	大辻 善彦	第2分科会
海部郡飛島村	大飼 晴夫	第1分科会
瀬戸市	鈴木 功	第1分科会
春日井市	伊藤 典宏	第2分科会
春日井市	打田 敏己	第2分科会
春日井市	和田 智彦	第2分科会
小牧市	舟橋 巧	第3分科会
小牧市	加藤 極	第3分科会
小牧市	長谷川 潤治	第3分科会
東郷町	小倉 雅	第1分科会
東郷町	長谷川 辰美	第1分科会
豊山町	橋本 節子	第2分科会
豊山町	秋田 尚巳	第2分科会
豊山町	岩崎 吾妻	第2分科会
豊山町	安藤 彬	第2分科会
半田市	澤田 須美子	第2分科会
常滑市	水谷 聡子	第1分科会
常滑市	山本 礼子	第1分科会
常滑市	谷川 富治	第1分科会
東海市	清水 徹	第2分科会
東海市	三浦 良典	第2分科会
東海市	矢野 裕彦	第2分科会
東海市	菊池 浩	第2分科会
東海市	米澤 真弓	第2分科会
東海市	千葉 廣	第2分科会
東浦町	矢澤 文明	第2分科会
岡崎市	杉山 まゆみ	第1分科会
岡崎市	関 浩	第1分科会
岡崎市	鈴木 富雄	第1分科会
碧南市	池田 定史	第1分科会
碧南市	井上 浩之	第1分科会
碧南市	長崎 良亮	第1分科会
刈谷市	野々山 昌克	第1分科会
刈谷市	新實 寛之	第1分科会
豊田市	加藤 恵美子	第1分科会
豊田市	兵藤 おさみ	第2分科会
豊田市	林 恵	第3分科会
豊田市	安藤 門子	第4分科会
豊田市	杉坂 直輝	第1分科会
豊田市	片山 千代子	第2分科会
安城市	瀬戸井 明人	第1分科会
安城市	横山 修	第1分科会
安城市	木村 秀雄	第1分科会
安城市	市川 洋子	第1分科会
西尾市	川原 和代	第2分科会
高浜市	岡本 直子	第2分科会
高浜市	都築 靖枝	第2分科会
高浜市	花田 佳祐	第2分科会
みよし市	柴田 雅文	第3分科会
豊橋市	小島 啓介	第1分科会
豊橋市	鈴木 三和子	第1分科会
豊橋市	石原 豊子	第1分科会
豊橋市	中嶋 伸治	第1分科会
豊橋市	沖 勝子	第1分科会
豊橋市	河合 進	第1分科会
豊橋市	鳥居 好実	第1分科会
豊橋市	岡部 由香里	第1分科会
豊川市	柴田 功己	第3分科会
豊川市	神谷 美也子	第3分科会
豊川市	小林 千草	第3分科会
豊川市	伊藤 勝博	第3分科会
豊川市	渡辺 嘉昭	第3分科会
豊川市	尾藤 茂子	第3分科会
田原市	柳原 昭生	第3分科会
田原市	大久保 小夜子	第3分科会
田原市	鈴木 智美	第3分科会
田原市	小林 浩章	第3分科会
田原市	嶋飼 孝行	第4分科会
田原市	西山 和男	第4分科会
田原市	吉川 みゆき	第4分科会
田原市	糟谷 隆一	第4分科会
田原市	小久保 隆英	第4分科会
田原市	藤井 英成	第4分科会
田原市	神谷 わか美	第2分科会
田原市	鈴木 友紀夫	第2分科会
田原市	井垣 万千	第2分科会
田原市	中神 武彦	第2分科会
田原市	野末 紀子	第2分科会
田原市	西田 由可利	第2分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
田原市	八木 美和子	第2分科会
田原市	富田 清広	第3分科会
田原市	河邊 治	第3分科会
田原市	富田 知子	第3分科会
新城市	今泉 利光	第3分科会
新城市	有賀 司	第3分科会
新城市	和田 たづ子	第3分科会
東栄町	伊藤 一子	第3分科会
大府市	斎藤 充	第1分科会
大府市	森金 鉄男	第1分科会
合計 148名		
三重県	野田 知宏	第1分科会
三重県	中山 智子	第4分科会
三重県	馬場 宏	第1分科会
三重県	関川 大介	第3分科会
鈴鹿市	前川 佳彦	第1分科会
松阪市	樋口 昌俊	第1分科会
松阪市	小湊 峯一	第1分科会
松阪市	保田 真宏	第1分科会
松阪市	長谷川 光生	第1分科会
松阪市	千ノ本 眞邦	第1分科会
松阪市	森口 守	第1分科会
松阪市	山中 美幸	第1分科会
松阪市	寺田 純子	第1分科会
松阪市	雲切 ひろ子	第1分科会
松阪市	山田 美江子	第1分科会
松阪市	高橋 範子	第1分科会
津市	舟橋 裕子	第3分科会
津市	松本 忠靖	第3分科会
津市	小林 小代子	
津市	藤岡 三枝子	第2分科会
津市	大河内 充	第3分科会
津市	三岳 千津子	第3分科会
津市	小坂 勝	第3分科会
津市	津山 峰子	第3分科会
津市	小黒 富俊江	第3分科会
津市	岡野 豪夫	第3分科会
いなべ市	下西 輝男	第3分科会
鈴鹿市	澤井 淳子	第1分科会
鈴鹿市	野崎 昌之	第1分科会
鈴鹿市	奥川 清美	第1分科会
亀山市	宮坂 辰男	第1分科会
四日市市	南部 裕司	第3分科会
四日市市	谷村 裕子	第3分科会
熊野市	北裏 和樹	第3分科会
四日市市	中瀬古 真喜子	第3分科会
四日市市	伊藤 敏信	第2分科会
四日市市	吉原 和則	第3分科会
四日市市	森下 英一	第3分科会
四日市市	太田 博之	第3分科会
四日市市	杉本 清明	第3分科会
四日市市	中村 滋男	第3分科会
四日市市	前田 宏之	第2分科会
四日市市	杉浦 啓二	第2分科会
四日市市	加藤 實	第2分科会
四日市市	石井 和明	第3分科会
四日市市	若尾 伸一	第2分科会
四日市市	廣田 則男	第2分科会
四日市市	鈴木 久代	第3分科会
四日市市	伊藤 正	第2分科会
四日市市	渡邊 勝幸	第2分科会
四日市市	山川 弘二	第2分科会
熊野市	小川 雅司	第3分科会
伊賀市	宮田 久一	第4分科会
伊賀市	竹内 文子	第4分科会
伊賀市	辻本 茂和	第4分科会
名張市	橋岡 敬子	
名張市	田中 弘二	
志摩市	太田 和正	第1分科会
志摩市	上村 角内	第1分科会
菰野町	諸岡 直哉	第4分科会
菰野町	小崎 守人	第4分科会
菰野町	石川 優	第4分科会
菰野町	南部 宜佐	第4分科会
菰野町	伊藤 嘉奈子	第4分科会
三重県	森島 秀昭	第1分科会
桑名市	加藤 健斗	第1分科会
桑名市	森 雅弘	第1分科会
桑名市	松岡 実	第1分科会
いなべ市	山本 たか代	第2分科会
合計 69名		
彦根市	安佛 洋孝	第4分科会
大津市	山口 昭二	第4分科会
大津市	久保 洋司	第4分科会
大津市	矢守 友樹	第3分科会
大津市	青井 久志	第2分科会
大津市	森下 秀明	第2分科会
大津市	廣瀬 文夫	第1分科会
大津市	前川 靖子	第1分科会
大津市	千葉 祐嗣	第3分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
大津市	川村 俊	第3分科会
大津市	八田 章宏	第1分科会
大津市	早田 静男	第2分科会
大津市	金本 正彦	第4分科会
栗東市	雨森 智美	第4分科会
栗東市	武村 文勝	第3分科会
栗東市	服部 よし江	第4分科会
栗東市	三浦 トキ子	第3分科会
栗東市	齊木 泰子	第3分科会
栗東市	串田 修一	第4分科会
栗東市	奥村 三千代	第3分科会
栗東市	児玉 忠好	第3分科会
栗東市	狩野 正伸	第1分科会
栗東市	鳥山 文晴	第1分科会
栗東市	梅景 康裕	第4分科会
栗東市	大江 正美	第1分科会
彦根市	松本 宏	第4分科会
彦根市	中村 武浩	第4分科会
彦根市	井上 隆徳	第4分科会
彦根市	岩崎 義典	第4分科会
彦根市	川崎 勉	第4分科会
彦根市	谷口 幸雄	第4分科会
彦根市	吉田 紀彦	第4分科会
彦根市	小林 正人	第4分科会
彦根市	根本 一恵	第4分科会
彦根市	野口 利男	第4分科会
彦根市	小椋 松平	第4分科会
彦根市	林 やよい	第4分科会
彦根市	高橋 伊三男	第4分科会
彦根市	谷澤 英之	第4分科会
彦根市	宇野 道雄	第4分科会
彦根市	吉田 勝	第4分科会
彦根市	吉田 晴彦	第4分科会
甲良町	若林 暢	第1分科会
甲良町	大橋 喜代一	第1分科会
草津市	田平 沙彰	第4分科会
草津市	徳田 光秀	第2分科会
草津市	田部 文子	第1分科会
草津市	北川 眞造	第1分科会
草津市	八田 桂子	第2分科会
草津市	永井 章彦	第4分科会
草津市	服部 勝義	第1分科会
草津市	岡山 茂子	第4分科会
草津市	太田 薫	第4分科会
草津市	嘉悦 和子	第2分科会
草津市	藤内 伸一	第2分科会
滋賀県	長瀬 慎吾	第1分科会
東近江市	戸島 拓海	第2分科会
東近江市	高木 重隆	第2分科会
東近江市	松居 正治	第2分科会
東近江市	小澤 由治	第2分科会
東近江市	小杉 秀行	第2分科会
東近江市	景山 松子	第2分科会
東近江市	山田 秀子	第2分科会
東近江市	山本 光代	第2分科会
東近江市	落合 明美	第2分科会
東近江市	辰巳 初子	第2分科会
高島市安曇川町	岸田 洋	第2分科会
高島市安曇川町	田中 孝夫	第4分科会
野洲市	山本 博一	第3分科会
野洲市	山田 修	第2分科会
野洲市	岩井 孝子	第2分科会
野洲市	米澤 麻利	第3分科会
近江八幡市	中西 智子	第1分科会
近江八幡市	小岸 貞夫	第4分科会
湖南市	山下 秀文	第2分科会
湖南市	緒方 益博	第2分科会
湖南市	有村 照美	第2分科会
長浜市	佐野 稔之	第1分科会
長浜市	平川 公一	第1分科会
長浜市	高橋 義和	第1分科会
長浜市	田川 重雄	第1分科会
長浜市	上杉 常也	第1分科会
長浜市	高山 明彦	第1分科会
長浜市	川 宗治	第1分科会
長浜市	田崎 みつ子	第1分科会
長浜市	竹腰 勝子	第1分科会
米原市	井上 颯	第1分科会
米原市	大橋 弘一	第1分科会
米原市	林 典子	第1分科会
米原市	荒木 茂子	第1分科会
米原市	上田 佐知子	第1分科会
合計 91名		
京都府	岸本 邦夫	第4分科会
京都府	滝口 美津子	第4分科会
京都府	大石 宣男	第4分科会
京都府	安保 洋一	第4分科会
京都府	中嶋 丈介	第4分科会
京都府	廣瀬 敏彦	第4分科会
京都府	佐賀 明美	第4分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
京都府	吉田 享司	第4分科会
京都府	福井 和代	第4分科会
京都府	安嶋 一晃	第4分科会
京都府	山口 義夫	第4分科会
京都府	岡谷 陽子	第4分科会
京都府	山岸 正和	第4分科会
京都府	保田 篤司	第4分科会
京都市	比護 信子	第1分科会
京丹波町	小原 直也	第4分科会
京丹波町	津田 勝二	第3分科会
京丹波町	片田 泰和	第2分科会
城陽市	米田 惇	第4分科会
木津川市	神田 厚	
木津川市	河口 宏	
木津川市	木村 勝	
木津川市	尾崎 田鶴	
京田辺市	岩本 真吾	第4分科会
京田辺市	木下 静子	第2分科会
京田辺市	楠木 規与志	第3分科会
城陽市	久留米 正子	第4分科会
城陽市	笹嶋 道子	第4分科会
南丹波市	齋藤 昌久	
南丹波市	石田 武司	第2分科会
八幡市	佐野 恵理子	第1分科会
合計 31名		
豊中市	大林 智美	第3分科会
岬町	四至本 晴夫	
岬町	佐々木 勝人	
大阪市	三重野 晋介	第3分科会
大阪市	八町 慎	第2分科会
大阪市	菅川 成子	第1分科会
大阪市	渡部 元二	第3分科会
大阪市	西村 公宏	第2分科会
大阪市	大塚 洋子	第2分科会
大阪市	馬場 貴美子	第2分科会
大阪市	吉村 久美	第2分科会
大阪市	櫻本 哲夫	第3分科会
大阪市	松本 光司	第1分科会
大阪市	真柴 僚一	第1分科会
大阪市	福田 圭永子	第3分科会
大阪市	八倉 康祐	第1分科会
大阪市	山村 亮	第1分科会
大阪市	藤本 義次	第2分科会
摂津市	溝河 俊二	第2分科会
摂津市	木村 ひろ子	第2分科会
摂津市	山口 勇治	第2分科会
摂津市	浅井 理子	第2分科会
岸和田市	浅田 昌子	第4分科会
岸和田市	大仲 誠治	第4分科会
岸和田市	福西 由樹子	第4分科会
岸和田市	橋本 隆成	第4分科会
岸和田市	灘谷 恵美子	第4分科会
岸和田市	田淵 健太	第4分科会
高石市	岡口 一生	第1分科会
高石市	小谷 恵美子	第1分科会
堺市	西尾 重晴	第1分科会
堺市	白井 徹男	第2分科会
堺市	小畑 知志	第1分科会
八尾市	田中 富美江	第1分科会
大阪市	杉本 嘉文	第1分科会
大阪市	斉喜 博美	第2分科会
豊中市	古久保 美智恵	第2分科会
八尾市	田中 智子	第1分科会
八尾市	坂入 信作	第1分科会
八尾市	柏山 芳孝	第1分科会
八尾市	水上 光彦	第1分科会
八尾市	吉田 喜久男	第1分科会
河内長野市	山本 千栄子	第3分科会
河内長野市	浜田 秋香美	第3分科会
河内長野市	西野 元祥	第3分科会
河内長野市	松浪 まり	第3分科会
河内長野市	中村 真裕美	第3分科会
河内長野市	鎌 明美	第3分科会
南河内郡太子町	島中 成	
南河内郡太子町	田中 滉	
東大阪市	山本 光一	第1分科会
東大阪市	村田 俊明	第1分科会
東大阪市	吉金 英明	第1分科会
東大阪市	藤原 義久	第1分科会
東大阪市	津々木 篤美	第1分科会
東大阪市	戸田 健二	第1分科会
和泉市	石戸 さゆり	第1分科会
和泉市	山中 政子	
和泉市	山崎 敬士	第1分科会
高槻市	黒川 周作	第2分科会
高槻市	松中 博典	第2分科会
高槻市	片岡 真典	第2分科会
高槻市	吉川 順子	第2分科会
高槻市	山本 悦子	第2分科会
高槻市	小林 均	第2分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
高槻市	金井 章	第2分科会
吹田市	佐久 佳廣	第2分科会
吹田市	中井 和子	第2分科会
吹田市	富澤 雅子	第2分科会
茨木市	小林 満	第1分科会
茨木市	下川 良三	第1分科会
茨木市	清水 恵美子	第1分科会
茨木市	川畑 嘉伸	第1分科会
茨木市	浅野 宣子	第1分科会
泉佐野市	畑中 徳江	第2分科会
泉佐野市	松本 由美子	第2分科会
寝屋川市	葛城 裕也	第2分科会
寝屋川市	井上 和也	第4分科会
阪南市	中川 一行	第2分科会
箕面市	岩重 敏子	第1分科会
枚方市	齊藤 雅治	第2分科会
枚方市	吉田 富治	第2分科会
泉南郡田尻町	田代 梅男	第1分科会
泉南郡田尻町	立野 幸一	第1分科会
泉南郡田尻町	廣瀬 優子	第1分科会
貝塚市	辻 元史	第1分科会
貝塚市	川端 睦巳	第1分科会
貝塚市	久下 多津子	第1分科会
熊取町	野口 博美	第1分科会
熊取町	岸本 敦仁	第1分科会
熊取町	穴倉 景子	第1分科会
熊取町	堀井 裕子	第1分科会
熊取町	北村 真紀	第1分科会
熊取町	岸本 邦彦	第1分科会
合計 94名		
淡路市	中來田 育宏	第1分科会
淡路市	保田 友也	第1分科会
高砂市	藤原 良文	第2分科会
高砂市	南 勲史郎	第2分科会
高砂市	加藤 久美子	第2分科会
高砂市	栄徳 俊彦	第2分科会
多可郡多可町	届本 豊和	第3分科会
多可郡多可町	足立 保雄	第3分科会
多可郡多可町	竹本 佳道	第3分科会
多可郡多可町	坂場 基司	第3分科会
西宮市	垣本 鉄平	第3分科会
西宮市	福田 富士枝	第3分科会
西宮市	黒木 富美子	第3分科会
宝塚市	東野 慎之介	第2分科会
宝塚市	田中 百合子	第2分科会
宝塚市	田中 美佐子	第2分科会
南あわじ市	西岡 幸子	第4分科会
南あわじ市	中尾 隆太	第4分科会
南あわじ市	井上 卓也	第4分科会
南あわじ市	庄田 晴幸	第4分科会
南あわじ市	長尾 美恵子	第4分科会
南あわじ市	前川 嘉之	第4分科会
丹波市	足立 沙織	第4分科会
丹波市	道本 一廣	第4分科会
丹波市	青木 知也	第4分科会
丹波市	大西 洋子	第4分科会
丹波市	小森 仁美	第4分科会
姫路市	清瀬 哲也	第1分科会
姫路市	恒木 克仁	第1分科会
姫路市	山神 卓海	第1分科会
姫路市	和田 敏章	第1分科会
姫路市	山根 良兼	第1分科会
姫路市	丸山 吉秋	第1分科会
神戸市	倉本 守	第3分科会
豊岡市	小崎 淳子	第1分科会
豊岡市	石野 勝巳	第1分科会
豊岡市	藤原 誠	第1分科会
豊岡市	野末 八代	第1分科会
豊岡市	橋本 敬	第1分科会
篠山市北新町	藤井 正作	第4分科会
篠山市北新町	澤 光吉	第4分科会
東播磨・北播磨地区	吉田 勇二	第1分科会
明石市	中村 茂雄	第2分科会
明石市	岡本 常司	第4分科会
明石市	吉川 義樹	第3分科会
明石市	原田 京子	第2分科会
明石市	樋 教子	第4分科会
明石市	三木 康嗣	第4分科会
三田市	坂口 昇	第2分科会
三田市	渡 明美	第2分科会
三田市	岡田 南海雄	第2分科会
加西市	古門 茂	
加西市	中野 重美	
加西市	後藤 義彦	
加西市	楠田 太郎	
加西市	高田 美智代	
兵庫県	柏木 真紀	第1分科会
太子町	塚原 久子	
小野市	賀内 進一	第2分科会
小野市	賀内 ゆきみ	第2分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
たつの市	清水 裕之	
たつの市	柳生 陽一	
たつの市	井川 雅夫	
たつの市	猪澤 敏一	
たつの市	高橋 美雪	
たつの市	加藤 均	
たつの市	赤木 真由美	
たつの市	竹添 明弘	
たつの市	巖 まり子	
たつの市	清水 勇幸雄	
加古川市	大西 光	第4分科会
加古川市	長尾 浩二	第4分科会
宍粟市	薄木 正夫	
宍粟市	薄木 陽子	
神戸市	藤田 美千代	第3分科会
神戸市	馬場 清順	第3分科会
神戸市	中島 真紀	第3分科会
尼崎市	坂本 敏美	第4分科会
尼崎市	森田 一恵	第4分科会
尼崎市	島村 美子	第4分科会
尼崎市	尾村 孝子	第4分科会
尼崎市	武田 まつ子	第4分科会
西脇市	藤井 敬也	第1分科会
三木市	山内 公博	第1分科会
三木市	山内 基行	第1分科会
三木市	富依 多雅藏	第1分科会
高砂市	伊藤 容子	第2分科会
淡路市	柏木 昇三	第1分科会
佐用町	中山 久一	第2分科会
洲本市	赤松 志久	第1分科会
洲本市	佐野 由美	第1分科会
洲本市	巽 郁恵	第1分科会
芦屋市	古津 純子	第3分科会
兵庫県	漁 修生	第1分科会
養父市	松田 敬三	第2分科会
合計 95名		
大和郡山市	田村 和勇	第4分科会
大和郡山市	高田 吉美	第2分科会
御杖村	青海 昌睦	第1分科会
御杖村	篠田 元	第1分科会
御杖村	嶋 勝利	
大和郡山市	福田 シゲ子	第4分科会
大和郡山市	胡内 恭太郎	第2分科会
大和郡山市	山田 嘉子	第4分科会
十津川村	松實 崇	第4分科会
十津川村	榊本 参	第4分科会
大和郡山市	瀧川 茂和	第2分科会
山添村	西尾 翼	第1分科会
山添村	奥端 富男	第1分科会
標原市	黒岩 友治	第4分科会
標原市	芳村 力	第2分科会
標原市	松本 繁	第2分科会
明日香村	東野 浩志	第1分科会
明日香村	若森 和廣	第1分科会
葛城市	藤井本 正明	第1分科会
葛城市	小西 憲二	第1分科会
平群町	出水 良一	第1分科会
平群町	西川 直子	第1分科会
奈良市	羽山 太一	第1分科会
宇陀市	高見 喬一	第1分科会
宇陀市	小泉 眞吾	第1分科会
奈良市	西浦 正翁	第2分科会
奈良市	熊谷 弘子	第2分科会
奈良市	野崎 高利	第2分科会
奈良市	早野 新子	第2分科会
奈良市	中矢 好實	第2分科会
奈良市	村上 裕子	第2分科会
奈良市	榊原 正巳	第2分科会
奈良市	肥田 富貴子	第2分科会
桜井市	丸尾 佳巳	第1分科会
桜井市	福井 基雄	第1分科会
桜井市	東野 佳代子	第1分科会
桜井市	奥田 三津夫	第1分科会
桜井市	中村 恵美子	第2分科会
桜井市	藤本 圭造	第2分科会
桜井市	吉岡 世都子	第2分科会
桜井市	吉岡 知子	第4分科会
桜井市	中西 康代	第4分科会
田原本町	村尾 学	第1分科会
田原本町	寺井 久和	第1分科会
吉野町	田尾 一志	第1分科会
吉野町	田中 啓一	第1分科会
王寺町	吉原 昌平	第1分科会
生駒市	吉岡 秀高	第2分科会
斑鳩町	嶋田 ハル子	第1分科会
三郷町	深木 健宏	第2分科会
三郷町	高田 秀子	第2分科会
三郷町	野並 美知代	第2分科会
三郷町	木口屋 修三	第4分科会
三郷町	四方 秀樹	第4分科会
生駒市	城山 ゆかり	第2分科会
合計 55名		

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
那智勝浦町	小谷 成郎	第4分科会
那智勝浦町	伊藤 善之	第4分科会
紀の川市	片山 雅生	第1分科会
紀の川市	徳山 欣哉	第1分科会
海南市	藤爪 隆典	第4分科会
海南市	橋田 眞嗣	第4分科会
海南市	山部 進	第4分科会
和歌山市	九野 桃佳	第2分科会
有田市	山本 崇	
橋本市	石原 聖也	第1分科会
橋本市	朝木 一廣	第1分科会
橋本市	加藤 儀夫	第1分科会
橋本市	稲本 紀久代	第1分科会
橋本市	奥村 里枝子	第1分科会
橋本市	中谷 久光	第1分科会
橋本市	丸山 敏文	第1分科会
橋本市	森口 佳幸	第1分科会
橋本市	森田 幸枝	第1分科会
橋本市	前川 朋久	第1分科会
岩出市	山東 亮太	第2分科会
岩出市	田林 由加	第2分科会
和歌山市	筋師 光博	第2分科会
和歌山市	安井 卯	第4分科会
田辺市	長岡 岳秀	第2分科会
田辺市	竹中 冬樹	第2分科会
田辺市	吉田 昌子	第2分科会
田辺市	湯川 富雄	第2分科会
田辺市	久保 喜美男	第2分科会
田辺市	上西 由紀子	第2分科会
田辺市	馬欠場 小夜子	第2分科会
岩出市	南出 保善	第2分科会
合計 31名		
伯耆町	柳田 昌樹	第1分科会
伯耆町	加川 尚志	第1分科会
北栄町	宇田川 誠章	第2分科会
北栄町	坂本 憲昭	第2分科会
北栄町	長見 毅	第2分科会
北栄町	玉木 正枝	第2分科会
三朝町	鈴木 大輔	第2分科会
三朝町	米田 愛子	第2分科会
三朝町	森下 剛	第2分科会
三朝町	山下 勇	第2分科会
倉吉市	黒田 多美子	第1分科会
倉吉市	桑名 優子	第1分科会
倉吉市	岡本 幸美	第1分科会
倉吉市	鳥飼 巧	第1分科会
倉吉市	西原 浩樹	第1分科会
琴浦町	岩船 洋一	第2分科会
琴浦町	森下 君子	第2分科会
琴浦町	中本 智恵	第2分科会
琴浦町	市本 智子	第2分科会
琴浦町	中川 康子	第2分科会
琴浦町	河本 洋二	第2分科会
琴浦町	手嶋 信広	第2分科会
琴浦町	近池 政彦	第2分科会
琴浦町	大石 隆一郎	第2分科会
琴浦町	村上 貴康	第2分科会
米子市	安達 博志	第4分科会
米子市	坪倉 韓人	第4分科会
米子市	内藤 英二	第4分科会
米子市	岡田 信行	第4分科会
米子市	山川 正高	第4分科会
米子市	鷺見 和恵	第4分科会
米子市	藤原 和子	第4分科会
米子市	田邊 智恵子	第4分科会
米子市	山形 俊夫	第4分科会
米子市	田中 敦則	第4分科会
米子市	田中 博郎	第4分科会
米子市	大森 一男	第4分科会
湯梨浜町	尾坂 大樹	第1分科会
湯梨浜町	北村 浩	第1分科会
湯梨浜町	吉田 好人	第1分科会
湯梨浜町	杉原 良隆	第1分科会
湯梨浜町	米原 和博	第1分科会
日南町	尾古 真依	第2分科会
日南町	山岡 由夫	第2分科会
日南町	面田 公代	第2分科会
日南町	野口 八苗	第2分科会
日南町	小山 政江	第2分科会
日南町	湯湯 正人	第4分科会
鳥取市	坂本 警次	第2分科会
鳥取市	須崎 良孝	第2分科会
鳥取市	瀬戸川 政美	第2分科会
鳥取市	伴 俊夫	第2分科会
鳥取市	山縣 雅彦	第2分科会
鳥取市	山根 浩	第2分科会
鳥取市	永見 洋子	第2分科会
鳥取市	福田 公子	第2分科会
鳥取市	瀧本 昭良	第2分科会
八頭町	岸本 浩	第2分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
八頭町	川口 謙二郎	第2分科会
鳥取市	前田 直人	第3分科会
鳥取市	上田 秀美	第3分科会
合計 61名		
松江市	名目良 明利	第2分科会
松江市	森本 敏雄	第2分科会
出雲市	久家 彰	第1分科会
出雲市	久野 晴見	第1分科会
出雲市	清水 康子	第1分科会
出雲市	永瀬 明	第1分科会
松江市	川津 洋子	第2分科会
松江市	山口 洋	第2分科会
松江市	安井 誠	第2分科会
松江市	持田 美也子	第3分科会
松江市	持田 康史	第4分科会
松江市	土江 里美	第3分科会
松江市	黒崎 和	第1分科会
松江市	石橋 新三	第1分科会
松江市	金山 恵美子	第1分科会
松江市	永島 和美	第1分科会
松江市	栗原 克己	第3分科会
古賀町	中田 元	第2分科会
安来市	宮本 功二	第3分科会
安来市	糸原 裕子	第3分科会
安来市	今井 章雄	第3分科会
安来市	仲佐 久子	第3分科会
安来市	大甕 静雄	第3分科会
安来市	板持 明秀	第3分科会
安来市	長谷川 清美	第3分科会
安来市	大畑 伸人	第3分科会
安来市	平井 直人	第3分科会
浜田市殿町	石口 清武	第2分科会
出雲市	矢田 栄子	第4分科会
出雲市	北村 健治	第4分科会
隠岐の島町	齋藤 正子	
合計 31名		
赤磐市	松江 良一	第3分科会
赤磐市	杉本 靖和	第3分科会
岡山市	宮崎 准二	第1分科会
勝央町	高山 恭子	第2分科会
勝央町	忠政 幸雄	第2分科会
勝央町	山下 一男	第2分科会
勝央町	橋本 武利	第2分科会
岡山市	赤木 弘藏	第2分科会
岡山市	向井 彰	第1分科会
岡山市	羽場 和子	第3分科会
鏡野町	岸 泰廣	
鏡野町	小原 脩三	
鏡野町	牧田 俊一	
美作市	唐内 奈遠	第2分科会
美作市	森 正彦	第2分科会
美作市	橋本 峰子	第2分科会
美作市	角南 正男	第2分科会
美作市	皆木 一志	第2分科会
美作市	水元 浩貴	第2分科会
美作市	春名 宏信	第2分科会
美作市	伊東 廣一	第2分科会
玉野市	尾原 京子	第3分科会
玉野市	榊原 智生	第3分科会
倉敷市	宮原 光夫	第2分科会
倉敷市	三宅 敏夫	第1分科会
倉敷市	廣田 俊次	第4分科会
倉敷市	谷田 浩史	第1分科会
新見市	石畑 忠	第2分科会
新見市	信谷 昌吾	第3分科会
新見市	福田 健一	第2分科会
新見市	平田 好弘	第4分科会
笠岡市	高橋 暁	第1分科会
笠岡市	廣井 勤	第1分科会
笠岡市	桑田 勝正	第4分科会
真庭市	杉村 昌和	第1分科会
真庭市	長尾 政則	第1分科会
真庭市	中山 俊久	
美咲町	清水 博史	第4分科会
美咲町	勢本 圭司	第4分科会
美咲町	常安 裕見子	第4分科会
美咲町	勝浦 宗一	第4分科会
美咲町	黒木 慎一郎	第4分科会
美咲町	山本 広文	第4分科会
美咲町	牛房 紀見	第4分科会
美咲町	壺内 三智子	第4分科会
美咲町	石戸 祐介	第4分科会
久米南町	小坂 一知	第1分科会
久米南町	田中 俊彦	第1分科会
久米南町	熊部 徹男	第1分科会
久米南町	光元 一郎	第1分科会
岡山市	景山 勲	第2分科会
岡山市	佐野 充	第2分科会
岡山市	東山 直己	第4分科会
岡山市	今井 一夫	第2分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
岡山市	椋代 弘	第4分科会
岡山市	大嶋 俊宏	第2分科会
岡山市	吉岡 徹	第2分科会
岡山市	岸本 小次郎	第2分科会
高梁市	五百蔵 実	第4分科会
高梁市	玉田 敏明	第4分科会
高梁市	武南 俊明	第1分科会
高梁市	藤原 昌子	第1分科会
高梁市	小林 培夫	第1分科会
高梁市	平田 久実子	第1分科会
高梁市	清原 雅和	第4分科会
高梁市	川上 伸介	第4分科会
備前市	山形 祐康	第2分科会
浅口市	高島 建身	第1分科会
津山市	江原 圭祐	第1分科会
津山市	矢谷 正明	第1分科会
総社市	荒木 健策	第4分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
福山市	澤田 修次	第4分科会
福山市	清水 秀子	第4分科会
福山市	遠山 康博	第2分科会
福山市	中根 博志	第2分科会
福山市	藤井 秀憲	第2分科会
福山市	藤井 宏子	第2分科会
府中町	門前 俊幸	第2分科会
府中町	沖 利昭	第2分科会
熊野町	福山 英二	第2分科会
熊野町	大松 宣子	第2分科会
熊野町	櫻原 裕子	第2分科会
熊野町	小林 登	第2分科会
熊野町	岡田 小百合	第2分科会
熊野町	大野 都也子	第4分科会
熊野町	宮本 由美子	第4分科会
熊野町	川原 嘉子	第4分科会
熊野町	峰 悦子	第4分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
下関市	中西 真佐美	第4分科会
下関市	肥塚 泰生	第4分科会
下関市	藤野 久子	第4分科会
下関市	教仙 真由美	第4分科会
下関市	濱野 直毅	第4分科会
山口市	掛波 冬男	第4分科会
下関市	福田 真一	第4分科会
山口市	大西 徳生	第4分科会
防府市	浜田 結海	第4分科会
防府市	坂本 和之	第4分科会
防府市	宮本 世志男	第4分科会
防府市	相本 幸	第4分科会
岩国市	村元 雅晴	第2分科会
宇部市	志賀 光法	第4分科会
宇部市	福江 玲子	第4分科会
宇部市	清崎 美恵子	第4分科会
宇部市	松村 慶子	第4分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
呉市	悦木 忠徳	第1分科会
呉市	中田 貢	第1分科会
呉市	世羅 繁治	第1分科会
呉市	澤 美苗	第1分科会
呉市	神田 清子	第1分科会
呉市	大橋 眞由美	第1分科会
呉市	多田 喜千	第1分科会
呉市	空本 軍治	第1分科会
呉市	石井 完二	第1分科会
呉市	棚田 昱夫	第1分科会
呉市	天王寺谷 よし子	第1分科会
東広島市	細工 実	第4分科会
東広島市	新川 義貴	第4分科会
東広島市	上田 はるみ	第4分科会
東広島市	秋光 敏子	第4分科会
熊野町	原田 耕造	第2分科会
呉市	松本 晴則	第1分科会
大竹市	竹之内 公夫	第1分科会
大竹市	木下 正紀	第1分科会
福山市	大塚 真志	第2分科会
福山市	馬淵 悦郎	第4分科会
福山市	三島 美紗子	第4分科会
福山市	三宅 睦雄	第2分科会
福山市	山田 優子	第4分科会
福山市	園尾 一成	第4分科会
東広島市	世羅 卓哉	第4分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
徳島市	西岡 健	第4分科会
三好市	前田 拓也	第1分科会
吉野川市	松原 洋	第1分科会
吉野川市	渡部 国博	第1分科会
吉野川市	上松 透	第1分科会
吉野川市	佐藤 浩	第1分科会
吉野川市	藤原 初子	第1分科会
三好市	伊丹 健吾	第1分科会
三好市	山下 博正	第1分科会
三好市	續 郁夫	第1分科会
上板町	森 榮一	第3分科会
小松島市	吉岡 俊二	第1分科会
小松島市	西村 登美代	第2分科会
小松島市	赤川 朝美	第1分科会
小松島市	小路 芳雄	第1分科会
小松島市	松本 京子	第1分科会
小松島市	高瀬 眞子	第1分科会
小松島市	宮田 衛	第1分科会
美馬市	櫻地 貴洋	第4分科会
美馬市	青木 博美	第2分科会
美馬市	藤野 幹泰	第2分科会
美馬市	佐藤 和子	第4分科会
美馬市	梶田 良彦	第4分科会
鳴門市	米田 寿夫	第1分科会
鳴門市	野口 泰延	第1分科会
徳島市	奥本 敏次	第2分科会
徳島市	内藤 伸弘	第2分科会
徳島市	板東 宏典	第2分科会
徳島市	中村 剛	第2分科会
徳島市	橋本 智子	第2分科会
徳島市	前川 恵子	第2分科会
阿波市	寺井 勝彦	第4分科会
阿波市	野口 富子	第4分科会
阿波市	酒巻 正幸	第4分科会
阿波市	小川 増美	第4分科会
阿波市	堰 智美	第4分科会
藍住町	川野 英治	第4分科会
藍住町	竹内 進	第2分科会
藍住町	谷野 桂一郎	第2分科会
藍住町	井上 武	第2分科会
藍住町	渡辺 靖	第3分科会
藍住町	星元 郁美	第3分科会
藍住町	西浦 美代子	第3分科会
藍住町	山田 基子	第3分科会
藍住町	奥田 浩志	第4分科会
北島町	小松 真司	第2分科会
北島町	西野 甫	第2分科会
北島町	米本 誠	第2分科会
松茂町	三石 順治	第1分科会
松茂町	福井 勝利	第1分科会
松茂町	久次米 慶二	第1分科会
松茂町	大浦 敏夫	第1分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
広島市	田村 博子	第1分科会
安芸高田市	末長 量平	第4分科会
広島市	玉田 裕司	第3分科会
広島市	天野 直樹	第3分科会
広島市	中本 章夫	第3分科会
広島市	坂田 澄江	第3分科会
広島市	光田 佐千子	第3分科会
広島市	沖本 啓子	第3分科会
広島市	黒永 勝彦	第3分科会
広島市	中村 靖	第2分科会
広島市	西川 富江	第2分科会
広島市	宮本 信次	第3分科会
広島市	山室 卓朗	第3分科会
広島市	山真 法恵	第3分科会
広島市	平田 克士	第3分科会
広島市	宮本 隆	第2分科会
広島市	合田 聡	第2分科会
広島市	森島 道徳	第3分科会
三原市	吉村 成男	第2分科会
三原市	福永 福美	第2分科会
三原市	今村 盛登	第2分科会
三原市	巳越 眞	第2分科会
三原市	西中 弘	第2分科会
三原市	森浦 里恵子	第2分科会
三原市	松川 正文	第2分科会
三原市	岡本 真奈	第2分科会
広島県	齊田 一典	第2分科会
神石高原町	伊勢村 正人	第1分科会
神石高原町	中岡 康典	第1分科会
神石高原町	古森 裕治	第1分科会
神石高原町	福本 春恵	第1分科会
三次市	吉田 なつ実	第4分科会
三次市	秋山 保	第3分科会
三次市	平岡 甚二郎	第2分科会
三次市	菅原 一男	第3分科会
三次市	久門 博之	第4分科会
三次市	牧浦 賢作	第3分科会
江田島市	平根 幸江	第3分科会
庄原市	東 泰治	第3分科会
庄原市	竹本 健三	第3分科会
庄原市	藤原 佳敏	第3分科会
庄原市	松森 直美	第3分科会
庄原市	岡田 鈴江	第3分科会
庄原市	崎谷 悦教	第3分科会
庄原市	前田 礼二	第3分科会
庄原市	河野 俊朗	第3分科会
庄原市	濱田 信治	第3分科会
庄原市	荒木 通広	第3分科会
廿日市市	高橋 済	第3分科会
廿日市市	岡本 美登志	第3分科会
廿日市市	南 智子	第3分科会
坂町	南 正則	第2分科会
海田町	細末 晴美	第2分科会
海田町	高森 寿美代	第2分科会
海田町	石田 睦美	第2分科会
安芸高田市	田中 房人	第4分科会
安芸太田町	斎藤 守	第4分科会
府中市	加納 巧	第2分科会
府中市	中山 道則	第2分科会
尾道市	大本 勝己	第2分科会
尾道市	有木 達治	第2分科会
尾道市	比本 学志	第4分科会
尾道市	神波 昌幸	第4分科会
尾道市	住友 雅子	第4分科会
尾道市	壇上 須美江	第4分科会
尾道市	後藤 早苗	第2分科会
尾道市	高田 計彦	第2分科会
尾道市	本田 孝	第2分科会
尾道市	西本 茂樹	第4分科会
福山市	池原 聡	第2分科会
福山市	江草 悟	第2分科会
福山市	岡崎 勝征	第2分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
周南市	竹島 弘	第4分科会
周南市	明石 和憲	第4分科会
周南市	井生 純子	第4分科会
周南市	笠井 邦夫	第4分科会
周南市	末次 利幸	第4分科会
周南市	長岡 伸久	第4分科会
周南市	藤井 幸江	第4分科会
周南市	三上 彌六	第4分科会
周南市	吉森 信雄	第4分科会
美祿市	村上 智宏	第4分科会
美祿市	河村 修司	第4分科会
美祿市	恵本 益江	第4分科会
美祿市	倉重 喜久男	第4分科会
美祿市	末永 浩己	第4分科会
美祿市	村木 孝志	第4分科会
美祿市	安富 幸子	第4分科会
美祿市	山村 亮太	第4分科会
萩市	増野 達史	第3分科会
萩市	江山 豊	第3分科会
萩市	田中 洋子	第3分科会
萩市	伊藤 奈美江	第3分科会
長門市	山田 高大	第4分科会
長門市	廣田 隆男	第4分科会
長門市	今浦 照之	第4分科会
長門市	城戸 千春	第4分科会
長門市	吉田 浩二	第4分科会
下松市	石川 一明	第1分科会
下松市	近藤 久美子	第3分科会
下松市	実近 幸子	第2分科会
下松市	中村 由佳里	第2分科会
下松市	石津 孝弘	第3分科会
下松市	神田 峰一	第3分科会
下関市	林 祐史	第4分科会
下関市	重本 巧	第4分科会
下関市	石川 武人	第4分科会
下関市	木村 榮子	第4分科会
下関市	青木 博美	第4分科会
下関市	江村 卓三	第4分科会
下関市	味上 美幸	第4分科会
下関市	壇 圭子	第4分科会
下関市	竹中 浩美	第4分科会
下関市	末吉 幾代	第4分科会
下関市	横山 幹雄	第4分科会
下関市	松崎 修身	第4分科会
下関市	土井 隆夫	第4分科会
下関市	稲崎 順一	第4分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
徳島市	西岡 健	第4分科会
三好市	前田 拓也	第1分科会
吉野川市	松原 洋	第1分科会
吉野川市	渡部 国博	第1分科会
吉野川市	上松 透	第1分科会
吉野川市	佐藤 浩	第1分科会
吉野川市	藤原 初子	第1分科会
三好市	伊丹 健吾	第1分科会
三好市	山下 博正	第1分科会
三好市	續 郁夫	第1分科会
上板町	森 榮一	第3分科会
小松島市	吉岡 俊二	第1分科会
小松島市	西村 登美代	第2分科会
小松島市	赤川 朝美	第1分科会
小松島市	小路 芳雄	第1分科会
小松島市	松本 京子	第1分科会
小松島市	高瀬 眞子	第1分科会
小松島市	宮田 衛	第1分科会
美馬市	櫻地 貴洋	第4分科会
美馬市	青木 博美	第2分科会
美馬市	藤野 幹泰	第2分科会
美馬市	佐藤 和子	第4分科会
美馬市	梶田 良彦	第4分科会
鳴門市	米田 寿夫	第1分科会
鳴門市	野口 泰延	第1分科会
徳島市	奥本 敏次	第2分科会
徳島市	内藤 伸弘	第2分科会
徳島市	板東 宏典	第2分科会
徳島市	中村 剛	第2分科会
徳島市	橋本 智子	第2分科会
徳島市	前川 恵子	第2分科会
阿波市	寺井 勝彦	第4分科会
阿波市	野口 富子	第4分科会
阿波市	酒巻 正幸	第4分科会
阿波市	小川 増美	第4分科会
阿波市	堰 智美	第4分科会
藍住町	川野 英治	第4分科会
藍住町	竹内 進	第2分科会
藍住町	谷野 桂一郎	第2分科会
藍住町	井上 武	第2分科会
藍住町	渡辺 靖	第3分科会
藍住町	星元 郁美	第3分科会
藍住町	西浦 美代子	第3分科会
藍住町	山田 基子	第3分科会
藍住町	奥田 浩志	第4分科会
北島町	小松 真司	第2分科会
北島町	西野 甫	第2分科会
北島町	米本 誠	第2分科会
松茂町	三石 順治	第1分科会
松茂町	福井 勝利	第1分科会
松茂町	久次米 慶二	第1分科会
松茂町	大浦 敏夫	第1分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
広島市	田村 博子	第1分科会
安芸高田市	末長 量平	第4分科会
広島市	玉田 裕司	第3分科会
広島市	天野 直樹	第3分科会
広島市	中本 章夫	第3分科会
広島市	坂田 澄江	第3分科会
広島市	光田 佐千子	第3分科会
広島市	沖本 啓子	第3分科会
広島市	黒永 勝彦	第3分科会
広島市	中村 靖	第2分科会
広島市	西川 富江	第2分科会
広島市	宮本 信次	第3分科会
広島市	山室 卓朗	第3分科会
広島市	山真 法恵	第3分科会
広島市	平田 克士	第3分科会
広島市	宮本 隆	第2分科会
広島市	合田 聡	第2分科会
広島市	森島 道徳	第3分科会
三原市	吉村 成男	第2分科会
三原市	福永 福美	第2分科会
三原市	今村 盛登	第2分科会
三原市	巳越 眞	第2分科会
三原市	西中 弘	第2分科会
三原市	森浦 里恵子	第2分科会
三原市	松川 正文	第2分科会
三原市	岡本 真奈	第2分科会
広島県	齊田 一典	第2分科会
神石高原町	伊勢村 正人	第1分科会
神石高原町	中岡 康典	第1分科会
神石高原町	古森 裕治	第1分科会
神石高原町	福本 春恵	第1分科会
三次市	吉田 なつ実	第4分科会
三次市	秋山 保	第3分科会
三次市	平岡 甚二郎	第2分科会
三次市	菅原 一男	第3分科会
三次市	久門 博之	第4分科会
三次市	牧浦 賢作	第3分科会
江田島市	平根 幸江	第3分科会
庄原市	東 泰治	第3分科会
庄原市	竹本 健三	第3分科会
庄原市	藤原 佳敏	第3分科会
庄原市	松森 直美	第3分科会
庄原市	岡田 鈴江	第3分科会
庄原市	崎谷 悦教	第3分科会
庄原市	前田 礼二	第3分科会
庄原市	河野 俊朗	第3分科会
庄原市	濱田 信治	第3分科会
庄原市	荒木 通広	第3分科会
廿日市市	高橋 済	第3分科会
廿日市市	岡本 美登志	第3分科会
廿日市市	南 智子	第3分科会
坂町	南 正則	第2分科会
海田町	細末 晴美	第2分科会
海田町	高森	

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
丸亀市	片長 誠二	第3分科会
丸亀市	小阪 正裕	第3分科会
丸亀市	小林 静	第3分科会
丸亀市	多田 光廣	第4分科会
丸亀市	橘 周平	第2分科会
丸亀市	平尾 隆徳	第3分科会
丸亀市	福岡 一二美	第2分科会
丸亀市	古川 雅敏	第3分科会
丸亀市	別所 きよみ	第3分科会
丸亀市	松本 好史	第2分科会
丸亀市	森原 晶	第1分科会
小豆島町	藤本 康明	第3分科会
高松市	城門 政文	第1分科会
高松市	川西 裕	第1分科会
高松市	森 綾子	第1分科会
高松市	福家 誠	第1分科会
高松市	泉川 美喜子	第1分科会
高松市	上原 誠子	第1分科会
高松市	森 千佳子	第1分科会
高松市	中 健二	第1分科会
高松市	山田 達夫	第1分科会
高松市	柳川 邦江	第1分科会
高松市	石田 歌子	第1分科会
高松市	高木 明美	第1分科会
高松市	齋藤 信博	第1分科会
高松市	片山 登喜子	第1分科会
高松市	近藤 善明	第1分科会
高松市	田頭 千恵	第1分科会
高松市	山城 雅彦	第1分科会
高松市	山田 憲一	第1分科会
高松市	今井 由美子	第1分科会
高松市	河崎 悦子	第1分科会
高松市	宮脇 靖子	第1分科会
琴平町	野村 和生	第3分科会
琴平町	大野 夕子	第3分科会
琴平町	森 圭市	第3分科会
琴平町	合田 陽一	第3分科会
坂出市	藤原 啓太	第2分科会
坂出市	吉田 茂	第2分科会
坂出市	浅野 恵美子	第2分科会
坂出市	本多 秀司	第2分科会
坂出市	山口 達史	第2分科会
坂出市	谷本 祐二	第2分科会
坂出市	黒原 忠雄	第2分科会
坂出市	入口 瑠子	第2分科会
坂出市	森 毅彦	第2分科会
まんのう町	高井 忠	第2分科会
まんのう町	山下 喜義	第2分科会
まんのう町	和泉 和美	第2分科会
普通寺市	平田 純一	第1分科会
普通寺市	上田 博之	第1分科会
高松市	宇野 健二	第1分科会
三豊市	河田 紀夫	第2分科会
三豊市	佐藤 節子	第2分科会
三豊市	芳地 睦子	第1分科会
高松市	松野 直行	第1分科会
合計 75名		
松山市	渡部 正人	第4分科会
松山市	加藤 節夫	第1分科会
八幡浜市	北本 真紗美	第1分科会
八幡浜市	二宮 政明	第1分科会
松山市	富脇 聡	第1分科会
松山市	富永 武文	第1分科会
松山市	日野 まゆみ	第1分科会
松山市	森 真弓	第1分科会
松山市	青木 玲子	第1分科会
松山市	鈴木 千代美	第1分科会
松山市	戒能 泰隆	第1分科会
松山市	日野 繁	第1分科会
松山市	高岡 朝雄	第1分科会
松山市	戸田 さつき	第1分科会
松山市	清水 千代	第1分科会
松山市	角谷 光子	第1分科会
松山市	鳥谷 琴美	第1分科会
松山市	西森 隆史	第1分科会
松山市	河井 勝則	第1分科会
松山市	林 裕一	第1分科会
松山市	榎本 百合	第1分科会
西予市	西中 武夫	第4分科会
西予市	山本 ナナエ	第4分科会
西予市	紀伊野 勇人	第4分科会
新居浜市	堀口 祥嗣	第1分科会
新居浜市	白石 晃典	第1分科会
新居浜市	近藤 洋治	第1分科会
伊予市	向井 敬介	第1分科会
四国中央市	本田 穰司	第4分科会
西条市	濱元 大希	第4分科会
西条市	佐伯 義廣	第2分科会
西条市	伊藤 英二	第1分科会
西条市	曾我部 公代	第3分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
西条市	徳増 美恵子	第4分科会
西条市	石原 登代子	第3分科会
西条市	藤下 由佳里	第4分科会
西条市	植木 隆司	第2分科会
伊予市	青野 光	第1分科会
松山市	宇都宮 京子	第1分科会
今治市	中路 将位	第4分科会
今治市	長谷部 省三	第4分科会
今治市	山内 貞夫	第4分科会
今治市	長谷部 賢司	第4分科会
今治市	浅海 壮一郎	第4分科会
合計 44名		
高知市	山口 絵里奈	第2分科会
高知市	島崎 伸一	第2分科会
高知市	四万十市 田辺 計由	第2分科会
高知市	四万十市 岡本 貴裕	第2分科会
高知市	露谷 真也	第4分科会
高知市	西本 啓三	第2分科会
高知市	井上 正三	第2分科会
高知市	西原 知代	第2分科会
高知市	松村 隆司	第1分科会
高知市	橋詰 茂	第2分科会
合計 10名		
福岡市	梅原 靖宏	第4分科会
福岡市	鶴田 安秀	第3分科会
福岡市	佐々木 一人	第2分科会
福岡市	原尻 敏広	第3分科会
福岡市	中村 悠毅	第4分科会
福岡市	田村 悠哉	第3分科会
川崎町	石原 栄樹	第1分科会
川崎町	谷 隆行	第1分科会
豊前市	中野 翔平	
豊前市	仲 清文	
豊前市	信安 周二	
豊前市	村上 隆生	
豊前市	緒方 陽子	
豊前市	野本 絃司	
豊前市	首藤 定	
吉富町	宇佐 輝人	第2分科会
大牟田市	末藤 芳昭	第1分科会
大牟田市	古田 将詞	第1分科会
大牟田市	池田 正	第1分科会
大牟田市	古賀 義勝	第1分科会
大牟田市	鳥野 知洋	第1分科会
鞍手町	漆谷 諒子	
鞍手町	久保 智則	
北九州市	上野 淳一	第4分科会
北九州市	岩木 憲治	第4分科会
北九州市	中川 末子	
北九州市	松永 玖美子	
宮若市	有馬 和昭	
行橋市	秋丸 拓朗	第3分科会
福岡市	久光 謙治	第1分科会
福岡市	鳥雄 潤子	第4分科会
福岡市	水崎 勉	第2分科会
福岡市	杷野 吉親	第4分科会
福岡市	横山 憲治	第1分科会
福岡市	山本 政司	第2分科会
福岡市	川口 和代	第3分科会
福岡市	瓜生 日出夫	第4分科会
福岡市	篠原 徳弘	第3分科会
福岡市	齋藤 光子	第3分科会
福岡市	相川 和子	第4分科会
福岡市	松井 正博	第4分科会
福岡市	後藤 提昭	第4分科会
福岡市	中島 正利	第1分科会
福岡市	堤 幸子	第1分科会
福岡市	木村 武仁	第1分科会
福岡市	田村 誠志	第1分科会
福岡市	三吉 俊彦	第3分科会
福岡市	日高 政治	第3分科会
福岡市	緒方 幸一	第2分科会
福岡市	村上 美知	第2分科会
福岡市	樋口 光男	第2分科会
福岡市	中村 眞理子	第2分科会
福岡市	杉本 真也	第2分科会
福岡市	眞田 朝雄	第3分科会
福岡市	田田 逸郎	第3分科会
福岡市	下田 浩二	第3分科会
福岡市	馬場崎 敬	第1分科会
直方市	木下 真帆	第3分科会
大刀洗町	木下 環	第1分科会
大刀洗町	安久 しづえ	第1分科会
大刀洗町	草葉 八重子	第1分科会
大刀洗町	中村 勇次	第1分科会
三瀬郡大木町	山北 清四郎	
三瀬郡大木町	石崎 新士	
行橋市	清水 政志	第1分科会
行橋市	村上 泰治	第1分科会
行橋市	杉山 憲二	第1分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
行橋市	前田 博秀	第1分科会
行橋市	橋本 幸司	第1分科会
飯塚市	賀村 祐太	第3分科会
築上町	久本 成美	第3分科会
築上町	川端 政廣	第3分科会
築上町	木村 正夫	第3分科会
築上町	仲野 彰信	第3分科会
築上町	野村 仁資	第3分科会
桂川町	藤島 勢津子	第2分科会
田川市	嶋田 美咲	
田川市	手島 洋二	
田川市	小川 貴子	
那珂川町	眞鍋 翔輝	第4分科会
那珂川町	一田 達彦	第4分科会
那珂川町	八尋 敏子	第4分科会
みやま市	藤本 秀治	第1分科会
みやま市	末吉 達矢	第1分科会
みやま市	坂梨 博行	第1分科会
うきは市	今村 清	第1分科会
久留米市	近藤 雅彦	第4分科会
久留米市	宮園 圭司	第1分科会
古賀市	高井 恭平	第1分科会
古賀市	横大路 智視	第1分科会
古賀市	久保田 恵美子	第3分科会
古賀市	大森 睦子	第2分科会
古賀市	造道 憲治	第2分科会
古賀市	藤崎 公明	第2分科会
柳川市	野田 千三	
久留米市	庄司 啓	第4分科会
豊前市	上野 純子	
合計 97名		
佐賀市	中村 直人	第1分科会
佐賀市	前嶋 泰博	第1分科会
佐賀市	高柳 友香	第3分科会
佐賀市	山田 邦雄	第2分科会
佐賀市	緒方 敏雄	第1分科会
佐賀市	森田 信弘	第2分科会
佐賀市	中島 祥子	第4分科会
佐賀市	本吉 ミヨ子	第3分科会
佐賀市	横尾 孝敏	第3分科会
佐賀市	川原田 裕明	第1分科会
佐賀市	秀島 光明	第1分科会
佐賀市	西村 富明	第2分科会
佐賀市	堤 久美子	第3分科会
佐賀市	大坪 賢二	第2分科会
佐賀市	園田 昌利	第4分科会
佐賀市	田尻 かなえ	第4分科会
佐賀市	古川 眞知子	第2分科会
佐賀市	江口 澄男	第4分科会
佐賀市	江藤 武子	第4分科会
佐賀市	松崎 かめ代	第3分科会
佐賀市	原 敏明	第1分科会
佐賀市	野中 邦雄	第3分科会
佐賀市	笠原 明子	第3分科会
基山町	中川 雄樹	第2分科会
伊万里市	光田 太郎	第2分科会
伊万里市	小旗 寛十郎	第2分科会
伊万里市	脇山 幸次	第2分科会
伊万里市	岩永 哲一郎	第2分科会
神埼市	西村 和義	
神埼市	広滝 太	
有田町	川尻 初雄	
有田町	川尻 光政	
上峰町	松田 望	第2分科会
上峰町	大坪 稔	第2分科会
上峰町	原 進二	第2分科会
上峰町	古川 るみ子	第2分科会
上峰町	秋山 裕盛	第2分科会
上峰町	高島 正隆	第2分科会
上峰町	江島 博	第2分科会
上峰町	丸山 充生	第2分科会
上峰町	石橋 由唯	第2分科会
上峰町	矢動丸 栄二	第2分科会
上峰町	徳安 優一	第2分科会
鳥栖市	尼寺 学	第1分科会
鳥栖市	西村 良一	第1分科会
基山町	永尾 浩一	第2分科会
基山町	古賀 和浩	第2分科会
基山町	佐藤 武吉	第2分科会
基山町	小島 昭子	第2分科会
基山町	森山 耕一	第2分科会
基山町	井上 悦子	第2分科会
基山町	福島 正	第2分科会
基山町	天本 美栄	第2分科会
基山町	益田 雄次	
玄海町	鳥原 明也	第4分科会
玄海町	中里 浩二	第4分科会
玄海町	池田 龍太	第4分科会
玄海町	渡邊 聡美	第4分科会
玄海町	松本 多美子	第4分科会
合計 59名		

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
長崎県	本田 強太	第2分科会
大村市	小林 健一	第2分科会
佐世保市	鶴田 美月	第1分科会
佐世保市	森 正志	第2分科会
大村市	徳永 光英	第2分科会
大村市	前川 義則	第2分科会
大村市	青山 美智子	第2分科会
大村市	小佐々 照雄	第2分科会
大村市	山浦 真知子	第2分科会
大村市	大坪 明	第2分科会
大村市	櫻山 一恵	第2分科会
大村市	熊田 賢治	第2分科会
大村市	吉村 正治	第2分科会
長崎県	佐藤 哲也	第2分科会
壱岐市	山口 和雄	第2分科会
佐々町	末永 敏洋	第2分科会
佐々町	宮島 眞知代	第4分科会
島原市	出田 春喜	第2分科会
島原市	大田 信広	第2分科会
島原市	園田 正文	第2分科会
島原市	霜田 重男	第2分科会
五島市	平山 多美	第2分科会
五島市	真鳥 市郎	第2分科会
西海市	大石 貴大	第2分科会
西海市	加藤 直	第4分科会
西海市	川崎 智子	第2分科会
西海市	葉山 昌子	第4分科会
西海市	福岡 峰子	第2分科会
西海市	森 裕也	第2分科会
西海市	前川 優也	第2分科会
西海市	山田 久美子	第2分科会
西海市	山下 泉	第4分科会
西海市	林田 薫	第2分科会
西海市	御舟 省剛	第2分科会
西海市	入口 昭英	第2分科会
長崎県	稲田 純子	第2分科会
長崎県	島田 愛子	第2分科会
長崎県	高野 順子	第2分科会
長崎県	宮崎 武洋	第2分科会
長崎県	竹林 忠士	第2分科会
長崎県	村山 忠国	第2分科会
長崎県	大熊 昭廣	第2分科会
雲仙市	田中 大智	第2分科会
雲仙市	布田 憲治	第2分科会
雲仙市	本田 幸成	第2分科会
雲仙市	峯 政重	第2分科会
雲仙市	川井 方典	第2分科会
雲仙市	福崎 泰樹	第2分科会
諫早市	浦川 晋輔	第1分科会
諫早市	小川 充弘	第1分科会
諫早市	宮園 久教	第1分科会
諫早市	松尾 龍幸	第1分科会
諫早市	安部 正	第1分科会
諫早市	森田 俊彦	第1分科会
諫早市	井ノ上 澄夜	第1分科会
諫早市	中島 とも子	第1分科会
諫早市	村川 徑子	第1分科会
諫早市	寺崎 和幸	第1分科会
諫早市	甲野 敏子	第1分科会
諫早市	山口 隆治	第1分科会
諫早市	田崎 秀隆	第1分科会
諫早市	田川 照信	第1分科会
諫早市	本多 誠治	第1分科会
諫早市	木井 英二	第1分科会
諫早市	木村 一久	第1分科会
諫早市	田中 美代子	第1分科会
諫早市	馬場 靖彦	第1分科会
諫早市	江嶋 多鶴子	第1分科会
諫早市	馬場 守隆	第1分科会
諫早市	廣瀬 功	第1分科会
諫早市	松永 一夫	第1分科会
諫早市	泉野 孝之	第1分科会
諫早市	小森 庄二	第1分科会
西海市	川添 奈美子	第2分科会
合計 74名		
熊本県	草野 柗	第4分科会
熊本県	田中 誠一	第2分科会
熊本県	竹本 耕治	第3分科会
熊本県	有村 重幸	第3分科会
南関町	城野 和則	第1分科会
南関町	原口 護	第1分科会
山鹿市	境 加代子	第1分科会
山鹿市	山下 誠治	第1分科会
山鹿市	古川 善一	第1分科会
合志市	山城 達也	第2分科会
合志市	河津 野利夫	第2分科会
合志市	吉田 民雄	第2分科会
合志市	永尾 テル子	第2分科会
合志市	畑中 トシ子	第2分科会
合志市	大場 百合子	第2分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
合志市	白濱 千波	第2分科会
合志市	中村 誓丞	第2分科会
あさぎり町	免田 英郎	第4分科会
あさぎり町	大坪 雄司	第4分科会
あさぎり町	福永 龍二	第4分科会
あさぎり町	中神 啓介	第4分科会
あさぎり町	上村 好生	第4分科会
あさぎり町	石塚 賢宏	第4分科会
宇城市	山崎 征男	
宇城市	吉川 憲行	
宇城市	宮本 真二	
阿蘇市	小坂 今朝和	第2分科会
多良木町	福屋 敏郎	
多良木町	西 辰郎	
多良木町	久保田 ユキ子	
多良木町	椎葉 望	
水俣市	佐伯 宗雄	第4分科会
水俣市	廣島 康雄	第4分科会
水俣市	小島 寛	第4分科会
水俣市	中村 香織	第4分科会
菊池郡菊陽町	齊藤 達也	第1分科会
菊池郡菊陽町	村本 文昭	第1分科会
菊池郡菊陽町	矢野 敬一	第1分科会
菊池郡菊陽町	小崎 法央	第1分科会
菊池郡菊陽町	江藤 美直子	第1分科会
菊池郡菊陽町	末吉 邦子	第1分科会
菊池郡菊陽町	平田 陽子	第1分科会
菊池郡菊陽町	中川 初生	第1分科会
菊池郡菊陽町	村上 知雅生	第1分科会
天草市	浦川 至	第2分科会
天草市	浦田 隆二	第2分科会
熊本市	大宮 司	第1分科会
熊本市	漆畑 幸夫	第1分科会
熊本市	堀田 正幸	第1分科会
湯前町	工藤 陽平	第4分科会
湯前町	荒木 利八	第2分科会
湯前町	味岡 眞由美	第4分科会
湯前町	税所 明美	第2分科会
球磨郡錦町	淋 英将	第2分科会
球磨郡錦町	浅生 今治	第2分科会
球磨郡錦町	上田 博文	第2分科会
八代市	立本 勝久	第2分科会
八代市	永田 文子	
小国町	波多野 大祐	第1分科会
小国町	石松 丈多郎	第1分科会
小国町	大塚 義隆	第1分科会
小国町	山中 清志	第1分科会
小国町	松野 公博	第1分科会
小国町	禿 浩志	第1分科会
小国町	松岡 順子	第1分科会
合計 66名		
大分市	後藤 友樹	第1分科会
大分市	岩尾 賢太郎	第1分科会
大分市	酒井 明	第1分科会
大分市	中村 一彦	第1分科会
津久見市	川野 俊一	第3分科会
津久見市	仲野 賢一郎	第3分科会
津久見市	徳永 さえ子	第3分科会
津久見市	秦野 貴光	第3分科会
別府市	恒松 直之	第1分科会
別府市	木村 由美	第1分科会
別府市	御手洗 茂	第1分科会
別府市	高木 恵子	第1分科会
別府市	高平 美由起	第1分科会
別府市	高橋 義典	第1分科会
大分市	野中 公二	第1分科会
大分市	土谷 忠昭	第1分科会
大分市	加藤 寛章	第1分科会
大分市	安心院 久嗣	第2分科会
津久見市	中津留 富士美	第3分科会
国東市	都留 啓一	第4分科会
国東市	有次 昭二	第4分科会
宇佐市	並松 良太	第2分科会
宇佐市	若杉 元司	第2分科会
宇佐市	都甲 英之	第2分科会
宇佐市	北 美利	第2分科会
宇佐市	安部 元昭	第2分科会
宇佐市	濱小路 純司	第2分科会
宇佐市	河野 正男	第2分科会
宇佐市	横光 浩三	第2分科会
宇佐市	森 繁子	第2分科会
宇佐市	廣崎 美弥	第2分科会
宇佐市	佐々木 恵子	第2分科会
豊後大野市	東藤 雅廣	第1分科会
佐伯市	竹嶋 水夫	第2分科会
佐伯市	佐藤 廣榮	第2分科会
佐伯市	田中 保徳	第2分科会
佐伯市	廣田 恒生	第2分科会
佐伯市	菅 峻太	

都道府県名・市町村名	氏名	分科会	
大分県	白杵市	大竹 海里	第1分科会
大分県	白杵市	徳丸 香枝	第1分科会
大分県	白杵市	板井 定治	第1分科会
大分県	白杵市	野中 弘美	第1分科会
大分県	白杵市	兒玉 元子	第1分科会
合計 43名			
宮崎県	岡野 景子	第3分科会	
日向市	寺田 雅彦	第3分科会	
日向市	寺田 新一郎	第3分科会	
宮崎県	中谷 義治	第3分科会	
宮崎市	假屋 昭成	第1分科会	
えびの市	大木場 隆示		
宮崎県	木下 文秋	第3分科会	
串間市	安倍 眞弓		
串間市	野邊 百合		
えびの市	田代 長茂		
えびの市	宮田 悦子		
えびの市	三浦 近男		
えびの市	永田 義雄		
えびの市	松葉 一弘		
串間市	相崎 健治	第2分科会	
串間市	黒木 一則	第2分科会	
串間市	井手 敏子	第2分科会	
串間市	久保野 美智子	第2分科会	
串間市	河野 智佐子	第2分科会	
串間市	城 由美子	第2分科会	
串間市	河野 すみ子	第2分科会	
串間市	八代 律子	第2分科会	
宮崎市	合谷 希代子	第1分科会	
宮崎市	山本 幸徳	第1分科会	
宮崎市	本部 伴典	第1分科会	
宮崎市	福留 ひとみ	第1分科会	
宮崎市	高石 則子	第1分科会	
宮崎市	米良 恵子	第1分科会	
宮崎市	甲斐 勝博	第1分科会	
宮崎市	林 高年	第1分科会	
延岡市	須見 かおる	第3分科会	
延岡市	木村 隆次	第3分科会	
延岡市	日吉 基昌	第3分科会	
延岡市	芝村 美由紀	第3分科会	
延岡市	甲斐 正幸	第3分科会	
延岡市	柳田 フミ子	第3分科会	
三股町	山田 正人		
三股町	去川 信行		
三股町	園田 稔		
三股町	中村 勇		
三股町	久保田 榮子		
三股町	河野 奈美		
三股町	山之内 祐二		
都城市	松永 智美		
都城市	中西 昇治		
都城市	上村 文男		
三股町	高橋 陽一		
合計 47名			
薩摩川内市	大田黒 博		
鹿児島県	中山 恭平		
鹿児島県	神宮 浩章		
鹿児島県	川口 孝		
鹿児島県	西 淳一		
鹿児島県	森 能実		
鹿児島県	永水 広樹		
鹿児島県	奥 英樹		
鹿児島県	下園 伸秀		
鹿児島県	上村 英樹		
鹿児島市	坂元 孝		
鹿児島市	横山 政文		
喜界町	前島 将太	第1分科会	
喜界町	横山 健太	第1分科会	
喜界町	三田美 将太	第1分科会	
南種子町	白川 廣秋		
南種子町	牛野 浩光	第2分科会	
南種子町	柳田 啓伍	第3分科会	
南種子町	鯨島 政幸	第2分科会	
南種子町	高田 充昭	第3分科会	
南種子町	山田 晋作	第4分科会	
南種子町	丸塚 拓也	第4分科会	
南種子町	岡留 晃平		
南種子町	西園 竜太		
南種子町	坂口 伸二		
与論町	喜村 一隆	第4分科会	
鹿屋市	池田 隆之	第4分科会	
奄美市	永井 信也	第4分科会	
与論町	大角 周治	第2分科会	
与論町	岡 泰光	第1分科会	
奄美市	岡山 嗣夫	第1分科会	
奄美市	谷村 広美	第1分科会	
奄美市	島川 勝博	第1分科会	
奄美市	山田 豊裕	第1分科会	
奄美市	久松 洋道	第2分科会	
奄美市	森田 広光	第3分科会	

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
奄美市	吉良 正人	第2分科会
奄美市	田中 孝次郎	第4分科会
奄美市	松田 俊仁	第1分科会
奄美市	浜口 広一	第1分科会
奄美市	白畑 早由美	第1分科会
奄美市	中村 栄	第1分科会
いちき串木野市	飯山 しほ乃	
奄美市	伊波 興一郎	第1分科会
いちき串木野市	徳重 和彦	第1分科会
いちき串木野市	原川 俊昭	
いちき串木野市	岩村 光雄	第2分科会
いちき串木野市	栢木 平次	
いちき串木野市	吉永 努	第1分科会
いちき串木野市	義茂 裕子	第2分科会
いちき串木野市	黒木 眞利子	第2分科会
いちき串木野市	北園 由乃	
いちき串木野市	小園 絹代	第4分科会
いちき串木野市	藤井 淳子	
いちき串木野市	井上 美幸	
いちき串木野市	瀬戸口 寛子	第2分科会
いちき串木野市	川崎 やよい	
曾於市	春山 直輝	第2分科会
大島郡和泊町	花輪 富八郎	第1分科会
大島郡和泊町	池田 照泰	第3分科会
大島郡和泊町	武 健湧	第2分科会
薩摩川内市	戸木田 尚大	第4分科会
錦江町	坂口 美智代	第2分科会
錦江町	福岡 正志	第2分科会
錦江町	川前 伸二	第4分科会
錦江町	山中 徹	第4分科会
錦江町	南園 高樹	第4分科会
錦江町	脇田 久雄	第4分科会
錦江町	厚ヶ瀬 弘人	第4分科会
錦江町	家長 善郎	
錦江町	櫻井 美和子	第2分科会
錦江町	金子 のぞみ	第2分科会
錦江町	竹下 鈴代	第2分科会
錦江町	富尾 正子	第2分科会
錦江町	真原 弘弥	第4分科会
屋久島町	牧辺 侑也	第1分科会
屋久島町	池下 博俊	第3分科会
屋久島町	竹之内 誠	第3分科会
屋久島町	永田 和子	第2分科会
屋久島町	真辺 千代美	第2分科会
屋久島町	山崎 雄成	第4分科会
屋久島町	相良 健一郎	第4分科会
屋久島町	鹿島 厚代	第1分科会
出水市	谷口 功	第3分科会
南さつま市	堀川 智行	
伊佐市	塩田 達郎	第1分科会
南さつま市	宮園 義久	
南さつま市	有園 真喜	
南さつま市	松村 泰代	
南さつま市	上舞 啓一郎	
南さつま市	園田 満代	
南さつま市	山下 秀紀	
南さつま市	牧口 弘典	
南さつま市	田原 いづみ	
南さつま市	松村 仁章	
薩摩川内市	山ヶ城 いづみ	第2分科会
薩摩川内市	瀬戸山 亮平	第4分科会
薩摩川内市	久永 文子	第2分科会
薩摩川内市	川畑 佐代子	第2分科会
薩摩川内市	松元 恵美子	第2分科会
薩摩川内市	谷口 美如	第3分科会
薩摩川内市	吉留 貴子	第2分科会
薩摩川内市	永田 栄枝	第3分科会
薩摩川内市	蓮香 美津子	第2分科会
薩摩川内市	田島 菊美	第1分科会
薩摩川内市	田島 喜久恵	第4分科会
薩摩川内市	屋久 清文	第2分科会
薩摩川内市	片平 哲三	第2分科会
薩摩川内市	坂下 よつみ	第4分科会
薩摩川内市	豊田 望	第2分科会
薩摩川内市	幸礼 靖子	第3分科会
薩摩川内市	末吉 繁春	第2分科会
薩摩川内市	勝田 芳孝	第4分科会
薩摩川内市	青山 美由紀	第3分科会
薩摩川内市	今藤 るみ子	第1分科会
薩摩川内市	花田 博之	第2分科会
薩摩川内市	園田 芳隆	第1分科会
薩摩川内市	村岸 信作	第1分科会
薩摩川内市	松木 洋子	第3分科会
薩摩川内市	倉園 兼一郎	第1分科会
薩摩川内市	中村 聡	第3分科会
薩摩川内市	山口 勝己	第2分科会
薩摩川内市	大井 美香	第2分科会
薩摩川内市	安徳 茂樹	第2分科会
薩摩川内市	増田 礼子	第2分科会
薩摩川内市	西 道子	第1分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
薩摩川内市	今村 誠	第1分科会
薩摩川内市	梶原 健太	第2分科会
薩摩川内市	濱田 史朗	第2分科会
薩摩川内市	濱崎 孝一	第3分科会
薩摩川内市	江口 玉美	第3分科会
薩摩川内市	下野 貞幸	第3分科会
薩摩川内市	中道 幸人	第3分科会
薩摩川内市	中村 米秀	第3分科会
霧島市	住吉 康賢	第2分科会
薩摩川内市	一村 隆司	第2分科会
薩摩川内市	西村 澄子	第2分科会
霧島市	松園 安廣	第2分科会
霧島市	小田原 恵利子	第2分科会
霧島市	淵脇 正和	第1分科会
霧島市	中筋 誠	第2分科会
霧島市	小寺 茂子	第2分科会
霧島市	田村 一昭	第1分科会
霧島市	稲田 勝彦	第2分科会
霧島市	鶴岡 悦美	第2分科会
霧島市	竹下 保夫	第2分科会
霧島市	加治木 勉	
徳之島町	野中 貴司	第1分科会
徳之島町	太良 満	第1分科会
鹿児島市	山下 美千代	
鹿児島市	森山 純雄	第1分科会
鹿児島市	佐藤 ゆみ子	第1分科会
鹿児島市	穂満 えり子	第1分科会
鹿児島市	足立 一代	第1分科会
鹿児島市	近藤 明	
鹿児島市	近藤 ひとみ	第1分科会
鹿児島市	眞竹 秀久	
鹿児島市	中筋 明子	第1分科会
鹿児島市	上野 洋一	第1分科会
鹿児島市	白石 浩子	第1分科会
鹿児島市	緒方 善子	第1分科会
鹿児島市	溜 紀代洋	第1分科会
鹿児島市	竹田 きみえ	第1分科会
鹿児島市	川崎 秋子	第1分科会
鹿児島市	脇 美千子	第1分科会
鹿児島市	田代 きつ子	第1分科会
鹿児島市	山下 高	
鹿児島市	中原 修二	第1分科会
鹿児島市	川路 博一	
鹿児島市	三枝 直美	第1分科会
鹿児島市	海江田 祝郎	第1分科会
鹿児島市	二之宮 行宣	
鹿児島市	松山 あや	第1分科会
鹿児島市	安藤 寿代	第1分科会
鹿児島市	郡山 泰嘉	第1分科会
鹿児島市	竹之内 哲義	第1分科会
鹿児島市	福島 早子	第1分科会
鹿児島市	大河内 郁子	第1分科会
鹿児島市	久保 健児	第1分科会
鹿児島市	丸山 直子	第1分科会
鹿児島市	永田 正一	第1分科会
鹿児島市	今吉 淳一	第1分科会
鹿児島市	泊 正仁	第1分科会
鹿児島市	加納 純徳	第1分科会
鹿児島市	細野 良則	
鹿児島市	山ヶ城 和子	第1分科会
鹿児島市	前原 正代	第1分科会
鹿児島市	伊藤 初美	第1分科会
鹿児島市	西山 加津子	
鹿児島市	菅元 隆次	
鹿児島市	園田 好清	第1分科会
鹿児島市	大平 晴男	
鹿児島市	岩戸 政成	第1分科会
鹿児島市	出来 仁士	
鹿児島市	出雲 信明	
鹿児島市	九万田 宏成	第1分科会
鹿児島市	小椋 桂子	第1分科会
鹿児島市	吉富 秀樹	
鹿児島市	上野 真里	
鹿児島市	坂元 幸子	
鹿児島市	木場 ひとみ	第1分科会
鹿児島市	矢野 由美子	第1分科会
鹿児島市	川畑 初代	
鹿児島市	末吉 洋一	第1分科会
鹿児島市	鶴田 洋子	第1分科会
鹿児島市	今別府 恒紀	第1分科会
鹿児島市	高橋 泰雄	第1分科会
鹿児島市	大野 敏博	第1分科会
鹿児島市	石田 幸治	第1分科会
鹿児島市	榎田 サヨ	第1分科会
鹿児島市	音野 知子	第1分科会
鹿児島市	竹下 幸宏	
鹿児島市	森山 和人	第1分科会
鹿児島市	森永 町子	第1分科会
鹿児島市	新 公志	第1分科会
大崎町	假水 公司	第4分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
鹿児島市	西山 秀一	
大崎町	谷迫 利弘	第4分科会
大崎町	牧本 眞一	第2分科会
大崎町	田代 浩	第2分科会
大崎町	中山 竜司	第2分科会
大崎町	竹井 さゆり	第2分科会
大崎町	神崎 大輔	第2分科会
大崎町	神野 道弘	第3分科会
大崎町	園田 優子	第3分科会
大崎町	山下 理香	第3分科会
大崎町	児玉 貴洋	第3分科会
出水市	福井 宏子	
出水市	児島 美代子	
出水市	田島 京子	
出水市	鈴木 裕一	
出水市	池田 宗隆	
出水市	蓮沼 順子	
出水市	吉留 達郎	
宮里 秀樹		第1分科会
さつま町	萩木場 啓三	第1分科会
さつま町	下牧瀬 嘉子	第1分科会
さつま町	指宿 正則	第1分科会
さつま町	高橋 千鶴子	第1分科会
さつま町	新改 秀作	第1分科会
さつま町	高橋 齊	第1分科会
始良市	草留 昌代	第1分科会
始良市	松山 秀太	第2分科会
始良市	北道 正光	第2分科会
始良市	児玉 真人	第2分科会
始良市	吉留 あさ子	第2分科会
始良市	蓬原 ユカリ	第4分科会
始良市	原口 みどり	第2分科会
始良市	石堂 誠一郎	第2分科会
始良市	山口 秀則	第2分科会
始良市	兼松 裕二	第4分科会
始良市	田中 郁夫	第2分科会
始良市	村田 哲哉	第2分科会
始良市	板坂 敦子	第2分科会
始良市	長戸 美智子	第2分科会
始良市	井上 つや子	第2分科会
始良市	原口 隆幸	第2分科会
始良市	竹下 友啓	第2分科会
始良市	原迫 久友	第2分科会
始良市	狩集 勉	第2分科会
始良市	大山 たまき	第2分科会
始良市	上東 等	第2分科会
始良市	小山田 辰夫	第2分科会
始良市	鈴木 勝喜	第1分科会
始良市	池田 大成	第2分科会
始良市	酒匂 いつ子	第2分科会
始良市	花田 きつ子	第1分科会
鹿屋市	堀内 航司	第3分科会
鹿屋市	村山 枝美子	第3分科会
鹿屋市	園田 榮	第3分科会
鹿屋市	峰元 俊幸	第3分科会
鹿屋市	小倉 浩一郎	第3分科会
鹿屋市	上内侍 正人	第3分科会
鹿屋市	安達 ひとみ	第3分科会
鹿屋市	中原 和徳	第1分科会
鹿屋市	東 幸一郎	第3分科会
鹿屋市	笠作 清志	第3分科会
鹿屋市	村田 清文	第3分科会
鹿屋市	鶴田 秀登	第3分科会
鹿屋市	岩元 幸子	第3分科会
鹿屋市	八木 みゆき	第3分科会
鹿屋市	上原 敏郎	第3分科会
鹿屋市	松元 広徳	第3分科会
鹿屋市	小野田 賢造	第1分科会
鹿屋市	永江 恒志	第1分科会
鹿屋市	中塩 了	第3分科会
長島町	下塩見 浩	第2分科会
長島町	濱田 健二	第2分科会
長島町	山角 豊	第2分科会
長島町	山頭 松子	第2分科会
長島町	川中 珠美	第2分科会
長島町	山本 清喜	第2分科会
長島町	道添 未地	第2分科会
天城町	中原 智浩	第4分科会
天城町	今田 将明	第1分科会
鹿児島市	福元 清孝	
志布志市	木村 アイ子	
志布志市	中村 みち子	
志布志市	高木 植幸	
志布志市	道山 弘子	
志布志市	山下 ちづ子	
志布志市	原 由美子	
志布志市	若松 孝弘	
志布志市	宮脇 勇	
志布志市	大山 正英	
志布志市	今別府 司	

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
志布志市	大原 雅隆	
志布志市	野口 裕司	
志布志市	折田 祐二	
南九州市	大園 秀巳	第2分科会
南九州市	有村 まり子	第1分科会
南九州市	山崎 貴美子	第1分科会
南九州市	日置 友幸	第2分科会
南九州市	牛垣 秀久	第2分科会
南九州市	下窪 健一郎	第2分科会
霧島市	本田 寛子	第2分科会
霧島市	常盤 信一	第2分科会
霧島市	西 四雄	第2分科会
霧島市	福島 年子	第2分科会
霧島市	重村 京子	第2分科会
霧島市	潤 政美	第2分科会
霧島市	松原 博文	第2分科会
霧島市	大田 ひとみ	第2分科会
霧島市	中山 幸治	第2分科会
霧島市	山下 教子	第2分科会
霧島市	平原 一幸	
霧島市	山口 智子	第2分科会
霧島市	小田原 典子	第2分科会
霧島市	享保 英一	第2分科会
霧島市	永野 三郎	第2分科会
霧島市	新中 輝美	
霧島市	河野 優子	第2分科会
霧島市	倉 幸一	第2分科会
霧島市	今林 三夫	
霧島市	今吉 博行	第2分科会
霧島市	前田 健二郎	
霧島市	山内 由紀子	
霧島市	東村 学	第2分科会
霧島市	坂元 清志	第2分科会
霧島市	大野 良子	
霧島市	堀ノ内 仁也	第2分科会
霧島市	中島 優子	第2分科会
霧島市	田向 伸一	第2分科会
霧島市	中馬 聡	第2分科会
霧島市	宅間 正明	第2分科会
霧島市	肥後 健裕	第2分科会
霧島市	市野 隼人	第1分科会
霧島市	薬瀬 貴之	第2分科会
霧島市	福原 賀春	第2分科会
霧島市	重丸 純二	第2分科会
霧島市	勘場 拓斗	第2分科会
霧島市	井之上 誠	第2分科会
肝属郡肝付町	日高 為英	第4分科会
肝属郡肝付町	有島 恵子	第4分科会
肝属郡肝付町	石田 正春	第4分科会
肝属郡肝付町	津代 幸一郎	第4分科会
肝属郡肝付町	恒吉 千浪	第4分科会
肝属郡肝付町	内倉 弘幸	第4分科会
肝属郡肝付町	山之内 友梨	第4分科会
枕崎市	岩尾 洋乃	第2分科会
枕崎市	竹中 和幸	第2分科会
枕崎市	酒瀬川 美鈴	第2分科会
枕崎市	小湊 菊子	第2分科会
枕崎市	吉嶺 友博	第2分科会
枕崎市	平山 淳郎	第1分科会
枕崎市	豊留 信一	第2分科会
肝属郡南大隅町	宇都 義治	第2分科会
肝属郡南大隅町	船倉 浩	第2分科会
肝属郡南大隅町	立神 重雄	第2分科会
肝属郡南大隅町	瀬戸山 徹朗	第2分科会
肝属郡南大隅町	平瀬戸 鈴子	第2分科会
肝属郡南大隅町	花里 友二	第2分科会
肝属郡南大隅町	水谷 恵子	第2分科会
肝属郡南大隅町	田中 光三	第2分科会
肝属郡南大隅町	土持 恵美子	第2分科会
肝属郡南大隅町	入ヶ町 貴弘	第2分科会
肝属郡南大隅町	福島 敬晃	第2分科会
南九州市	桑代 睦雄	第2分科会
知名町	榮 鉄也	第1分科会
知名町	神川 千鶴子	第1分科会
知名町	藤井 良光	第1分科会
知名町	徳園 秀郷	第1分科会
知名町	田畑 正枝	第1分科会
知名町	西村 則彦	第1分科会
知名町	西山 健一	第1分科会
知名町	下田 浩治	第1分科会
知名町	西田 明洋	第1分科会
日置市	秋嶺 健	第1分科会
日置市	國分 サエ子	第1分科会
日置市	迫 直美	
伊佐市	緒方 宏至	
日置市	徳重 寿子	
大和村	和泉 和香	第2分科会
日置市	河野 京子	第1分科会
日置市	西尾 スマ子	第1分科会
伊佐市	浦本 里美	第1分科会

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
日置市	原之園 春江	第2分科会
日置市	奥 富士子	
伊佐市	内村 友治	第2分科会
伊佐市	細根 康平	
日置市	新宅 礼子	第3分科会
伊佐市	諏訪下 豊	第1分科会
伊佐市	福本 千枝子	第1分科会
伊佐市	中森 弘美	第1分科会
伊佐市	竹内 祐治	第1分科会
伊佐市	小門 真	
伊佐市	川添 裕子	
伊佐市	原口 由紀	第1分科会
伊佐市	下境田 徳王	
伊佐市	川野 広輝	
伊佐市	川添 陽子	第1分科会
伊佐市	田畑 真由美	第1分科会
伊佐市	北鶴 明香	
日置市	平地 真由美	第3分科会
日置市	今屋 政市	
日置市	内田 智美	第1分科会
曾於市	新屋 美千代	第2分科会
曾於市	木谷 博雄	第2分科会
曾於市	新田 玲子	第2分科会
曾於市	松永 昭博	第2分科会
曾於市	大休寺 順子	第2分科会
曾於市	西留 タツ子	第2分科会
曾於市	吉田 妙子	第2分科会
曾於市	西丸 國治	第2分科会
曾於市	津曲 良信	第2分科会
曾於市	西山 れい子	第2分科会
曾於市	吉元 幸喜	第2分科会
曾於市	川原 幸也	第2分科会
出水市	山口 徹	第3分科会
出水市	桐野 貴行	第3分科会
出水市	吉永 雄一	第3分科会
出水市	前田 博志	第3分科会
出水市	益田 茂	第3分科会
出水市	杉川 昭一	第3分科会
出水市	奈良 達子	第3分科会
出水市	橋口 れい子	第3分科会
宇検村	伊村 廣文	第4分科会
宇検村	安田 典典	第2分科会
伊佐市	宮園 成美	
鹿児島市	祝 真一	第1分科会
垂水市	木脇 翔	第1分科会
垂水市	大迫 ちづ子	第1分科会
垂水市	坂元 四郎	第1分科会
垂水市	三園 秀幸	第1分科会
垂水市	岩切 秋義	第1分科会
垂水市	大園 俊一	第1分科会
鹿児島市	栗田 誠一	第1分科会
鹿児島市	荒武 邦明	
東串良町	牧住 優	
東串良町	宮地 敏孝	
東串良町	竹内 真由美	
東串良町	大崎 彰	
中種子町	日高 憲史	第1分科会
中種子町	日高 英紀	第1分科会
中種子町	徳永 和久	第1分科会
中種子町	森坂 望美	第1分科会
瀬戸内町	赤島 啓示	
瀬戸内町	渡辺 誠	
指宿市	久保園 真弘	第1分科会
指宿市	白山 正志	
指宿市	尾辻 健作	
指宿市	今福 洋子	
指宿市	木佐貫 美香	
指宿市	前田 ことみ	
指宿市	内園 光弘	
指宿市	鶴田 末博	第1分科会
指宿市	久保田 泉	
指宿市	川畑 邦子	
指宿市	藏園 幾史	
指宿市	坂本 憲一	
指宿市	吉村 美幸	
指宿市	小川 誠	第2分科会
指宿市	内園 清則	第2分科会
指宿市	川畑 文和	第2分科会
指宿市	赤崎 真奈美	第1分科会
指宿市	前原 まゆみ	第1分科会
指宿市	澤山 健志	第1分科会
指宿市	永吉 ゆりか	第1分科会
指宿市	坂上 信一	第2分科会
指宿市	岡元 裕二	第2分科会
指宿市	八重嶽 美喜子	第1分科会
阿久根市	坂上 鉄夫	
阿久根市	岩切 昌昭	
阿久根市	東 久友	
阿久根市	下路 慶治	
阿久根市	溝上 秀昭	

都道府県名・市町村名	氏名	分科会
阿久根市	中村 昭雄	
阿久根市	牛之濱 宏一	
阿久根市	京田 龍二	
阿久根市	富吉 俊文	
阿久根市	西田 直史	
合計 491名		
那覇市	栗栖 香代子	第3分科会
沖縄県	太田 敏勝	第3分科会
那覇市	仲嶺 眞春	第3分科会
那覇市	島尻 香雄	第3分科会
那覇市	仲村 ミヨ子	第3分科会
那覇市	大湾 芳昭	第3分科会
那覇市	興座 正夫	第3分科会
那覇市	仲村 海	第3分科会
沖縄県	宮城 健	第1分科会
嘉手納町	島袋 靖	第4分科会
嘉手納町	松村 美智子	第1分科会
嘉手納町	玉寄 朝美	第4分科会
嘉手納町	野原 康彦	第2分科会
嘉手納町	金城 一克	第1分科会
嘉手納町	奥間 尚	第4分科会
嘉手納町	大城 朝啓	第1分科会
嘉手納町	古謝 宏樹	第1分科会
嘉手納町	上地 絹代	第2分科会
名護市	大嶺 英生	第1分科会
名護市	翁長 久美子	第1分科会
宜野座村	東 全志	第4分科会
宜野座村	多嘉山 朝安	第4分科会
石垣市	譜久嶺 聡	第2分科会
石垣市	國吉 仁英	第2分科会
今帰仁村	嘉陽 宗敬	第2分科会
今帰仁村	上地 勝則	第2分科会
今帰仁村	我那覇 カヨ子	第2分科会
今帰仁村	金城 正子	第2分科会
今帰仁村	比嘉 均	第2分科会
今帰仁村	奥那嶺 透	第2分科会
北中城村	金城 徹	第1分科会
北中城村	比嘉 一郎	第1分科会
北中城村	大城 隆行	第1分科会
北中城村	大田 宏三	第1分科会
北中城村	村吉 政志	第1分科会
北中城村	安慶名 スミ子	第1分科会
沖繩市	谷本 優希	第1分科会
浦添市安波茶	仲村 和文	第4分科会
浦添市安波茶	仲程 邦博	第2分科会
浦添市安波茶	石川 晴美	第4分科会
浦添市安波茶	翁長 律子	第3分科会
浦添市安波茶	与那覇 龍也	第2分科会
北谷町	星嘉 大智	第4分科会
北谷町	上地 勝樹	第4分科会
北谷町	星川 眞	第4分科会
北谷町	仲來真 盛一	第4分科会
北谷町	池宮城 直美	第4分科会
北谷町	崎原 通孝	第4分科会
北谷町	米須 正太	第4分科会
うるま市	長嶺 由樹	第1分科会
うるま市	瑞慶覧 昭則	第1分科会
うるま市	瑞慶山 良則	第1分科会
金武町	新里 朝治	第4分科会
金武町	仲間 弘美	第4分科会
金武町	與那嶺 望美	第4分科会
金武町	島本 勇人	第4分科会
八重瀬町	新垣 輝	第1分科会
八重瀬町	平田 佳成	第1分科会
八重瀬町	知念 悦子	第1分科会
豊見城市	狩俣 義則	第2分科会
豊見城市	伊敷 章則	第2分科会
糸満市	比嘉 とみ子	第4分科会
糸満市	新田 高子	第4分科会
糸満市	玉城 正敏	第2分科会
糸満市	古川 昌稔	第2分科会
糸満市	玉城 強	第2分科会
糸満市	中村 幸太	第2分科会
金武町	新里 彩香	第4分科会
合計 68名		

鹿児島県実行委員会名簿

役員	氏名	所属	左記役職	地区	市町村
委員長	大田黒 博	鹿児島県スポーツ推進委員協議会	会長	川 薩	薩摩川内市
副委員長	音野 知子	鹿児島県スポーツ推進委員協議会	副会長	鹿児島	鹿児島市
副委員長	東村 学	鹿児島県スポーツ推進委員協議会	副会長	始良	霧島市
委員	今別府 恒紀	鹿児島地区スポーツ推進委員協議会	副会長	鹿児島	鹿児島市
	坂本 憲一	指宿地区スポーツ推進委員協議会	会長	指宿	指宿市
	宮園 義久	川辺地区スポーツ推進委員協議会	会長	川 辺	南さつま市
	徳重 和彦	日置地区スポーツ推進委員協議会	会長	日 置	いちき串木野市
	片平 哲三	川薩地区スポーツ推進委員協議会	会長	川 薩	薩摩川内市
	前田 博志	出水地区スポーツ推進委員協議会	会長	出 水	出水市
	福本 千枝子	伊佐地区スポーツ推進委員会	議長	伊 佐	伊佐市
	潤 政美	始良地区スポーツ推進委員協議会	会長	始良	霧島市
	高田 俊洋	曾於地区スポーツ推進委員協議会	会長	曾 於	志布志市
	堀内 航司	肝属地区スポーツ推進委員協議会	会長	肝 属	鹿屋市
	池下 博俊	熊毛地区スポーツ推進委員協議会	会長	熊 毛	屋久島町
	岡山 嗣夫	大島地区スポーツ推進委員協議会	会長	大 島	奄美市
	有島 恵子	鹿児島県スポーツ推進委員女子部会	副会長	肝 属	肝付町
	長濱 義人	三島村スポーツ推進委員会	会長	鹿児島	三島村
	三川 佳津久	十島村スポーツ推進委員会	会長	鹿児島	十島村
	中原 重信	枕崎市スポーツ推進委員会	会長	川 辺	枕崎市
	山崎 貴美子	南九州市スポーツ推進委員会	会長	川 辺	南九州市
	秋嶺 健	日置市スポーツ推進委員会	会長	日 置	日置市
	花田 博之	薩摩川内市スポーツ推進委員協議会	会長	川 薩	薩摩川内市
	新改 秀作	さつま町スポーツ推進委員協議会	会長	川 薩	さつま町
	下路 慶治	阿久根市スポーツ推進委員会	会長	出 水	阿久根市
	下塩見 浩	長島町スポーツ推進委員協議会	会長	出 水	長島町
	村田 哲哉	始良市スポーツ推進委員会	会長	始良	始良市
	大山 力	湧水町スポーツ推進委員会	会長	始良	湧水町
	西丸 国治	曾於市スポーツ推進委員会	会長	曾 於	曾於市
	牧本 眞一	大崎町スポーツ推進委員会	会長	曾 於	大崎町
	三園 秀幸	垂水市スポーツ推進委員会	会長	肝 属	垂水市
	宮地 敏孝	東串良町スポーツ推進委員会	会長	肝 属	東串良町
	福園 正志	錦江町スポーツ推進委員会	会長	肝 属	錦江町
	花里 友二	南大隅町スポーツ推進委員会	会長	肝 属	南大隅町
	坂元 勇	西之表市スポーツ推進委員会	会長	熊 毛	西之表市
	日高 英紀	中種子町スポーツ推進委員会	会長	熊 毛	中種子町
	牛野 浩光	南種子町スポーツ推進委員会	会長	熊 毛	南種子町
	納 幸輝	大和村スポーツ推進委員会	会長	大 島	大和村
	安田 晃典	宇検村スポーツ推進委員会	会長	大 島	宇検村
	渡辺 誠	瀬戸内町スポーツ推進委員協議会	会長	大 島	瀬戸内町
	池 健夫	龍郷町スポーツ推進委員会	会長	大 島	龍郷町
	横山 健太	喜界町スポーツ推進委員協議会	会長	大 島	喜界町
	野中 貴司	徳之島町スポーツ推進委員協議会	会長	大 島	徳之島町
	安尾 哲志	天城町スポーツ推進委員会	会長	大 島	天城町
田中 雅人	伊仙町スポーツ推進委員会	会長	大 島	伊仙町	
大福 和寛	和泊町スポーツ推進委員会	会長	大 島	和泊町	
藤井 良光	知名町スポーツ推進委員会	会長	大 島	知名町	
大角 周治	与論町スポーツ推進委員連絡協議会	会長	大 島	与論町	
監事	木場 ひとみ	鹿児島県スポーツ推進委員協議会	監事	鹿児島	鹿児島市
	今屋 政市	鹿児島県スポーツ推進委員協議会	監事	日 置	日置市

役職	氏名	所属
事務局長	中山 恭平	課長
事務局次長	神宮司 浩章	課長補佐
事務局員	川口 孝	スポーツ振興係長
	西 淳一	スポーツ振興係
	森 能実	スポーツ振興係
	末永 広樹	スポーツ振興係
	奥 英樹	スポーツ振興係
	下園 伸秀	振興係長
	上村 英樹	振興係
	坂元 孝	市民体育係長
	横山 政文	市民体育係

# 領 収 書

平成 30 年 11 月 15 日

様

金 3,000円 也

ただし、第 59 回全国スポーツ推進委員研究協議会参加費として  
上記金額を領収しました。

第 59 回全国スポーツ推進委員研究協議会  
鹿児島県実行委員会 委員長 大田黒



# 燃ゆる感動 かがしま国体・燃ゆる感動 かがしま大会

第75回国民体育大会

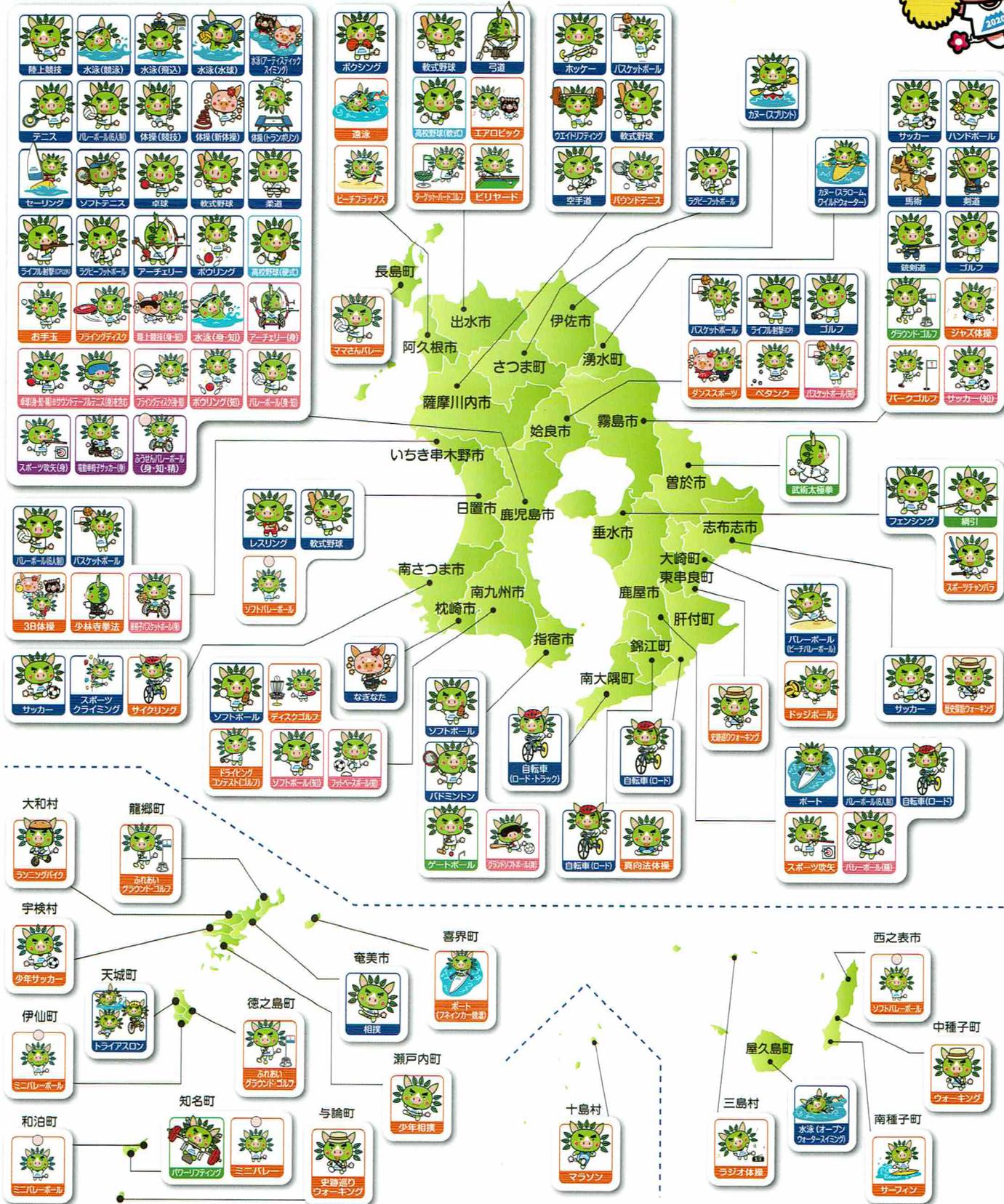
2020年10月3日(土)～10月13日(火)

第20回全国障害者スポーツ大会

2020年10月24日(土)～10月26日(月)

## 会場地マップ

みんなの街で  
応援しよう!!



○燃ゆる感動かがしま国体

■正式競技 (37)

■特別競技 (1)

■公開競技 (5)

■デモンストレーションスポーツ (36)



○燃ゆる感動かがしま大会

■正式競技 (13)

■オープン競技 (3)

身=身体障害者が出場できる競技

知=知的障害者が出場できる競技

精=精神障害者が出場できる競技